

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

法政大学講義録

山田, 三良 / 松岡, 義正

(出版者 / Publisher)

法政大学

(巻 / Volume)

3-33

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

85

(発行年 / Year)

1904-09-08



（明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可）
每月一、四、五、八、十一、十五、十八、廿一日、廿五日、廿八日發行

三十七年度

明治三十七年九月八日發行

第三學年ノ三十三

法政大學講義録

第七百號



法政大學發行

第三學年第三十三號目次

國際私法 (自三三五至三五〇)

法學博士 山田 三良

表紙及目次 一〇頁

破

產

法 (自四七七至五九六)

法學士 松岡 義正

雜報

○高等研究科擔任表○抵當權ノ實行○流水使用ニ關スル水利組合會ノ議決權

合ニ債權讓渡ノ效力發生スルカ如キコトアリテハ甚タ危險ナル狀態ニ陥ルモノナルヲ以テ此ノ如キ一定ノ公示方法ヲ必要トスルニ至レルナリ且此等ノ方法ハ債務者ノ住所地ニ於テ之ヲ爲スモノニシテ又債權行使ノ終局ノ目的ハ債務者ノ住所地タル普通裁判籍ニ訴フルニ在ルヲ以テ債權讓渡ノ第三者ニ對スル效力ハ此立法ノ目的ヨリシテ債務者ノ住所地法ニ依ラサルヘカラストスルナリ我法例第十二條ニ於テハ即チ此主義ヲ認メ債務自體ニ付キ行爲地法主義ヲ認メタルニモ拘ハラヌ其讓渡ノ第三者ニ對スル效力ニ限リ債務者ノ住所地法ニ依ルヘキモノト規定セリ此規定ノ結果ハ歐洲大陸ニ於テモ亦實際上認メラレタル所ナレトモ其理由ニ至リテハ各相異ナル即チ佛伊等ノ學者又ハ英米ノ少數ノ學者ハ債權ノ讓渡ハ債務者ノ住所地法ニ依ルヘキモノトスルハ債權ノ所在地カ債務者ノ住所ナルカ爲メニシテ一般ノ財產權ニ付キ所在地法ヲ適用スル結果トシテ債權ニハ其所在地法タル債務者ノ住所地法ヲ適用スヘキモノト説明スルナリ又獨逸ノ學說ニ於テ債務者ノ住所地法ヲ適用スルハ債權自體ノ準據法カ皆債務者ノ住所地法ニ依ルヘキモノトスルカ故ニ債權讓渡ノ

第三學年 第三十三號 目次

國際私法 (法三三三)

法學博士 山田 三良

編輯者 山田 三良

破産法 (法三三六)

法學士 松岡 義正

雜報
○高等研究所修任表
○託當權ノ實行
○流水使用ニ關スル水租組合
會ノ議決權

090
1904
3-1-33

合ニ債權讓渡ノ效力發生スルカ如キコトアリテハ甚タ危険ナル状態ニ陥ルモノナルヲ以テ此ノ如キ一定ノ公示方法ヲ必要トスルニ至レルナリ且此等ノ方法ハ債務者ノ住所地ニ於テ之ヲ爲スモノニシテ又債權行使ノ終局ノ目的ハ債務者ノ住所タル普通裁判籍ニ訴フルニ在ルヲ以テ債權讓渡ノ第三者ニ對スル效力ハ此立法ノ目的ヨリシテ債務者ノ住所地法ニ依ラサルヘカラストスルナリ我法例第十二條ニ於テハ即チ此主義ヲ認メ債務自體ニ付キ行為地法主義ヲ認メタルニモ拘ハラス其讓渡ノ第三者ニ對スル效力ニ限リ債務者ノ住所地法ニ依ルヘキモノト規定セリ此規定ノ結果ハ歐洲大陸ニ於テモ亦實際上認メラレタル所ナレトモ其理由ニ至リテハ各相異ナル即チ佛伊等ノ學者又ハ英米ノ少數ノ學者ハ債權ノ讓渡ハ債務者ノ住所地法ニ依ルヘキモノトスルハ債權ノ所在地カ債務者ノ住所地ナルカ爲メニシテ一般ノ財產權ニ付キ所在地法ヲ適用スル結果トシテ債權ニハ其所在地法タル債務者ノ住所地法ヲ適用スヘキモノト説明スルナリ又獨逸ノ學說ニ於テ債務者ノ住所地法ヲ適用スルハ債權自體ノ準據法カ皆債務者ノ住所地法ニ依ルヘキモノトスルカ故ニ債權讓渡ノ

國際私法 法律ノ範圍 國際民法 債權編 債權ノ讓渡

第三者ニ對スル效力モ亦債權ノ效力ノ一部分トシテ債權自體ノ準據法即チ債務者ノ住所地法ニ依ルヘキモノト説明スルナリ我法例ニ於テハ既ニ説明シタル如ク債權自體ノ準據法ハ意思明カナラサル場合ニハ行爲地法ニ依ルヘキモノトスルカ故ニ債權ノ讓渡ニ付キ特別ノ規定ヲ設ケタル所以ハ既ニ説明スルカ如キ理由ナリ獨逸ノ學說又ハ佛伊等ノ學說ニ於テ認メラレタル如キ理由ニ出テタルモノニ非ス

第四章 親族編

第一節 婚姻

第一款 婚姻ノ成立條件

婚姻ノ成立ニハ實質的條件ト形式的條件トノ二種類アルコトハ諸君カ親族法ニ於テ既ニ研究セラレタル所ナリ今此等ノ條件ニ付テ準據法ヲ説明スルニ當リ亦之ヲ二ニ分チテ述ヘン

第一項 實質的條件

登ニ實質的條件ト云フハ一私人カ婚姻ヲ爲スコトヲ得ヘキ資格ニシテ何レノ國ニ於テモ結婚者ハ一定ノ結婚年齡ニ達シタルコトヲ必要トスルノミナラス尙ホ一定ノ親族關係又ハ犯罪等ニ因ル婚姻ノ禁止又ハ再婚ノ制限ニ抵觸セザルコトヲ必要トス然ルニ此等ノ條件ニ付テハ各國ノ法律ハ各其規定ヲ異ニシ婚姻年齡ニ付テモ或ハ我國ノ如ク男子ハ十七歳女子ハ十五歳ニ達シタルコトヲ必要トシ或ハ英國法系ノ諸國ノ如ク男子ハ十四歳女子ハ十二歳ニ達スルヲ以テ足ルトスルモノアリ或ハ佛國法系ノ諸國ノ如ク男子ハ十八歳女子ハ十五歳タルヲ要スルモノアリ或ハ獨逸法系ノ諸國ノ如ク男子ハ二十一歳女子ハ十六歳ニ達スルコトヲ必要トスルモノアリ又親族關係ニ付テモ直系血族間ニ相婚姻スルコトヲ禁止スルハ凡テノ文明國ニ共通ノ條件ナレトモ傍系親族間ノ制限ニ付テハ或ハ三親等ニ限ルモノアリ或ハ四親等ニ及ホスモノアリ又其親等ノ計算法ニ付テモ所謂羅馬法主義ト宗教法主義トノ區別アリテ各國ノ禁

制ノ程度大ニ相異ナリ或ハ又犯罪ヲ原因トスル婚姻ノ禁止ニ付テモ諸國ノ法律各其規定ヲ異ニシ又再婚ノ制限ニ付テモ各相異ナリ再婚ヲ認メサル慣習法アリ或ハ之ヲ認ムルモ一定ノ期間再婚ヲ爲スコトヲ禁止スルモノアリ或ハ女子ニ付テノミスル制限ヲ設クル國アリ又男子ニ付テモ離婚後一定ノ期間婚姻ヲ禁止スル國アリ且文明諸國ニ於テハ一夫一婦ノ制度行ハルルモ或ハ多夫一婦ノ制度ヲ認メ或ハ同回教國又ハモルモソ宗徒ノ如ク一夫多妻ノ制度ヲ認ムルカ如キ蠻風尙ホ現存スルカ故ニ若シ國籍ヲ異ニスル者カ相婚姻スル場合ニハ何レノ法律ニ依リテ斯ル成立條件ヲ定ムヘキヤ又縱令同國人カ相婚姻スル場合ニテモ若シ外國ニ於テ婚姻スルトキハ何レノ法律ニ依リテ之ヲ定ムヘキヤノ問題發生ス此點ニ付テ從來ノ學說及ヒ立法例ニ依レハ凡ソ三主義アリ即チ一婚姻舉行地法主義二夫ノ本國法主義三婚姻當事者雙方ノ本國法主義是ナリ

第一 婚姻舉行地法主義

此主義ハ婚姻ヲ以テ契約ト看做スモノニシテ契約ノ成立條件ハ其行爲地ノ法律ニ依リテ定メラルルカ如ク婚姻ニ付テモ亦其成立ニ必要ナル條件ハ其舉行

地ノ法律ニ依リテ之ヲ定ムルモノナリトス然ルニ斯ル主義ハ頗ル其當ヲ得サルモノニシテ婚姻ヲ以テ契約ト看做スル第一ノ誤謬ナリ婚姻ハ雙方ノ合意ヲ必要トシ隨テ契約ニ基ク法律關係ナリト雖モ夫婦ノ關係即チ婚姻關係ハ素ト一種ノ法律制度ニシテ契約關係ニ非ス故ニ當事者ノ合意ニ依リテ婚姻ニ條件ヲ附シ又ハ其效力ヲ制限スルコトヲ許サス元來婚姻ハ國家ノ基礎タル一家ノ組織ニ關スル制度ニシテ各國カ皆其國民ノ爲メニ斯ル制度ヲ認ムルモノナレハ其國民ハ內國ニ於テ婚姻スル場合ニ於テモ又外國ニ於テ婚姻スル場合ニ於テモ皆其國ノ婚姻法ニ從フヘキコトヲ必要トシ其國ノ臣民ニ付テハ絶對的ニ強行スヘキ規定ト看做セリ隨テ縱令外國ニ於テ婚姻スル場合ニ其舉行地ノ法律ニ於テ必要トスル成立條件ハ具備スルモ其本國ノ法律ニ從ハサル限ハ其本國ヨリ云フトキハ婚姻關係ハ成立セサルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ舉行地法ニ於テ其外國人ノ本國ニ於テ無効トスル婚姻ヲ有效ト認ムルカ如キハ他國ノ臣民主權ヲ害スル結果ヲ免レサルモノニシテ甚タ不當ナルモノト謂ハサルヘカラス故ニ斯ル主義ハ古代ノ社會ニ於テ各國民ノ交通往來カ尙

本發達セザル時代ニ於テ一國內ニ於テ婚姻スル者ハ概テ内國人ノミナラシ社會ニ行ハレタル原則ニシテ現今ノ社會ニ於テハ既ニ之ヲ行フコトヲ得サルモノト爲ルニ至レリト謂フヘシ現今ノ立法例ニ於テハ唯南米及ヒ北米ノ二三ノ國ニ於テノミ今尙ホ此ノ如キ主義行ハルルノミ

第二 夫ノ本國法主義

婚姻關係ハ何レノ國ニ於テモ夫ヲ主トスルモノニシテ妻ハ婚姻ニ因リテ夫ノ國籍ヲ取得スヘキモノナルカ故ニ婚姻カ有效ニ成立スルヤ否ヤノ問題ハ皆夫ノ本國法ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス此說ハ從來歐洲大陸ニ行ハレタルモ深ク之ヲ考フルトキハ夫婦ノ關係成立シタル上ニ於テハ總テ夫ノ本國法ニ依ルヘキモノナレトモ婚姻關係ノ成立スヘキヤ否ヤヲ問題トスル時期ニ於テハ將來夫ト爲ルヘキ男子ト妻ト爲ルヘキ女子トハ各其本國法ヲ有スルモノニシテ夫ト爲ルヘキ男子ト妻ト爲ルヘキ女子トハ各其本國法ニ依リテ定ムルカ如キハ甚タ不當ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ若シ夫ノ本國法ニ於テ有效ナル場合ナルモ妻ト爲ルヘキ本國法ニ於テ有效條件ヲ

備ヘタル場合ニ於テハ女子ノ本國ヨリ云ヘハ尙ホ其國ノ臣民ニシテ其國籍ヲ喪失セザルモノナレハ斯ル婚姻ハ認メラレサルモノナリ然ルニ婚姻關係ハ唯一ノ關係ナルヲ以テ何レカ一方ノ本國法ニ於テ無効ナル婚姻ハ何レノ國ニ於テモ之ヲ無効トセザルヘカラサル必要アルカ故ニ此主義ノ如ク當事者一方ノ本國法ニ依ルコトヲ得サルモノトス

第三 當事者雙方ノ本國法主義

此說ハ婚姻ノ成立條件ハ其當事者雙方ニ付テ各其本國法ノ條件ヲ具備スルコトヲ必要トス而シテ婚姻ノ成立條件ハ特定ノ人ニ對スル關係ニ依リテ定マルモノナルカ故ニ夫ト爲ルヘキ男子ニ付テ云ヘハ唯一般の條件ヲ具備スルノミナラス其妻ト爲ルヘキ女子ニ對シテ結婚スルコトヲ得ヘキ關係の必要條件ヲ其本國法ニ依リテ具備スルコトヲ必要トス又妻ト爲ルヘキ女子ニ付テモ其夫ト爲ルヘキ男子ニ對スル關係ニ於テ有效ニ婚姻ヲ爲シ得ヘキ條件ヲ其本國法ニ依リテ具備スルコトヲ必要トス此ノ如ク當事者雙方各其本國法ニ依リテ條件ヲ具備スルコトヲ必要トスル所以ハ既ニ述ヘタルカ如ク婚姻成立ノ當初

ニ於テハ當事者雙方カ各獨立ノ本國法ヲ有スルカ故ナリ。尙ホ終ニ一言スヘキコトハ婚姻ハ雙方ノ當事者ノ本國法ニ認ムル條件カ具備スルトキハ如何ナル場合ニ於テモ尙ホ有效ニ我國ニ於テ婚姻ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤト云フニ若シ其本國法ニ於テ認メタル成立條件カ我國ノ善良ノ風俗ニ反シ又ハ公ノ秩序ニ關スル性質ノモノナルトキハ我國ニ於テ其成立ヲ認メサルモノニシテ斯ル者ハ我國ニ於テ婚姻ヲ爲スノ權利ナキモノト謂ハサルヘカラス例ヘハ一夫多妻ヲ有效トスル國ノ人民カ更ニ外國人ト又ハ其同國人ト我國ニ於テ婚姻セントスル場合ニハ我法律ヨリ云フトキハ重婚ノ禁制ヲ犯スヘキモノナルカ故ニ斯ル婚姻ハ如何ニ當事者ノ本國法ニ於テ其成立條件ヲ充タスモ尙ホ之ヲ認ムルコトヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス

以上述ヘタル主義ハ現今歐洲大陸諸國ニ於テ或ハ立法上或ハ裁判例ノ實際上ニ於テ治ク認メラレタル主義ニシテ尙ホ昨年成立シタル海牙ニ於ケル國際私法條約ニ於テモ此點ニ關シ我法例第十三條ノ規定ト同一ノ原則ヲ採用シ歐洲大陸十四箇國間ニ條約トシテ之ヲ認メントスルニ至レリ

第二項 形式的要件

婚姻ハ最も重要ナル法律行為トシテ何レノ國ニ於テモ一定ノ方式ヲ要セサルハナシ然レトモ其方式ニ付テハ或ハ宗教上ノ儀式ヲ必要トスルモノアリ或ハ民事上ノ方式即チ身分取扱人ノ立會若クハ戶籍ノ登錄ヲ必要トスルモノアリ此ノ如ク諸國ノ法律カ各相異ナル結果トシテ婚姻ノ方式ハ何レノ法律ニ依ルヘキヤノ問題發生ス前ニ述ヘタルカ如ク法律行為ノ方式ハ其行為自體ノ準據法ニ從フヲ以テ原則トスト雖モ婚姻ニ付テハ其準據法ハ當事者雙方ノ本國法ナルカ故ニ若シ其國籍ヲ異ニスルトキハ右ノ原則ニ從ヘハ何レノ本國法ニ依ルヘキモノナリヤ之ヲ定ムルコト困難ナリ且若シ國籍ヲ同シクスル者ナルモ其本國法ノ必要トスル方式ハ必スシモ外國ニ於テ之ヲ行フコトヲ得ヘキモノニ非ス加之婚姻ニ付テ一定ノ方式ヲ必要トスル所以ハ其國ノ善良ノ風俗社會ノ秩序ト相待テ考フヘキモノニシテ一男一女カ互ニ夫婦ト爲ルヘキコトヲ合意スルノミナラス社會公衆ニ對シテ神聖ナル婚姻ヲ爲スヘキノ意思ヲ公ニ

セシムルノ必要ヨリ出テタルモノナルヲ以テ婚姻舉行地ニ於テハ其本國法ノ方式如何ニ拘ハラヌ必ス自國即チ舉行地ノ方式ニ依ラシムヘキ必要アリトス故ニ婚姻ノ方式ニ付テハ一般法律行為ノ方式ト異ナリ行為地法即チ婚姻舉行地ノ方式ニ依ルヘキヲ以テ原則トス且舉行地ノ法律ニ從ヒタル婚姻ハ何レノ國ニ於テモ方式上之ヲ有效ト認ムルコト必要ナリ我法例第十三條ニ於テモ婚姻ノ方式ハ舉行地ノ法律ニ依ルト規定シ法例第七條ノ例外タルコトヲ明カセモリ此原則ハ海牙ニ於ケル婚姻ニ關スル國際私法條約第五條ニ於テモ亦認メラレタル所ニシテ今參考ノ爲メ左ニ該條文ヲ摘示セシム

第五條 婚姻舉行地ノ法律ニ從ヒテ舉行シタル婚姻ハ其方式ニ關シテハ何處ニ於テモ之ヲ有效ナリト認ム

但宗教上ノ舉行式ヲ必要トスル諸國ハ其國民カ斯ル規定ニ從ハスシテ外國ニ於テ締結シタル婚姻ヲ有效ト認シサルコトヲ得ルモノトス

婚姻ノ公示催告ニ關シテハ本國法ノ規定ハ之ヲ遵守スルコトヲ要ス但此公示催告ノ欠缺ハ之ヲ以テ法律ノ規定ニ違反シタルモノトスル國ニ於テ

婚姻ノ無効ヲ惹起スルモノトス

婚姻證書ノ公正原本ハ各配偶者ノ本國官廳ニ之ヲ送致スルヲ要ス

婚姻ノ方式ニ付テ以上述ヘタルカ如ク婚姻舉行地ノ法律ニ依ルヘキモノトスルトキハ内國人カ外國ニ於テ婚姻スル場合ニ其國ノ方式ニ從フコトヲ得サルカ如キ不便發生スルカ故ニ近世諸國ノ國際慣例ニ於テハ外國ニ駐在スル領事又ハ公使ハ内國ノ身分取扱官吏ニ代リ本國ノ法律ノ必要トスル方式ヲ其面前ニ於テ爲シ得ルコトヲ認ムルヲ以テ例トセリ我民法第七百七十七條ニ於テモ帝國ノ公使又ハ領事ハ外國ニ於テ日本人カ相互ニ婚姻シ或ハ日本人カ外國人ト婚姻スル場合ニ於テハ我法律ノ必要トスル方式ヲ行ハシメ得ルモノトセリ

法例第十三條第二項ニ於テモ亦斯ル例外ヲ認メ縱令舉行地ノ法律ニ依ラザルモ我國ノ公使又ハ領事ノ面前ニ於テ爲シタル婚姻ハ有效ト認メタリ又我國ニ駐在スル外國領事ニテモ例ニハ獨逸ノ領事ハ耳義ノ領事ノ如キ領事職務條約ヲ以テ其本國臣民カ我國ニ於テ舉行スル婚姻ニ付テハ其本國ノ方式ニ依ラシムルヲ得ルコトヲ認メタリ海牙ノ國際私法條約第六條ニ於テモ亦之ト同一

原則ヲ採用シ舉行地法ノ方式ノ例外ヲ認メタリ第六條ニ依リテ

第六條 本國法ニ從ヒ外交官又ハ領事ノ面前ニ於テ舉行シタル婚姻ハ其方

式ニ關シテハ何レノ地ニ於テモ之ヲ有效ナリト認ム但婚姻豫約者雙方カ

結婚ヲ舉行シタル國ノ臣民ニアラサルコト及ヒ該國カ之ニ反對セザルコ

トヲ要ス該國ハ前婚ノ存在セル爲メ又ハ宗教上ノ故障ノ爲メニ其法律ニ

違反スルモノトスル婚姻ニ付テハ之ニ反對スルコトヲ得ス

即チ右ノ條約ニ依ルトキハ斯ル場合ニハ結婚者雙方カ其駐在國ノ臣民ニ非テ

ルコトヲ必要トス又領事職務條約等ノ特別ノ規定存セザル場合ニ於テハ其駐

在國カ斯ル方式ヲ行フコトニ付キ反對セザルコトヲ必要トス

第二款 婚姻ノ效力

婚姻ハ其夫タリ妻タル者ニ對シ身分上ノ效果ヲ發生スルノミナラス又其當事者ノ財產權ニ付テモ一大效力ヲ及ホスヘキモノナリ故ニ婚姻ノ效力ハ之ヲ二ニ分チ先ツ第一ニ身上ニ及ホス效力ト第二ニ財產ニ及ホス效力トヲ説明セザ

ルヘカラス

第一 夫婦ノ身上ニ及ホス效力

婚姻ノ夫婦ノ身上ニ及ホス效力ニ付テハ屬人法ニ依ルヘキコトハ一般ニ認メ

ラルル所ナリト雖モ屬人法ニ本國法主義ト住所地法主義トノ二種アルカ如ク

此場合ニ於テモ亦住所地法ニ依ルヘシトスルモノト本國法ニ依ルヘシトスル

モノトノ二アリ且本國法ニ依ルヘキモノトスル中ニモ夫婦ノ共通ノ本國法ニ

依ルヘシトスルモノト婚姻當時ノ夫ノ本國法ニ依ルヘシトスルモノト更ニ單

純ニ夫ノ本國法ニ依ルヘシトスルモノトノ三種ノ區別アリ

婚姻ノ效力ヲ住所地法主義ニ依リテ定メントスル者ハ他ノ屬人法ニ付テヨリ

モ一層大ナル理由ヲ有スルモノトシ夫婦ノ關係ハ其住所地ノ法律ニ依リテ定

ムルヲ以テ極メテ正當ナリト主張セリ此點ニ付テハ唯リ英米ノ住所地法主義

ヲ採ル諸國ニ於テノミナラス歐洲大陸ノ學者中ニ於テモ尙ホ斯ル說ヲ爲ス者

少シトモ然レトモ婚姻ノ身上ニ及ホス效力ハ國籍ト最モ重大ナル關係ヲ有

スルモノニシテ且永久的終身的ノ性質ヲ有スルモノナルカ故ニ斯ル學生ノ關

係ヲ規定スルモノハ其者ニ對シテ臣民主權ヲ及ホシ得ル國ノ法律ナラサルヘ
 カラサルハ明カナリ然リト雖モ若シ夫婦國籍ヲ異ニスルトキハ如何ト云フニ
 我國ノ如キ社會ニ於テハ勿論縱令歐米諸國ニ於テモ夫ハ夫婦ノ關係ノ主宰者
 ニシテ妻ハ夫ニ從フヘキ義務ヲ有スルモノナレハ婚姻關係ノ主ナル者ノ本國
 法ニ依ルヲ以テ正當ト謂ハサルヘカラス隨テ共通ノ本國法主義ヲ主張スル者
 ハ徒ニ理論ニ奔リタルモノト謂フヲ免レズ然ラハ婚姻ノ斯ル效力ハ結婚當時
 ノ夫ノ本國法ニ依ルヲ以テ正當ナルカ如シト雖モ既ニ夫婦カ國籍ヲ變更シタ
 ル以上ハ從來ノ本國法ニ於テ如何ナル效力ヲ認メラレタルモ若シ現在ノ本國
 法ニ依リ斯ル效力ヲ認メサル場合ニ於テハ他國ハ舊國籍ノ本國法ヲ認ムヘカ
 ラサルモノナルカ故ニ何レノ場合ニ於テモ婚姻ノ效力ハ國籍ヲ變更ト共ニ自
 ラ變更スヘキモノト解セザルヘカラズ隨テ我法例第十四條ニ於テハ單純ニ夫
 ノ本國法ニ依ルヘキモノト規定シ夫ノ現在ノ本國法ニ依ルヘキコトヲ明カニ
 セリ

ニ關スルコトヲ總稱スルモノニシテ隨テ同居ノ權利義務又ハ夫婦間扶養ノ權
 利義務殊ニ妻ノ能力ノ制限ヲモ意味ス隨テ妻ハ如何ナル法律行為ニ付テ獨立
 ノ能力者タルモノナリヤ又如何ナル法律行為ニ付テ夫ヲ代理スル權限ヲ有ス
 ルモノナルヤハ皆婚姻ノ效力トシテ夫ノ現在ノ本國法ニ依リ夫之ヲ定ムヘキ
 モノナリ然レトモ若シ此ノ如キモノトスルトキハ茲ニ一ノ問題ヲ發生ス即チ
 法例第三條第二項ノ例外ハ法例第十四條ノ場合ニモ適用セラレヘキモノナリ
 キヤヤ換言スレバ妻ハ夫ノ本國法ニ從ヒ能力ヲ有セザル者ナルモ若シ我法律
 ニ從ヘハ妻ハ能力者タルヘキ場合ニシテ且其法律行為カ我國ニ於テ爲サレ
 ル場合ハ之ヲ有效ナル法律行為ト看做スヘキヤ否ヤノ問題ナリ此問題ハ妻ノ
 能力者タル無能力カ法例第三條第一項ニ包含セラレタルモノト解スレハ固
 爭テキモ若シ妻ノ無能力カ婚姻ノ效力タルモノト認ムルトキハ法例第十四
 條ハ一般的ニ之ヲ規定シ斯ル例外ヲ認メサルヲ以テ此場合ニ何レノ規定ニ從
 フヘキヤ甚タ疑ハシキ問題ナリ予ノ解スル所ニ據レバ我法例第三條第二項ノ
 例外ハ第十四條ノ妻ノ無能力ニ付テモ尚ホ適用セラレヘキモノト信ス其理由

國際私法 法律ノ範圍 國際民法 親族編 婚姻

トスル所ハ第十四條ハ唯婚姻ノ效力トシテ妻ノ能力制限ノ事ヲ規定シタルル
 ミニシテ斯ル妻カ我國ニ於テ法律行為ヲ爲スヘキ場合ヲ豫想シタルモノニ非
 ス且第三條第二項ハ廣ク當事者ノ本國法ニ從ヒ能力ヲ有セサル者カ我國ニ於
 テ爲スコトヲ得ヘキ法律行為ニ付テ內國取引保護ノ必要ヨリ出テタル本國法
 適用ノ制限ナルカ故ニ妻モ亦此制限ニ從ハシムルコトハ少クトモ立法者ノ精
 神ヲラント推測セラズルヲ以テナリ
 以上述ヘタル婚姻ノ效力ニ付テハ法例第十四條第二項ニ依レハ外國人カ日
 人ノ女戸主ト入夫婚姻ヲ爲シ又ハ日本人ノ婿養子ト爲リタル場合ハ夫ノ本國
 法ニ依ル代リニ其婚姻ノ效力ハ日本ノ法律ニ依ルヘキモノト規定セリ然レト
 モ此規定ハ唯一片ノ注意タルニ過キスシテ畢竟斯ル規定ナキモ同一ノ結果タ
 リ何トナレハ外國人カ入夫ト爲リ又ハ婿養子ト爲ル場合ハ入夫婚姻又ハ養子
 ト同時ニ我國籍ヲ取得スルモノニシテ隨テ斯ル婚姻ノ場合ハ其夫ノ本國法カ
 即チ我日本ノ法律ナレハナリ唯此ノ如キ規定ヲ設ケタル所以ハ入夫婚姻前又
 ハ婿養子ト爲ル瞬間ニ於テハ外國人タルモノナレハ斯ル誤解ヲ生スルコトヲ

慮リタル結果ニ過キス然レトモ此場合ニ於テモ理論上無用ノ規定ナルコトハ
 疑ヲ容レズ
 第二ハ夫婦ノ財産ニ及ホス婚姻ノ效力ハ
 夫婦ノ財産殊ニ妻ノ財産ハ古來夫ノ財産ニ屬シタルモノニシテ夫ハ婚姻ニ依
 リ妻ノ財産ノ全部ヲ取得スルヲ以テ一般ノ原則トモリ然ルニ社會益、進歩スル
 ニ隨ヒ婚姻關係ハ精神的、身體的ノ結合關係ニシテ財産的關係ニ非ナルコト漸
 ク認メラルルニ隨ヒ妻ハ結婚後ト雖モ尙ホ獨立ノ主體トシテ自己ノ特有財産
 ヲ所有スルコトヲ認メラルルニ至レリ然レトモ如何ナル特有財産制ヲ認メタ
 ル國ニテモ尙ホ妻ハ全ク獨立シテ財産ヲ有スルコトヲ得ルモノニ非スシテ夫
 ハ之カ管理權又ハ利益權ヲ有スルヲ以テ原則トス此ノ如ク夫婦相互ノ財産制
 度ハ或ハ契約ニ依リテ定マルモノトスルアリ或ハ契約ナキ場合ニハ法律ノ規
 定ニ依リテ定マルモノトスルアリ又其契約自由ノ範圍或ハ法定財産制ノ制限
 等ハ諸國ノ法律ニ於テ各相異ナルカ故ニ何レノ法律ニ從テ斯ル財産制ヲ定ム
 ヘキヤノ問題發生ス此問題ハ之ヲ契約財産制ト法定財産制トニ區別シテ說明

更スルコトニ依リテ其財産制度ヲ變更スルコトヲ得ルモノ大抵ヲ以テ多ク夫ノ不正ナル意思ヨリシテ唯妻ノ財産ヲ自己ノ有ニ歸セシメンカ爲メニ國籍ヲ變更スルカ如キコトヲ發生スル弊害アリテ婚姻ノ當初ニ於ケル目的ニ反スルカ如キ結果ヲ來スヘシ何トナレハ夫婦カ婚姻ノ當事ニ財産契約ヲ爲サウラシ所以ノモノハ其當時ノ夫ノ本國法ニ依リ認メラレタル法定財産制ニ從フヘキモノト解釋シタルカ爲ニシテ法定財産制ハ即チ當時者雙方ノ默約タリシモノナレハ之ヲ條件トシテ婚姻シタルニモ拘ハラス其後ニ至リ多クハ夫ノ意思ノミニ出テタル國籍ノ變更ニ依リテ斯ル財産關係ヲ變更スルカ如キコトヲ認ムルハ甚タ不當ナリト謂ハサルヘカラス隨テ我法例及ヒ獨逸民法施行法等ニ於テハ法定財産制ニテモ尙ホ契約財産制ト同シク婚姻當初ノ財産關係ハ夫婦ノ終身間一定不變ニシテ國籍又ハ住所ノ變更ノ爲メニ何等ノ影響ヲモ受ケテアルモノトセリ

第三款 離婚

婚姻ノ解消原因ニ付テハ婚姻ノ效力トシテ夫ノ本國法ニ依ルヘキモノナレトモ離婚ニ付テハ未タ一概ニ論スルコトヲ得サルモノニシテ離婚ニ關スル特別ノ準據法ヲ定メサルヘカラス此問題ヲ論定スルニ當リ唯リ離婚ノ原因ニ付テノミナラズ離婚ノ管轄權ニ付テモ亦少シク説明ヲ要ス今之ヲ二ニ分チ

第一 離婚ノ管轄權

第二 離婚ノ原因

第一 離婚ノ管轄權

第一 離婚ノ管轄權

外國人ノ離婚ニ付テハ我裁判所ハ如何ナル程度ニ於テ管轄權ヲ有スルヤト云フニ我民事訴訟法ノ規定ニ依レハ我國ニ住所又ハ居所ヲ有スル外國人ニ付テハ尙ホ管轄權ヲ有スヘキモノト規定セリ然レトモ歐洲諸國間ノ離婚及ヒ別居ニ關スル海牙國際私法條約第五條ニ依レハ離婚ノ管轄權ハ第一ニ夫婦ノ本國法ニ從ヒ管轄權ヲ有スル裁判所トシ第二ニ管轄權ヲ有スルハ夫婦カ住所ヲ有スル地ノ裁判所ニシテ若シ夫婦住所ヲ異ニスルトキハ被告ノ住所ノ裁判所カ

管轄權ヲ有スルモノトセリ即チ單純ノ居所地ノ裁判管轄權ハ之ヲ認メタルヲ以テ原則トセリ元來離婚ノ管轄權ハ其本國ノ裁判所ニ專屬スヘキモノニシテ外國裁判所カ之ヲ管轄スヘキコトハ素ト便宜上ノ必要ヨリ出ラタル例外ノ規定ナルカ故ニ我民事訴訟法ニ認メタルカ如キ居所地ノ管轄權ハ恐クハ廣キニ失スルモノト謂ハサルヲ得ス

第二ノ離婚ノ原因

若シ我國ノ裁判所カ外國人ノ離婚ヲ宣告シ得ヘキ場合ニ離婚ノ原因ハ何レノ法律ニ依ルヘキヤノ問題發生ス元來離婚ノ原因ハ諸國ノ法律各々相異ナリ羅馬舊教ノ諸國ニ於テハ婚姻ハ神聖ナル行爲ニシテ神意ニ因リテ成リタルモノトシ法律上之ヲ解消スルコトヲ得サルモノトセリ或ハ其他ノ國ニ於テハ一定ノ原因ヲ限リ離婚ヲ認ムルモノアリ我國ニ於テハ離婚ハ從來頗ル自由ナリシカ現行ノ法律即チ民法ニ依レハ一定ノ原因アル場合ニ限リ離婚ヲ許セリ又歐洲諸國ニ於テ離婚ヲ許ササル國ニ於テハ或ハ之ヲ許ス國ニ於テモ離婚以外ニ尙ホ別居ノ制度ヲ認ムルモノアリ此ノ如ク離婚ノ原因ニ至リテハ各國ノ規定相

同シカラス又我法律ニ認メタル別居ノ制度アル場合ニ我裁判所ハ何レノ法律ニ依リテ離婚ヲ宣告シ或ハ別居ヲ宣告シ得ルヤノ問題ヲ決セサルヘカラス之ニ關シ凡ソ三種ノ重モナル主義アリ左ニ之ヲ列舉シ其當否ヲ簡單ニ論定スヘシ

(一) 法廷地法主義 此主義ニ依レハ離婚ノ原因ハ皆善良ノ風俗ニ關シ公ノ秩序ニ關スルモノナルカ故ニ離婚ヲ許スヘキヤ否ヤハ主トシテ法廷地法ニ依ラサルヘカラスト主張ス此主義ハ離婚ノ原因カ善良ノ風俗公ノ秩序ニ關スルモノナルコトニ付テハ極メテ正當ニシテ法廷地法ニ依リテ離婚ヲ認メタル場合ニ於テハ如何ナル場合ニテモ離婚ヲ宣告シ得サルモノト謂ハサルヘカラス然レトモ此主義ハ他ノ一方ニ於テ唯法廷地法ノ認メタル原因アルトキハ縱令本國法ニ於テハ離婚ヲ認メタル場合ニ於テモ尙ホ離婚ヲ宣告シ得ルトスルハ他國ノ臣民主權ヲ害スルノ虞アリ甚タ不當ナルモノト謂ハサルヘカラス

(二) 夫ノ本國法主義 此主義ニ依レハ離婚ハ夫婦ノ關係ヲ解消スルノミナラス國籍ノ變更ヲ來スモノナルヲ以テ專ラ其本國法ニ依リテ之カ原因ヲ定メサ

ルヘカラストスルナリ此主義ハ本國法ノ認メタル原因ニ對シ外國ノ裁判所カ離婚ヲ宣告スルコトノ不當ナルコトヲ明カニスル點ニ付テハ正當ナリト雖モ本國法ノ認ムル原因アルモ此一事ニ依リテ直チニ離婚ヲ宣告シ得サルコトハ法廷地法主義ノ既ニ證明スル所ナリ故ニ茲ニ第三ノ折衷主義ヲ生シタリ

(三) 折衷主義ハ此主義ハ最モ正當ナル主義ニシテ離婚ノ原因ハ其本國法及ヒ訴訟地ノ法律カ共ニ之ヲ認ムル場合ニ限リ離婚ヲ宣告シ得ルモノトス即チ不法行為ノ場合ニ行為地法ト法廷地法ト相共通スルヲ要スルカ如ク離婚ノ原因カ其本國法ニ於テ認メラレタルコトヲ要シ且法廷地法タル我日本ノ法律ニ依ルモ亦離婚ノ原因タル場合ニ限リ離婚ヲ宣告シ得ルモノトセリ茲ニ所謂本國法トハ夫ノ婚姻當時ノ本國法又ハ訴訟當時ノ本國法ヲ謂フニ非スシテ離婚ノ原因タル事實ノ發生シタル當時ノ夫ノ本國法ヲ謂フモノトス即チ此主義ハ我法例第十六條ニ於テ採用シタル主義ニシテ海牙國際私法條約ニ於テモ亦之ヲ認メタリ即チ左ノ如シ

第一條 夫婦ハ其本國法及ヒ訴訟提起地ノ法律カ共ニ離婚ヲ許ス場合ニ於

テ夫ニ離婚ノ訴ヲ提起スルコトヲ得

別居ニ付テモ亦同シ

第二條 判決ヲ下スヘキ事件カ夫婦ノ本國法及ヒ訴訟提起地ノ法律ニ從ヒ

何レモ離婚ノ理由アリトセラルルトキニ限リ離婚ヲ宣告スルコトヲ得

別居ニ付テモ亦同シ

第三條 第一條及第二條ノ規定ニ拘ラス若シ訴訟提起地ノ法律カ本國法ニ

ノミ從フコトヲ規定シ又ハ之ヲ許シタルトキハ本國法ノミニ依ル

第四條 前三條ニ揭ケタル本國法ハ夫婦ノ雙方又ハ其一方カ他國ノ國籍ヲ有セシ間ニ發生シタル事實ヲ以テ離婚又ハ別居ノ原因ト爲サンカ爲メニ之ヲ援用スルコトヲ得ス

是ニ由リテ之ヲ觀レハ海牙條約第四條モ亦我法例第十六條ト同シク離婚ニ付テハ其原因タル事實發生當時ノ本國法主義ヲ採用セシコト明カナリ蓋シ若シ此ノ如クセサルトキハ離婚ノ原因既ニ發生シタル後夫ハ漫ニ其國籍ヲ變更シテ離婚ノ原因一層困難ナル國或ハ一層容易ナル國ノ法律ヲ自由ニ選定スルニ

國際私法目次

國家ノ領土權

一〇五

第一章

商人前自由權

八五

緒論

第一章

商人前自由權

八五

第一章 國際私法ノ本質

八五

第一節 國際私法ノ意義

八五

第二節 國際私法ト國際法トノ關係

六

第三節 國際私法ト内外實質法トノ關係

九

第二章 國際私法ノ名稱

一一

第三章 國際私法學ノ沿革

二〇

第一節 法則類別說

二二

第二節 獨逸ノ學說

二九

第三節 伊太利ノ學說

三九

第四節 英米ノ學說

四三

第四章 國際私法の立法ノ沿革

四四

國際私法目次

二

國際私法目次

第一章 國家ノ保護請求權

一〇五

第二章 外國人ノ地位ノ現在

八四

第一節 公權

八四

第一項 簡人的自由權

八五

第二節 國家ノ保護請求權

一〇五

第一編 外國人ノ地位

六五

第一章 外國人ノ地位ノ沿革

六六

第二章 外國人ノ地位ノ現在

八四

第一節 公權

八四

第二節 國家ノ保護請求權

一〇五

第一編 國內的立法ノ沿革

四四

第一章 實質的沿革

四五

第二章 形式的沿革(法典體裁上ノ沿革)

四六

第三章 諸國國際私法ノ法系

五〇

第二節 國際的立法ノ沿革

五二

第五章 國際私法研究ノ方法及範圍

五四

第一節 研究ノ方法

五四

第二節 研究ノ範圍

六〇

第三項 參政權

一〇八

第四項 外國人ノ公法上ノ義務

一〇九

第二節 私權

一一一

第一項 財產權

一一三

第二項 親族權

一一三

第三項 相續權

一一四

第三章 外國法人ノ地位

一二五

第一節 外國法人ノ意義

一二六

第二節 外國法人ノ存在

一三四

第三節 外國法人ノ權利

一三七

第二編 國籍及ニ國籍ノ抵觸

一四〇

第一章 國籍ノ取得

一四二

第一節 生來ノ國籍取得

一四二

第二節 傳來ノ國籍取得

一四九

第二款 種族法上ノ原因	一五〇
第二款 歸化	一五三
第一款 第一項 歸化ノ意義	一五三
第二款 第二項 歸化ノ條件	一五六
第三款 第三項 歸化ノ效力	一六二
第四款 領地割讓ノ結果	一七〇
第二章 國籍ノ喪失	一七八
第一節 國籍喪失ノ原因	一七九
第二節 國籍喪失ノ制限	一八四
第三節 國籍喪失ノ效果	一八五
第三章 國籍ノ回復	一八八
第一節 國籍回復ノ條件	一八九
第二節 國籍回復ノ效力	一九三
第四章 國籍ノ抵觸	一九五

第一節 國籍抵觸ノ原因	一九七
第二項 積極的國籍ノ抵觸	一九七
第三項 消極的國籍ノ抵觸	二〇三
第二節 國籍ノ抵觸ニ適用スルキ原則	二〇四
第一項 積極的國籍ノ抵觸ニ適用スルキ原則	二〇五
第二項 消極的國籍ノ抵觸ニ適用スルキ原則	二一〇
第三項 一國數法	二六一
第五章 住所及ヒ住所ノ抵觸	二一四
第三編 法律ノ抵觸	二一九
緒言	二一九
第一卷 總論	二二〇
第二章 外國法ノ適用	二二〇
第一節 外國法適用ノ意義及ヒ性質	二二〇
第二節 外國法ノ證明	二二三

第三節 外國法ヲ不當ニ適用シタル判決ハ上告ノ理由……………二二〇

第一節 ト爲ルヤ否ヤ……………二二〇

第二章 外國法適用ノ制限……………二二三

第三章 反致法……………二四〇

第二卷 國際民法……………二四九

第二章 國際民法……………二四九

第一章 總則編……………二四九

第一節 能力……………二四九

第二節 禁治產及ヒ準禁治產……………二六一

第一項 禁治產ノ管理權……………二六四

第二項 禁治產ノ原因……………二六四

第三項 禁治產宣告ノ效力……………二六八

第三節 失踪……………二七〇

第一項 失踪宣告ノ管理權……………二七三

第二項 失踪宣告ノ條件及ヒ效力……………二七七

國際私法

第三項

外國ニ於テ宣告シタル失踪ノ效力……………二七八

第四節

法律行爲ノ方式……………二八〇

第二章

物權編……………二八六

第一節

總論……………二八六

第二節

各論……………二九一

第三章

債權編……………三〇〇

第一節

總論……………三〇〇

第二節

法律行爲殊ニ契約ヨリ發生スル債權……………三〇二

第三節

事務管理不當利得及ヒ不法行爲ヨリ發生スル債權……………三一三

第四節

債權ノ保護……………三二〇

第四章

親族編……………三二六

第一節

二婚姻……………三二六

第一款 婚姻ノ成立條件……………三二六

第一章 第一項實質的條件……………三二七

第二章 第二項形式的條件……………三三三

第三章 第三款附隨婚約……………三三六

第四章 第三款附隨離婚……………三四四

第五章 附屬……………三五一

第六章 事實者無不當附屬……………三〇二

第七章 附屬……………三〇二

第八章 附屬……………三〇〇

第九章 附屬……………二八六

第十章 附屬……………二八六

第十一章 附屬……………二八六

第十二章 附屬……………二八六

第十三章 附屬……………二八六

國際私法目次

第一章 附屬……………二八六

第二章 附屬……………二八六

第三章 附屬……………二八六

第四章 附屬……………二八六

第五章 附屬……………二八六

第六章 附屬……………二八六

第七章 附屬……………二八六

第八章 附屬……………二八六

第九章 附屬……………二八六

第十章 附屬……………二八六

第十一章 附屬……………二八六

第十二章 附屬……………二八六

第十三章 附屬……………二八六

第十四章 附屬……………二八六

第十五章 附屬……………二八六

第十六章 附屬……………二八六

第十七章 附屬……………二八六

第十八章 附屬……………二八六

第十九章 附屬……………二八六

第二十章 附屬……………二八六

第二十一章 附屬……………二八六

第二十二章 附屬……………二八六

第二十三章 附屬……………二八六

第二十四章 附屬……………二八六

第二十五章 附屬……………二八六

破産財團ヲ保全スル執行名義ニ過キササルヲ以テ破産債權者カ破産財團ニ付キ
 現實ナル辨濟ヲ受ケントスルニハ其債權ヲ確定シタル特別ノ執行名義ヲ有セ
 サルヘカラス是レ破産ノ宣告ト其終結トノ中間ニ在リテ破産債權ノ確定手續
 アル所以ナリ又破産債權ノ確定手續ハ各破産債權者ヲシテ其債權ノ届出ヲ爲
 サシメ債權調査會ニ於テ之ヲ調査シ其結果異議ナキトキハ之ニ因リテ破産債
 權確定シ異議アリタルトキハ之ヲ否認シタル確定判決ニ因リテ破産債權確定
 ストスルニアリ是レ現行破産法ニ於テ破産債權確定ノ手續ヲ債權ノ届出及ヒ
 確定ト謂ヒ又破産法案ニ於テ破産債權ノ届出及ヒ調査ト謂フ所以ナリ(舊商法
 第三編第六章第一節破産法案第二編第七章)

(甲) 破産債權ノ届出手續 破産債權ノ届出手續ハ債權ノ届出及ヒ債權表調整
 ノ二者ヨリ成ル管財人及ヒ各破産債權者ハ破産債權ヲ調査スルニ當リテハ互
 ニ之ヲ知ラサルヘカラス届出手續ハ斯ル目的ヲ達スルカ爲メニ規定セラレタ
 ルモノナリ

(1) 債權ノ届出 破産者ノ總債權者ハ破産宣告ノ公告ニ因リ破産手續ノ開始ヲ
 破産法 手續規定 破産手續ノ進行 附則

知ルコトヲ得ヘキヲ以テ該公告ニ因リ破産決定中ニ定メラレタル期間ニ其債權ヲ破産主任官ニ届出ツヘキ旨ノ催告ヲ受ケタルモノト爲ル(商法第一〇二二條第一項前段商法第九八〇條第一項第五號破産法案第一四九條第二項第一號第二二二條故ニ債權者ハ其届出ヲ爲サザリシ債權ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ得ス債權ノ届出ハ單ニ破産手續ニ参加スルコトヲ欲スル旨ノ申立ニシテ訴ニ非ス民法第一五二條商事非訟事件印紙法第一條第三條此意思ハ現行破産法ニ於テハ破産主任官ニ對シテ之ヲ爲ス是レ蓋シ破産主任官ハ破産手續ノ指揮及ヒ監督者タルノミナラス届出ト共ニ重要ナル書類ヲ交付スルコトアルカ爲メ届出人ノ安全ヲ確保スルノ法意ニ由ル(破産法案第二百二十二條ニ於テハ前述ノ如ク破産主任官ヲ廢止シタルヲ以テ破産裁判所ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ規定シタリ是レ蓋シ破産裁判所ハ破産手續ノ指揮及ヒ監督者ナルニ由ル)届出ノ方法ハ各債權者カ本人ニテ又ハ代人ニテ書面又ハ口頭ヲ以テ(調書ニ筆記セシメテ)民事訴訟法第一三五條破産法案第一一條債權ノ金額及ヒ原因若シ優先權アルトキハ其權利ヲ明示シ且證據書類若クハ其謄本ヲ添

付破産法案ニ依レル提出シテ之ヲ爲シ商法第一〇二三條第一項後段破産法案二二二條第二五二條債權ノ金額ハ我國ノ通貨ニ依リテ之ヲ表示シ債權ノ原因ハ民事訴訟法第九十條ニ規定シアル請求ノ原因ヲ指示シ又優先權ハ之ニ因リテ擔保セラレタル債權ニ付キ優先權アルモノトシテ取扱ハルヘキ旨ヲ求ムルカ爲メニ之ヲ表示ス證據書類ハ準備ノ爲メニ之ヲ提出ス債權ノ金額並ニ原因及ヒ優先權ノ表示ハ債權届出ノ要件ナルヲ以テ之ヲ缺クトキハ届出ノ效ナク又證據書類ノ添附ハ單ニ準備ノ爲メニ之ヲ爲スニ止マルヲ以テ之ヲ缺クモ爲メニ届出ノ無効ヲ來スコトナシ債權者ノ氏名職業住所等ハ民事訴訟法第九五條ノ準用ニ依リテ届書ニ之ヲ表示スルモノナルコト勿論ナリ代人ハ現行破産法ニ在リテハ地方裁判所カ破産裁判所ナルカ故ニ民事訴訟法第六十三條ノ準用ニ依リ辯護士タルコトヲ要スト謂ハサルヲ得ス之ニ反シテ破産法案ニ在リテハ區裁判所カ破産裁判所ナルヲ以テ辯護士タルヲ要セサルコト論ナシ但書面ニテ届出ヲ爲ストキハ管財人ニ交付スルカ爲メニ別ニ謄本ヲ差出シ又口頭ニテ届出ヲ爲ストキハ裁判所書記ハ調書ノ謄本ヲ作成シテ之ヲ管財人ニ交

付スヘシ(商法第一〇二三条第三項第一〇二四條第二項破産法案ニ於テハ斯ル規定ヲ不必要トシテ排除シタリ)蓋シ債權ノ届出ニ關スル書類ハ破産法案第二百二十五條ニ依リ裁判所書記課ニ備ヘ置クヘキモノナルヲ以テ管財人ニ届出ニ關スル書類ヲ交付セサルモ爲メニ職權ノ行使ヲ妨ケサルヲ以テナリ(債權ノ届出ノ期間ハ現行破産法ニ依レハ短クトモ三箇月長クトモ六箇月ナリ但外國居住ノ債權者ニ對シテハ其距離ノ遠近ニ從ヒ届出ニ付キ特別ノ期間ヲ設ク是レ然ラスンハ難ク人ニ責ムルコト外ナラサレハナリ(商法第九八〇條第一項第五號。第一〇二九條後段)此期間ノ起算點ニ關シテハ現行破産法ニ於テ別段ニ規定スル所ナシト雖モ破産宣告ノ公告ノ日ヨリ起算スヘキ法意ナリト思フ蓋シ破産宣告ノ公告以前ニ於テ届出期間ノ起算點ヲ定ムルトキハ破産債權者ノ多クハ破産宣告ノ公告ニ依リ其存在ヲ認識スヘキモノナルヲ以テ届出ノ全期間ヲ利用スルコト能ハサルニ在リ又破産宣告ノ公告以後ニ於テ届出期間ノ起算點ヲ定ムルトキハ故ナク破産手續ノ進行ヲ遅延スヘキヲ以テナリ(破産法案ニ於テハ債權届出ノ期間ハ破産宣告ノ時ヨリ二週間以上四箇月以下タルコトヲ要ス

ル旨ヲ規定シ外國居住ノ債權者ノ爲メニ届出ノ特別期間ヲ定ムルノ法則ヲ廢シ(成ルヘク破産手續ヲ迅速ニ終結セシムトノ目的ニテ)又破産宣告ノ時ヲ以テ届出期間ノ起算點ト爲シタリ(破産法案第一條ノ適用)又此期間ハ不變期間ニ非ス故ニ裁判所ニ於テ之ヲ伸縮スルコトヲ得民事訴訟法第一七〇條又届出期間ヲ懈怠シタル債權者ハ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス(民事訴訟法第一七四條)其他此期間ハ經過後債權ノ届出ヲ許ササルノ効力ヲ有スル(除斥期間)ニ非ス故ニ債權者ハ此期間後ト雖モ有効ニ其届出ヲ爲スコトヲ得ヘク唯期間懈怠ノ責ニ任スヘキノミ換言スレハ期間後ニ届出ヲ爲シタル債權者ハ届出當時ノ破産手續ノ狀態ニ拘束セラレ又期間後ノ届出ノ爲メニ特別ニ生シタル費用ヲ負擔ス是ヲ以テ期間後債權調査ノ開會前ニ於テ届出アリタル債權ニ付テハ管財人及ヒ破産債權者ノ異議ナキトキハ一般ニ破産債權ヲ調査スルカ爲メニ開クヘキ期日ニ於テ其調査ヲ爲スコトヲ得レトモ管財人及ヒ破産債權者カ準備不能ノ如キ事由ニ依リ該期日ニ於テ調査ヲ爲スコトニ付キ異議ヲ申立テタルトキハ届出期間後ニ届出アリタル債權者ノ爲メニ其費用ヲ以テ新ナル調査會ヲ開

ノ届出期間後債權調査ノ開會後ニ届出ヲ爲シタル債權ニ付テ亦其債權者ハ費用ヲ以テ新ナル調査會ヲ開ク又期間後ニ届出アリタル債權ニ於テハ其債權者ハ該債權ノ確定後ニ於テ爲スヘキ配當ニ加ハルコトヲ得レトモ其確定前ニ爲スヘキ配當ヲ止ムルコトヲ得ス(商法第一〇二五條第四項第一〇二九條前段)破産法案第二二九條第二三一條第二五〇條唯破産法案ニ於テハ不穩當ナル債權調査ノ用語ニ換フルニ債權調査ノ期日ナル用語ヲ以テシ期間經過前ニ届出アリタル債權ニ付キテ爲ス調査ノ期日ヲ一般期日トシ又期間經過ニ届出アリタル債權ニ付キテ爲ス調査ノ期日ヲ特別期日トシ現行破産法ノ辭句ヲ修正シタルノミ但新ナル調査會ノ期日ハ裁判所ニ於テ自由ナル意見ニ從ヒテ之ヲ定メ且之ヲ公告スルコトヲ要ス是レ利害關係人ヲシテ其利益防禦ノ爲メニ債權調査ノ期日ニ出頭スルコトヲ得セシメンカ爲メナリ(商法第九八一條準用)破産法案第二三二條第二項(破産法案第二百三十二條第一項及ヒ第五百二十二條ノ適用ニ外ナラス)債權届出ハ破産宣告ノ公告ニ依リテ當然催告アリタルモハト看做スト雖モ所在ノ知レタル債權者ニ對シテハ特別ノ保護方法トシテ裁判所ヨリ

特ニ書面ヲ以テ債權ノ届出ヲ催告スルコトアリ但斯ル届出ハ特別ナル保護方法ナルヲ以テ書面ノ違セルトキハ勿論裁判所ニ於テ之カ手續ヲ爲サザルコトアルモ之カ爲メニ裁判所ニ對シ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス(商法第一〇二三條第四項)破産法案第一五二條期間後ニ於ケル届出ノ變更殊ニ債權額ノ増加他ノ原因又ハ新ナル優先權ノ表示ハ新ナル届出トシテ之ヲ取扱フヤ當然ナリ(破産法案第二三〇條)破産法案ニ於テハ前述ノ如ク専ラ手續上ノ煩雜ヲ避クル目的ヲ以テ別除權ヲ有スル債權者ハ其別除權ノ行使ニ因リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ニ非サレハ破産債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ得サルモノトシ別除權ヲ有スル債權者ハ別除權ヲ主張スルト同時ニ破産債權者トシテ其權利ヲ主張スルコトヲ得ルノ法意ヲ認メサルヲ以テ第二百二十三條ノ規定ヲ設ケ其趣旨ヲ明示セリ適法ナル債權ノ届出ハ破産者及ヒ破産債權者團體ニ對シ其届出債權ノ時、效、中、斷、スルノ效力ヲ生ス民法第一四七條第一號此中斷ノ效力ハ破産手續ノ終結及ヒ其停止破産法案ニ依レハ破産手續ノ廢止アルマテ存續シ若シ届出債權ニ對スル異議ニ付キ提起アリタル訴カ破産手續

終結ノ當時未ダ終結セサルカ爲メニ該債權ニ對スル配當額ヲ供給シテ破産手續ヲ終結シタルトキハ斯ル訴訟ノ終結アルマテ存續ス民法第一五七條)債權ノ届出ハ破産手續ノ終結ニ至ルマテ之ヲ取下タルコトヲ得民法第一五二條(取消)其取下ハ届出ト同一ノ方法ニ從テ之ヲ爲シ又届出債權ノ時効中斷ナカリシモノト看做スノ效力ヲ有ス(民法第一五二條)但取下ハ當然權利ノ拋棄ト爲ラサルヲ以テ同一債權ニ關スル再度ノ届出ヲ爲スコトヲ妨ケス(民法第一五二條)在リテハ破産裁判所カ之ヲ却下ス其裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得商法第九八三條破産法案第一〇九條此場合ニ於テハ時効中斷ノ效力ヲ生セス民法第一五二條債權ノ届出ニ關スル書類届出書及ヒ之ニ關スル證據書類ハ之ヲ裁判所書記課ニ備ヘ置キ以テ破産債權者破産者及ヒ管財人等ノ如キ各利害關係人ニ閱覽セシムルコトヲ要ス現行破産法ニ於テハ斯ル趣意ノ明文ナシ是レ立法上ノ缺點タルヲ以テ破産法案ニ於テハ債權表ト共ニ之ヲ裁判所書記課ニ備ヘ置クコトヲ要スル旨ヲ規定シタリ(破産法案第二二五條抗告裁判所ニ

於テ破産ノ宣告ヲ廢棄シタル場合亦然リ(民事訴訟法第四六四條)前掲書第(2)債權表ノ調製 債權ノ届出アリタルトキハ破産主任官ハ裁判所書記ヲシテ順次ニ番號ヲ付シテ優先權アル債權表ト優先權ナキ債權表トヲ調製セシム是レ提出債權チ一目錄然ニ記載シ一面ニ於テハ届出ノ結果ヲ各利害關係人ニ知ラシメ他ノ一面ニ於テハ債權調査及ヒ配當案作成ノ資料ニ供シ殊ニ配當ノ實施ニ際シ債權證書ノ代用ヲ爲サシムルノ目的ニ出テタルモノナリ故ニ債權表ハ債權調査ノ準備書面トシテ或ハ之ニ追加ヲ爲シ或ハ之ニ抹消ヲ爲スコトアルト知ルヘシ(商法第一〇二三條破産主任官ニ第一〇二四條第一項前段第一〇四七條破産法案第二二四條)但破産法案ニ於テハ前述ノ如ク破産主任官ヲ廢止シタルヲ以テ裁判所書記カ配當表ヲ作成スヘキ旨ヲ規定シ且債權表ニ記載スルコトヲ要スル事項ヲ明示スルニ止メ債權表届出ノ番號及ヒ代理人ノ氏名等ヲ表示スルコト其他優先權アル債權ノ爲メニ特ニ債權表ヲ作成スル等ノ如キ破産手續上ノ便否ニ關スル事項ハ裁判所書記ノ自由ナル意見ニ委子タリ而シテ裁判所書記ハ債權表ヲ作成シタル後其謄本ヲ作リ之ヲ届出ノ謄本ト共ニ管

サル事由ヲ豫知シタルトキハ延期ヲ爲スコトヲ得(此場合ニ於テハ新期日ヲ言
 渡シタルモノナルヲ以テ新ニ公告ヲ爲スコトヲ要セス(民事訴訟法第一六一條)
 管財人出頭シタルモ病氣ノ爲メニ其職務ヲ行フコト能ハサルニ至リタルトキ
 ハ期日ヲ續行スルコトヲ得破産法案第二二六條第二二七條第二二七條第三條
 第二三四條參照)届出ヲ爲シタル破産債權者ハ届出ヲ爲ササル債權者ハ破産手
 續ニ從ヒ其權利ヲ行使セサルモノナリ故ニ債權調査會ニ出頭スルノ權利ナシ
 自衛方法トシテ自己ノ爲メニ自己ノ權利ヲ主張シ又他人ノ權利ヲ攻撃スルカ
 爲メニ自身又ハ代理人ニテ調査會ニ出頭シテ其意見ヲ述ブルコトヲ得。調査手
 續ハ口頭辯論ニ非サルヲ以テ辯護士ニ非サル者ヲ代理人ニ選任スルコトヲ得
 但破産債權者ノ出頭ハ債權調査會開始ノ要件ニ非サルヲ以テ債權者出頭セサ
 ルトキト雖モ開會シテ其届出アリタル債權及ヒ優先債權ヲ調査スルモノトス商
 法第一〇二五條第一項破産法案第二二七條第二項破産者ハ成ルヘク調査會ニ
 參與セシム是レ調査ノ參考トシテ破産者ノ意見ヲ聽キ又ハ債權ノ成立數額等
 ニ付キ即時ニ訊問ヲ爲スノ便アルカ爲メナリ(破産者ハ代理人ヲシテ出頭セシ

ムルヲ得ルコト勿論ナリ又破産主任官ハ破産者本人ノ出頭ヲ命スルヲ得但破
 産者ノ出頭ハ債權調査會開會ノ要件ニ非サルヲ以テ破産者ノ出頭ナキト
 雖モ債權ノ調査ヲ爲スコトヲ得(商法第一〇二五條第一項第一〇二二條第一〇
 〇三條第三項破産法案第二二二條第一一八條第一一三條債權調査會ハ通常破
 産決定ニ定メタル期日ニ於テ之ヲ開ク債權調査會ハ通常届出期間ノ滿了後十
 日乃至十五日ノ期間内ニ於テ之ヲ開ク斯ル期間ヲ存スルハ一面ニ於テハ債權
 調査ノ準備ノ爲メ又他ノ一面ニ於テハ債權調査會ノ開會ヲ不當ニ遅延スルノ
 弊害ヲ防クカ爲メニ外ナラス隨テ裁判所ハ破産決定ヲ爲スニ際シ斯ル期間内
 ニ於テ調査ノ期日ヲ指定スルコト勿論ナリ但調査期日ノ指定力近キニ失シ又
 ハ違キニ失シタルトキハ各利害關係人ハ之カ變更ヲ申立ツルコトヲ得又此申
 立却下ノ裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得(民事訴訟法第四五五條)商法第一
 二五條第三項第九八〇條第一項第六號破産法案第一四九條第一項第三號第一
 五一條新ナル債權調査會ハ其力爲メニ特ニ指定シタル期日ニ於テ之ヲ開ク
 ヤ言ヲ埃タス債權調査ノ手續ハ口頭ナリ元來債權ノ調査ハ届出アリタル債權

及ヒ優先權ノ存否及ヒ數額ヲ明白ナラシムルコトヲ目的トス破産法案第二二六條此目的ヲ達スルニハ利害關係アル破産債權者及ヒ管財人ニ或ハ質問ヲ發シ或ハ辯解ヲ爲サシメ又破産主任官ニ自由ニ審訊ヲ爲スコトヲ得セシメ破産法案ニ依レハ破産裁判所ニサルヘカラス此等ノ質問辯解及ヒ審訊ハ口頭ニ非サレハ到底迅速ニ之ヲ爲スコトヲ得ス故ニ債權調査ハ手續ハ口頭ナリト謂フハシ而シテ債權調査會ニ於テハ先ツ破産主任官カ届出アリタル債權ノ原因數額及ヒ優先權ヲ指示シ管財人其他ノ異議申立權ヲ有スル各破産債權者ニ對シ異議アリハ之ヲ申立ツヘキ旨ヲ催告シ次ニ各異議申立權者カ異議ヲ申立テントスル各債權ノ調査終結前ニ異議ヲ申立テ以テ債權ヲ調査スルモノナリ其他破産主任官ハ債權調査ノ爲メニ必要アルトキハ證書ノ外ニ尙ホ取引帳簿ヲ提出セシメ(證書アリト雖モ以後辨濟アリタルトキハ其旨ヲ帳簿ニ記入スルコトアレハナリ)又取引帳簿カ浩濶ニシテ其提出ニ不便ナルトキハ其抜萃ヲ提出セシムルコトヲ得(商法第一〇二五條第二項第一〇二二條第九八三條)又ハ債權調査會ニ於テ異議申立ハ權利ヲ有スル者ハ管財人及ヒ債權カ確定シ又ハ

貸借對照表ニ掲ケラレタル各破産債權者ナリ管財人ハ破産債權者團體ノ機關トシテ異議ヲ申立ツルコトヲ得蓋シ破産手續ニ參加スルノ權利ナキ者ノ參加又ハ優先權ヲ有セサル債權者ノ優先ノ主張ハ破産債權者團體ノ利益ヲ害スルヲ以テナリ異議ノ理由ハ債權調査會ニ於テ之ヲ明示スルコト要セス又債權調査會ニ於テ主張シタル以外ノ理由ハ異議ニ關スル訴訟ニ於テ之ヲ明示スヘキモノナレハナリ(破産主任官又ハ破産法案ニ依レハ破産裁判所ハ異議ノ當否ヲ判定スルノ職權ナシ管財人ノ届出テタル債權ニ係ル異議ハ(承認亦然リ)破産主任官其管財人ニ代リテ之ヲ爲ス是レ蓋シ管財人ハ其届出テタル自己ノ債權ニ付キ自己調査ヲ爲スコト能ハサルニ由ル多數ノ管財人アル場合亦然リ(商法第一〇二五條第二項第三項破産法案第二三五條破産管財人但破産法案ニ於テハ破産主任官ヲ認メサルヲ以テ商法第一千二十六條第二項)如キ規定ヲ設ケス而シテ斯ル場合ニ於テハ管財人ヲ改選スルヲ當然ナリトス債權カ確定シ又貸借對照表ニ掲ケラレタル各破産債權者ハ破産財團ニ付キ適法ナル辨濟ヲ受テヘキ各自ノ權利ニ基キテ他ノ届出アリタル債權及ヒ優先權ニ對シ異議ヲ申立ツル

ノ權利ヲ有ス異議ヲ申立正當ナル場合ニ於テ他ノ異議申立ヲ爲サザリ破産債權者ヲ利益スルハ反對的效力タルニ過キス是レ蓋シ自稱債權者ノ容喙ヲ防止シ無責任ノ異議ヲ避クルノ法意ニ出テタルモノナラン舊法第一〇二六條第二項破産法案ニ於テハ届出ヲ爲シタル破産債權タルヲ以テ足レトセリ破産法案第二二五條破産債權者第二二七條第二項届出ヲ爲シタル破産債權者是ヲ以テ現行破産法及ヒ破産法案ニ於テハ第一債權ノ届出ヲ爲サザリシ債權者及ヒ債權ノ届出ヲ爲シタルモ債權調査會ニ出頭セサル債權者ハ何レモ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス債權ノ届出ヲ爲ササル債權者ハ前述ノ如ク其權利ヲ破産手續ニ從テ行使セサルモノナリ故ニ異議ヲ申立ツル權利ナキナ當然ナリトス隨テ届出ヲ爲シタル債權者カ其届出ヲ取下ケタルトキハ其届出以前ニ爲シタル異議ハ當然其效力ヲ失フ又債權調査會ニ出頭セサル債權者ハ適法ニ即チ口頭ニテ異議ヲ申立テサルモノナルヲ以テ異議申立權ヲ放棄シタルモノト看做スヘキヲ以テナリ第二債權ノ未ダ確定セサル債權者ノ爲シタル異議ハ之ヲ申立テタル債權者ノ債權カ爾後之ニ對スル異議ヲ理由アリトシタル確定判決ニ因リテ

否認セラレタルトキハ當然其效力ヲ失フ何トナレハ異議ヲ申立テタル債權者ハ斯ル確定判決ニ因リテ異議申立權ヲ喪失スルヲ以テナリ故ニ異議ヲ申立テタル債權者甲ト異議ヲ申立テタル債權者乙トノ間ニ於テ繫屬シタル訴訟カ未ダ終結セサルトキハ甲ハ乙カ其債權ニ對スル債權者丙ノ異議ヲ理由アリトセル確定判決ニ依リテ異議申立權ヲ喪失シタルヲ理由トシテ乙ノ異議ヲ排斥スルコトヲ得ヘシ然レトモ甲ト乙トノ間ニ於テ繫屬シタル訴訟カ異議ヲ理由アリトシタル確定判決ニ依リテ終結シタル以後ニ於テ乙ノ債權ニ對スル丙ノ異議ヲ理由アリトシタル確定判決アリタルトキハ甲ハ之ヲ自己ノ利益ニ援用スルコトヲ得ス是レ確定判決ノ效力ノ然ラシムル所以ナリ第三優先權ノ債權者ハ唯自己ノ權利ニ損害ヲ及ボスヘキ債權及ヒ優先權ニ對スルニ非サレハ異議ヲ申立ツルコトヲ得故ニ單純ナル債權又ハ自己ノ權利ヨリ劣等ノ順位ニ在ル優先權及ヒ債權ニ對シテ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス異議ノ理由ニ關シテハ管財人ノ異議ニ付キ爲シタル説明ヲ参照スヘシ但管財人ノ異議ト異ニシテ商法第九百九十條乃至九百九十一條及ヒ第九百九十六條ニ規定セル事由ヲ異議ノ

破産法 手續規定 破産手續ノ進行 特別

理由ト爲スコトヲ得ス此事由ハ唯管財人ノミ之ヲ主張スルコトヲ得ルノミ債
 産者ハ債權調査會ニ於テ參考ノ爲メニ其意見ヲ陳述スルニ止マリ届出アリタ
 ル債權ニ對シ異議ヲ述フルコトヲ得ス是レ蓋シ破産者ニ斯ル異議ヲ申立ツル
 コトヲ得セシムルトキハ故ラニ無責任ノ異議ヲ提出シ破産手續ノ紛擾及ヒ延
 滞ヲ來スノ虞アルノミナラス破産者ノ利益ハ管財人職權ノ行使ニ依リテ適當
 ニ保護セララルルニ由ル但破産法案ニ於テハ破産者ノ爲メニ破産手續ニ依リテ
 確定シタル債權ヲ有スル債權者カ破産手續ニ依リテ辨濟ヲ受ケサル部分ニ付
 キ破産手續終結後債權表ニ基キ債權者ニ破産者ニ對シ強制執行ヲ爲スコトヲ妨
 グル効力アル異議申立權ヲ認メタリ破産法案第二八二條第二四五條届出アリ
 タル債權及ヒ優先權ノ調査ヲ一日ニ完了スルコトヲ得サルトキハ現行破産法
 ニ於テハ翌日ニ續行シテ調査ヲ完了シ別ニ續行期日ヲ定メサルモソノ如シ是
 レ記憶ヲ去ラシメサルト又破産手續ヲ迅速ニ終結セシメントノ法意ニ出ツ破
 産法案ニ於テハ續行期日ヲ指定シ且之ニ關スル決定ヲ言渡シタルトキニ限り
 呼出及ヒ公告ヲ爲スコトヲ要セサル旨ヲ規定シタリ(現行破産法ノ如ク翌日ニ

債權ノ調査ヲ續行スルコトハ各利害關係人ノ事情ニ因リ事實上之ヲ行フコト
 能ハサル場合アリ是レ破産法案ニ於テ現行破産法ニ改正ヲ加ヘタル所以ナリ
 (破産法案第二二三三條第二三四條第一〇五條)債權調査會ノ期日ハ變更及ヒ債權
 調査ノ延期ニ關シテハ現行破産法ニ於テハ別段ノ規定ナシト雖モ之ヲ爲スコ
 トヲ得ヘキハ固ヨリ當然ニシテ民事訴訟法第一六九條準用又債權調査ノ延期
 ハ之ヲ言渡ササルトキニ限り公告ヲ爲スコトヲ要スルヤ勿論ナリ(期日ノ變更
 ハ之ヲ言渡スコトナキヲ以テ公告ヲ爲スコトヲ要ス商法第九八一條第九八〇
 條第一項第六號破産法案第二百三十三條及ヒ第二百三十四條ニ於テハ此點ニ
 關シ詳細ニ規定シタリ)

債權調査會ノ適法ナルコト及ヒ調査手續ノ大要ヲ證スルカ爲メニ裁判所書記
 ハ破産主任官ノ指揮ノ下ニ於テ調査ノ調査ヲ作成スルコトヲ要ス(商法第一〇
 二五條第一項民事訴訟法第一二九條第二項第一號乃至第四號第一三〇條第一
 項第二項第二號破産法案ニ於テ亦裁判所書記ヲ調査ヲ作ルヘキモノナルコト
 ハ破産法案第一百五條民事訴訟法第二百二十九條第二項第一號乃至第四號第百三

十條第一項第二項第二號ノ法意ニ徹シ明白ナリ）
 (2) 調査ノ結果 調査ノ結果ハ各届出債權ニ對スル承認及ヒ異議ノ二者ナリ而シテ債權調査會ハ斯ル調査ノ結果ヲ債權表ニ記載スルニ因リテ終了ス蓋シ之ニ依リテ裁判所カ調査ノ結果ヲ確定スルモノナレバナリ商法第一二五條第二項後段第四項調査會ノ終リタル後破産法案第二三六條
 (A) 承認 承認トハ届出アリタル債權ニ對シ異議ヲ申立ツル權利ヲ有スル者カ破産主任官ノ面前ニ於テ各届出債權ニ付キ破産的執行權ノ存在ヲ是認スルノ行爲ナリ故ニ其性質ハ裁判上ノ認諾ナリ商法第一〇二六條第二項破産法案第二二五條異議ナカリシトキニ承認ノ方法ニハ他ノ意思表示ノ方法ト同シテ明示及ヒ默示ノ別アリ異議申立權者カ調査會ノ期日ニ於テ届出アリタル債權ニ付キ破産的執行權ノ存在ヲ是認スル旨ヲ明示シタルトキハ明示ノ承認ト爲リ異議ノ申立ナキトキ又ハ之ヲ申立テタルモ適法ニ之ヲ取消シタルトキハ默示ノ承認ト爲ル多數ノ管財人アル場合ニ於テハ其總管財人カ異議ヲ申立テサレバ一致シタルトキニ非サレバ承認アルコトナシ承認ノ完成ハ承認ノ性質

上裁判上ノ認諾即チ一方の訴訟行爲タルノ性質上異議申立權者ノ意思表示ヲ以テ足レリトス商法第一〇二六條第二項承認……ヲ以テ之ヲ爲ス債權調査ノ調査ニ承認アリタル旨ヲ記載スルハ説明ノ爲メニスルニ過キス民事訴訟法第一三〇條第二項第一號然レトモ承認ノ效力即チ債權ノ確定換言スレバ承認セラレタル債權カ破産債權者ハ全員ニ對シテ有スル確定判決ト同一ナル效力ハ承認アリタル旨ヲ債權表ニ記載シタル時ヨリ發生ス商法第一〇二五條第二項第二三五條第三三六條第三三七條蓋シ債權表ニ於ケル承認ノ記載ハ届出債權ノ確定ニ關スル前提要件存生ノ證明ト同時商法第千二十六條第一項及ヒ破産法案第二三十五條ハ單ニ承認ニ關シテハ債權確定ノ一前提要件ヲ規定シタルノミニ之ヲ是認シタル裁判ヲ包含スルモノナレバナリ
 (B) 異議 異議ハ届出アリタル債權ハ承認ヲ妨クル意思表示ニ外ナラス故ニ承認ノ完成前ニ非サレバ異議ヲ申立タルコトヲ得ス又糾義申立權者カ特定ノ債權ニ對シ異議アル旨ヲ表示スルヲ以テ足り敢テ其理由ヲ明示スルノ必要ナシ異議ノ理由ヲ明示スルノ必要ナキ理由ハ前述シタル所ナリ隨テ又異議申立

權者ハ調査會ノ期日ニ於テ陳述シタル異議ノ理由ニ付キ抑束セラルルコトナ
シ異議ノ性質ヲ以テ異議ヲ申立タルコトハ法律ノ許ササル所ナリ蓋シ債權ノ
異議ハ調査會ノ期日ニ出頭シタル各異議申立權者カ口頭ニテ其旨ヲ申立テテ
之ヲ爲ス書面ヲ以テ異議ヲ申立タルコトハ法律ノ許ササル所ナリ蓋シ債權ノ
調査ハ前述ノ如ク口頭ニテ之ヲ爲スモノナレハナリ(異議申立ノ方法)

異議ヲ申立テラレタル權利ハ其異議ノ取消又ハ之ヲ理由ナシトスル確定判決
アルニ非サレハ確定セサルモノトス(商法第一〇六二條第一項破産法案第二三
五條蓋シ異議ノ取消ハ其效力トシテ異議ナカリシ原狀ニ復スルヲ以テ異議ヲ
申立テラレタル債權ハ異議ナカリシモノ即チ承認セラレタル債權ト爲リ又異
議ヲ理由ナシトシタル確定判決アリタルトキハ其效力トシテ異議ヲ申立テラ
レタル債權ハ破産的執行權アルモノト爲ルヲ以テナリ故ニ届出アリタル債權
カ異議ノ取消ニ因リテ確定シタルトキハ其效力ハ其旨ヲ債權表ニ記載シタル
時ヨリ發生スルコト前述ノ如ク又異議ヲ理由ナシトスル確定判決ニ因リテ確
定シタルトキハ裁判所ハ管財人又ハ破産債權者ノ申立ニ因リ債權表ヲ更正ス

ルコト後述ノ如シ而シテ異議ノ取消及ヒ異議ノ訴訟ニ付テハ(C)ニ於テ特ニ説
明スルヲ適當トスルヲ以テ茲ニ之ヲ省畧ス(異議ノ效力)

調査ノ結果即チ承認及ヒ異議ハ債權表及ヒ提出シタル債權ノ證書ニ附記シ且
各債權者及ヒ其代理人ニ之ヲ通知スルコトヲ要シ商法第一〇二五條第二項後
段債權表ニ附記スルハ證明ノ爲メニ破産法案第二百三十六條第一項ニ於テハ
調査ノ結果ヲ債權表ニ記載スルコトハ重要ナル事項ト認メ特ニ裁判所ハ下規
定シ以テ裁判所書記カ裁判官ノ指揮ノ下ニ於テ記載スルノ趣旨ヲ明示シタリ
債權證書ニ調査ノ結果ヲ附記スルハ主トシテ債權者ニ債權ノ處分ヲ容易ナラ
シムル爲メニ故ニ破産法案第二百三十六條第二項ニ於テハ債權ノ證書ニ確定
ノ旨ヲ記載スルコトトシタリ蓋シ異議アリタルコトハ債權ノ證書ニ之ヲ記載
スルノ必要ナケレハナリ又確定ノ結果ヲ通知スルハ債權確定ノ訴ヲ提起スル
ノ必要、不必要ヲ知ラシムルカ爲メナリ(破産法案ニ於テハ不必要ト認メスル法
則ヲ削除シタリ破産法案第二三八條第二項參照)

現行破産法ニ於テハ破産手續ニ依リテ確定シタル債權ハ破産者ニ對シテ亦確
破産法 手續規定 破産手續ノ進行 特別 四九九

定判決ト同一ノ效力ヲ有シ破産者カ債權調査ノ期日ニ於テ異議ヲ申立ラタル
 更ト否トノ區別ヲ問ハザリシ之ニ反シテ破産法案ニ於テハ該債權ハ債權調査ノ
 期日ニ於テ異議ヲ申立ラタル破産者ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ナキ旨ヲ規
 定シタリ現行破産法ハ破産者ノ利益保護ニ薄キヲ以テ立法上其當ヲ得ス(商法
 第一〇四九條破産法案第二八二條)

(C) 異議ノ取消及ヒ異議ノ訴訟 異議申立權者ハ其申立ラタル異議ヲ何時ニ
 テモ即チ債權調査ノ期日ニ於テハ勿論其以後ト雖モ之ヲ取消スコトヲ得蓋
 シ破産債權者ノ有スル異議申立權ハ其隨意ノ權能ニシテ又管財人ノ有スル異
 議申立權ハ職權ノ作用ニシテ其自由ナル意見ニ依リ行フコトヲ得ヘキモノナ
 レハナリ異議ノ取消ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ヘク又異議ヲ申
 立ララレタル債權者カ異議ノ取消アリタルコトヲ知ラサルトキハ之ニ其旨ヲ
 通知スヘシ(商法第一〇二七條破産法案第二三五條第一項前段)

異議アル債權ニ付テハ其債權者ハ異議者ニ對シ確定判決ヲ提起シテ其債權ノ
 確定ヲ求ムルコトヲ得(商法第一〇二六條第一〇二九條然レトモ異議ヲ受ケテ

訴訟中ニ在ル債權破産法案第二三八條第一項(破産法案第二百三十八條第二項
 ニ於テハ異議ヲ申立ラレタル債權者ニ債權ノ確定ヲ求ムルコトヲ容易ナラ
 シムルカ爲メニ裁判所ハ職權ヲ以テ豫メ該債權者ニ其債權ニ關スル債權表ノ
 抄本ヲ交付スルヲ要スル旨ヲ規定シタリ)異議アル債權ノ確定ヲ目的トスル訴
 カ確認ノ訴ナルヤ給付ノ訴ナルヤハ學者間ニ爭アル所ナリ然レトモ債權確定
 ノ訴ハ異議ノ排斥ヲ目的トスル訴ニシテ異議ヲ理由ナシトスル確定判決ニ基
 キ債權者カ破産手續ニ從テ辨濟ヲ受クルハ債權確定ノ訴ノ結果ナルヲ以テ此
 訴ノ性質ハ確認ノ訴ナリト謂フテ正當ト思フ債權確定ノ訴ノ原告ハ異議ヲ申
 立アラレタル債權者ニシテ又被告ハ異議申立者ナリト謂ハサルヘカラス蓋シ
 異議ヲ申立ラレタル債權者ハ異議ノ排斥ニ付キ利益ヲ有スルモノナレハナ
 リ又債權確定ノ訴ノ原因ハ法律上別段ノ規定ナシト雖モ届出タル權利ノ原
 因數額及ヒ順位等ナリト謂ハサルヘカラス蓋シ此訴ハ届出アリタル債權ノ確
 定ヲ目的トスルモノナレハナリ故ニ原告ハ債權調査會ニ於テ演述シタル届出
 權利ノ原因數額及ヒ順位等ニ關スル主張ニ羈束セララルルモノトス破産法案ニ

於テハ訴訟手續利用ノ目的ヲ以テ第二百四十條第一項ヲ規定シ民事訴訟法ニ定メタル特別ノ訴訟手續殊ニ證書訴訟手續ハ其性質上異議アル債權ノ確定ニ適當ナルヲ以テ第二百四十條第二項ヲ規定シ調査ヲ經サル事項殊ニ調査ノ期日ニ於テ主張セサル債權ノ原因ニ付キ債權確定ノ訴ヲ提起シ又ハ訴訟ヲ受繼スルハ届出及ヒ調査ノ手續ヲ無視スルモノニシテ法律上之ヲ許スヲ得サルヲ以テ第二百四十一條ヲ規定シ異議アル債權ニ付キ執行力アル債務名義又ハ終局判決アル場合ニ於テハ其效力ヲ無視スルハ失當ナルヲ以テ異議申立者ヲシテ破産者カ爲スコトヲ得ヘキ訴訟手續ニ依リ異議ヲ主張セシムルコトヲ正當トス例ヘハ執行力アル債務名義カ確定判決ナルトキハ再審ノ訴ニ依リテ異議ヲ主張スルカ如シ故ニ第二百四十二條ノ規定ヲ設ケ又債權調査ノ期日ニ於テ異議ヲ申立テタル破産者ニ對シテハ破産手續ニ依ル債權確定カ確定判決タルノ效力ナキ法則ヲ是認シタル結果破産者ヨリ異議ヲ申立テラレタル債權者ノ爲メニ第二百四十五條ヲ規定シタリ左ニ管轄裁判所及ヒ裁判ニ關スル手續ヲ略述スヘシ

(a) 管轄裁判所 現行破産法ニ於テハ債權確定ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ專屬ス(商法第一〇二七條民事訴訟法第五六三條)是レ蓋シテ破産手續ニ關係アルヲ以テ之ニ付キ破産裁判所ヲシテ裁判セシムルヲ最モ適當トスレハナリ破産法案第三九六條第三五五條第五六三條但破産法案ニ於テハ前述ノ如ク區裁判所ヲ以テ破産裁判所ト爲シタルカ故ニ破産法案第二百三十九條第二項ノ規定アルモノト知ルヘシ訴訟物ノ價額ハ民事訴訟法ノ規定ニ從テ之ヲ定ム(民事訴訟法第六條)破産法案ニ於テハ破産法案第二百三十八條及ヒ第三百四十二條ニ規定セル訴即チ異議ニ關スル訴訟ノ目的ノ價額ハ該訴ノ性質上起訴ノ時ニ於ケル配當ノ豫定額ヲ標準トシテ裁判所カ之ヲ定ムルヲ至當ナリト認メ第二百四十條ノ規定ヲ設ケタリ故ニ事物ノ管轄及ヒ訴狀ニ貼用スヘキ訴訟印紙額ハ何レモ該價額ニ依リテ定マルモノト知ルヘシ而シテ破産宣告前ニ破産者ト異議ヲ申立テラレタル債權者トノ間ニ於テ其債權ニ關スル爭ヲ仲裁人ノ判断ニ委スル仲裁契約成立セル場合ニ於テハ異議アル債權ハ仲裁判断ニ依リテ之ヲ確定スヘキヤ言フ俟タス

(b) 裁判ニ關スル手續 債權確定ノ訴ハ民事訴訟法ニ規定シタル通常ノ訴訟手續ニ從テ之ヲ提起ス故ニ債權者ハ多數ノ異議申立者ニ對シテ共同訴訟手續ニ依リ起訴スルコトヲ得而シテ債權者カ多數ノ異議申立者ニ對シ共同訴訟手續ニ依リ起訴シタル場合ニ於テ其異議ノ原因カ同一ナルトキハ合一的ニ裁判スルコトヲ要スルヲ以テ債權確定ノ訴ハ必要的共同訴訟ト爲リ民事訴訟法第五〇條又其異議ノ原因各異ナルトキハ例ヘハ甲異議申立者ハ届出權利ノ成立ヲ争ヒ又乙異議申立者ハ破産債權者タルノ資格ヲ争ヒタルトキハ債權確定ノ訴ハ通常ノ共同訴訟タリ(民事訴訟法第四八條又甲異議申立者ハ乙異議申立者ト債權者トノ間ニ於テ繫屬セル訴訟ニ付キ從參加ヲ爲スコトヲ得蓋シ乙ノ異議ヲ理由アリト認メラレタル判決ハ甲ノ利益ニ於テ效力ヲ有スルヲ以テナリ(民事訴訟法第五三條債權確定ノ訴ニ付テハ裁判所ハ民事訴訟法ニ規定シタル通常訴訟手續ニ從テ裁判ヲ爲スコトヲ得故ニ債權者カ多數ノ異議申立者ニ對シ各別ニ起訴シタルトキハ之ヲ併合スルコトヲ得(商法第一〇二七條成ルヘク併合シテ……)破産法案第一〇五條民事訴訟法第一二〇條然レトモ現行破産法

ニ於テハ例外トシテ第一ニ破産手續ヲ迅速ニ終了シ且手数料費用トテ省畧スルノ目的ヲ以テ干渉審理主義ヲ認メ原被兩造ノ辯論ニ重キヲ置カザリシ隨テ當事者雙方カ期日ニ出頭セザルトキト雖モ破産主任官ノ演述ヲ聽キ職權ヲ以テ證據調ヲ爲シテ判決ヲ言渡シ又關席判決ヲ爲スモ之ニ對シ故障ヲ爲スコトヲ許サス第二ニ異議ヲ申立テラレタル債權者ヲシテ債權者集會ニ於テ議決權ヲ行フコトヲ得セシメンカ爲メニ債權者集會前ニ於テ成ルヘク債權確定ノ訴ニ付テ判決ヲ爲シ若シ債權者集會前ニ於テ判決ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スモ未確定ナルトキハ見込アル債權者ヲシテ相當ノ債權額ニ付キ債權者集會ニ於テ議決權ヲ行フヲ得セシムル爲メニ債權者カ債權者集會ニ加ハルコトヲ許スヘキヤ否ヤ又幾許ノ金額ニ付キ加ハルコトヲ許スヘキヤ否ヤヲ決定ス(見込アル債權者ノ爲メニ假確定ノ利益ヲ與ヘ故意ニ異議ヲ申出ツルノ弊害ヲ妨止ス但債權者ノ優先權ノモカ異議ヲ受ケタルトキハ其債權者ハ通常ノ債權者トシテ債權者集會ニ加ハルコトヲ得蓋シ斯ル債權者ハ優先權ノ運命未タ知ルヘカラサルヲ以テ容易ニ破産者ニ有益ナル事項ニ賛成スルノ虞ナキノミナラ

ス優先權ヲ主張シタルカ爲メニ通常債權者タル資格ヲ喪失スルモノニ非サレハナリ(商法第一〇二七條第一〇二八條破産法案第一七五條第二項乃至第四項但破産法案ニ於テハ斯ル例外規定ヲ認メス而シテ破産法案ニ依レハ未確定債權停止條件附債權及ヒ將來ノ請求權ヲ有スル破産債權者カ議決權ヲ行ハントスル場合及ヒ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ニ付キ議決權ヲ行ハントスル場合ニ於テ即チ債權者集會ニ於テ管財人及ヒ破産債權者ナキトキハ届出債權全額ニ付キ議決權ヲ行フコトヲ得異議アリタルトキハ裁判所ニ於テ決定ヲ以テ其議決權ヲ行ハシムヘキヤ否ヤ及ヒ如何ナル金額ニ付キ之ヲ行ハシムヘキカヲ定ム是レ蓋シ斯ル事項ハ各利害關係人ノ意思ニ一任スルヲ至當トスルニ由ル又裁判所ハ狀況ノ變更ノ有無ヲ問ハス管財人其他ノ利害關係人ノ申立ニ因リ何時ニテモ議決權ノ行使ニ關スル決定ヲ變更スルコトヲ得是レ蓋シ裁判所ヲシテ成ルヘク議決權ノ行使ニ付キ適當ナル裁判ヲ爲サシムルノ法意ニ出ツ議決權ノ行使ニ關スル決定及ヒ之ヲ變更シタル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得是レ蓋シ不服ノ申立ヲ許ストキハ

破産手續ニ煩雜ヲ來スヲ以テナリ又此決定ヲ言渡シタルトキハ送達ヲ要セス是レ民事訴訟法第二百四十五條ノ適用ニ過キズ(裁判官ノ裁量)又對者債權者異議ヲ理由ナシトシタル判決カ確定シタルトキハ其判決ハ破産債權者ノ全員即チ債權ノ届出ヲ爲サザリシカ爲メ異議ヲ申立ツルコト能ハサリシ破産債權者ハ勿論異議ヲ申立テザリシ破産債權者ニ對シテ其效力ヲ有ス是レ破産の法律關係ノ性質ヨリ生スル當然ノ結果ナリ但多數ノ異議ノ申立者アル場合ニ於テハ其總テノ異議ヲ理由ナシトシタル確定判決アルニ非サレハ斯ル效力ヲ發生スルコトナキモノトス蓋シ或異議申立者ノ勝訴ハ債權ノ確定ヲ妨クルモノナレハナリ(破産法案第二四六條第二三五條後段)異議ヲ理由アリトシタル判決カ確定シタルトキハ其判決モ亦破産債權者ノ全員ノ爲メニ其效力ヲ有ス是レ甲破産債權者カ乙破産債權者ニ對シテハ破産的執行權ヲ有シ丙破産債權者ニ對シテハ破産的執行權ヲ有セスト云フカ如キハ理論上不能ナルヲ以テナリ破産法案第二四六條第二四二條而シテ異議ヲ理由ナシトスル判決確定シタルトキハ破産債權者ハ債權表及ヒ債權證書ノ附記ノ更正ヲ申立ツルコトヲ得但判

決ハ其言渡及ヒ確定ニ因リテ效力ヲ生スルモノナルヲ以テ斯ル附記ノ訂正ハ
 認定の效力ヲ有スルニ非ズ異議ヲ理由ナシトスル確定判決以外ノ事由ニ依
 ル債權確定ノ附記ノ如ク設定の效力ヲ有スルモノニ非ズ(商法第一〇二五條、破
 産法案第二四三條、第二四四條)但破産法案ニ於テハ第二八十二條ニ依リ破産
 者ニ對シ破産手續終結後債權表ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得ヘキトキニ
 限リ債權表ノ更正カ設定の效力ヲ有スト謂フヘシ(破産法第七十二條以下ノ規定ニ依リテ定
 債權確定ノ訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法第七十二條以下ノ規定ニ依リテ定
 ム而シテ異議ヲ申立テタル管財人ノ負擔スヘキ訴訟費用ハ財團債權トシテ之
 ヲ支拂ヒ(商法第一〇三二條第一項第三號、破産法案第三五條第三號)異議ヲ申立
 テタル債權者及ヒ異議ヲ申立テラレタル債權者ノ負擔スヘキ訴訟費用ハ其債
 權者各自ノ辨濟スヘキモノナリ(破産法案第二百四十七條)於テハ破産法案第
 三十五條第五號ノ適用トシテ異議ニ關スル訴訟即チ債權確定ノ訴訟又ハ異議
 ノ訴訟ニ因リテ異議ヲ申立テタル債權者カ勝訴ノ判決ヲ受ケ以テ破産財團ヲ
 利シタルトキハ該債權者ハ其利益ノ限度即チ異議ニ依リテ排斥セラレタル破

産債權者カ受テハ破産財團ノ配當額又ハ届出ヲ受ケタル優先債權者カ破産債權者トシテ
 受テ居カレシ金額中ノ異議爲メニ優先債權者トシテ受テ居ケル金額又
 ハ届出ノ優先債權者トシテ受テ居ケル優先債權者トシテ受テ居ケル金額ヲ控除シ
 タル殘額ノ範圍内ニ於テ取訴者ノ負擔義務ニ拘ハラセ獨立シテ自己ノ支拂ヒ
 タル訴訟費用ノ償還ニ付テ財團債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ得ル旨ヲ規
 定シタリ(破産法第一〇三三條)古來及ビ舊法ニ著キテ且モ舊法ニ著キテ且モ舊法ニ著
 債權確定ノ訴訟ノ終結ニ於テ破産手續ヲ停止若クハ廢止(商法第九八二條、破産
 法案第三三四條)又ハ協議契約ニ依リ破産手續ヲ終結アリタルトキハ債權確定
 以テ其訴訟費用ノ負擔ヲ定ムルカ爲メニ之ヲ續行スルモノナリ蓋シ本案ハ
 目的ノ欠缺ニ因リテ當然消滅シタルヲ以テ附記ノ配當額ハ破産手續ヲ終結ア
 リタルトキハ債權確定ノ訴訟何等ノ影響ヲ受ケルコトナク之ヲ續行スルモノ
 ナリ唯原告タル債權者ニ歸スヘキ配當額之ヲ供託シ債權者勝訴ノ場合ニ於
 テ之債權者ニ交付シ反對の場合ニ於テ他ノ債權者間ニ之ヲ配當スルコトアル
 商法第一〇二九條、破産法案第二六四條)債權確定ノ訴訟ニ關シテ舊法ニ著キテ

破産法 手續規定 破産手續ノ進行 特別

債權ノ確定又ハ異議ヲ當否ヲ確定スル特別裁判所例ヘハ臺灣ノ法院ノ如キ行政裁判所例ヘハ行政訴訟ニ依リテ確定スヘキ租税ニ關スル破産債權ノ如キ(行政裁判所例ヘハ訴訟ニ依リテ確定スヘキ租税ニ關スル破産債權ノ如キ)會計検査院ノ管轄ニ屬シ又ハ公訴附帶ノ私訴トシテ刑事裁判所ノ管轄ニ屬スル場合ニ於テハ異議ニ關スル訴訟トシテ破産裁判所ニ於テ管轄スルコト能ハサルヲ以テ當該官廳ノ處分ニ依リ債權又ハ異議ノ當否ヲ確定スルコトヲ要スルヤ勿論ナリ是レ破産法案第二百四十九條ノ規定アル所以ナリ

(五) 破産財團ノ確定手續 破産ノ宣告アリタルトキハ管財人ハ直チニ破産財團ニ屬スル財産ノ占有及ヒ管理ニ著手シ且之カ換價ニ著手スルコトヲ要ス(商法第一〇二條破産法案第四三條第一七八條第一八八條)管財人ノ職務ハ各破産債權者ヲシテ破産財團ニ屬スル財産上ニ平等ナル辨濟ヲ受ケシムルニ在リ破産財團ノ管理及ヒ換價ハ斯ル辨濟ヲ受ケシムルニ必要ナル方法ナリ是レ破産財團ノ管理及ヒ換價ハ管財人ノ職務ニ專屬スル所以ナリ又管財人ハ破産財團ニ屬スル財産ノ管理及ヒ換價ヲ爲スルニ職責アルモ破産財團ニ屬セサル財産

ノ管理及ヒ換價ヲ爲スコトヲ得ヌ是ヲ以テ管財人ハ破産財團ニ屬スル財産ノ管理及ヒ換價ヲ爲サザラシ爲メニ生シタル損害及ヒ破産財團ニ屬セサル財産ヲ換價シタル爲メニ生シタル損害ニ付キ各利害關係人ニ對シ賠償ノ責ニ任ス而シテ債權ノ届出ヲ爲シタル破産債權者ハ管財人カ破産財團ニ屬スル財産ヲ破産財團ニ組入レサル場合ニ在リテハ裁判外ノ注意ヲ爲ス外ニ尙ホ破産主任官破産法案ニ依レハ破産裁判所ニ對シ管財人カ斯ル財産ヲ破産財團ニ組入ルヘキ旨ノ命令ヲ求ムルヲ得(商法第一〇三條破産法案第一〇五條第五四四條)破産者ハ管財人カ破産財團ニ屬セサル財産ヲ破産財團ニ組入レタル場合ニ在リテハ商法第十三條(破産法案第一〇五條)民事訴訟法第五四四條ニ依リテ異議ヲ申立ツルヲ得又第三者ハ自己ノ財産ニシテ破産財團ニ屬セサルモノヲ破産財團ニ組入レタル管財人ニ對シ取戻權ヲ主張スルヲ得ルコト明白ナリ(商法第一〇二五條破産法案第七四條) (甲) 破産財團ノ管理 破産財團ノ管理トハ破産財團ノ減少ヲ豫防スルガ爲メニ破産債權者又ハ破産者ノ利益上ニ必要ナル若クハ有益ナル行為ノ全體ヲ總稱

ス而シテ破産財團ノ管理行為ハ破産財團ノ種類ナル状態ニ從テ自ラ異ナラズ
 ルヲ得ザルモノナラズ以テ法律上悉ク之ヲ列舉スルコトヲ得ズ故ニ現行破産
 法及ヒ破産法案ニ於テハ主要ナル二三ノ管理行為ヲ例示スルニ止メタリ左
 之ヲ分説スヘシ

(1) 破産財團ノ占有者破産ノ宣告ヲ受タルトキハ管財人ハ直チニ管理人前手
 續トシテ破産財團ニ屬スル財産ヲ占有スルコトヲ要ス(商法第一〇二條第一
 項前段破産法案第一七九條)占有トハ他人ハ爲メニ所持スルト同一ノ意義ニシ
 テ民法上ニ所謂占有ニ非ス(民法第一〇八條)蓋シ破産ノ目的ハ唯斯ル所持即チ
 管財人カ破産財團ニ屬スル財産ニ付キ破産者及ヒ第三者ノ事實上ノ勢力ヲ排
 斥シ自ラ管理ヲ爲スコトヲ得ルノ地位ニ在ル状態ノミヲ以テ之ヲ達スルニ足
 レハナリ隨テ破産財團ニ屬スル財産ノ占有權其モノハ破産者ニ屬スルモノト
 知ルヘシ

管財人カ破産財團ニ屬スル財産ヲ占有セントスルニ際シテ其財産ヲ現實中
 持セル破産者カ抵抗セシトキハ管財人ハ執達吏ノ共助ヲ求ムルコトヲ得

(破産法案第一〇五條民事訴訟法第七三〇條第七三一條何トカレハ破産決定ハ
 民事訴訟法第五百五十九條第一項第一號ニ規定セル債務名義ニ外ナラザルヲ
 以テナリ之ニ反シテ斯ル財産ヲ現實ニ所持セル第三者カ引渡ヲ拒絕セシトキ
 ハ管財人ハ其第三者ニ對シ引渡ノ目的トスル訴ヲ提起スルコトヲ要スルカ
 (2) 財産目録ノ作成 管財人ハ破産財團ニ屬スル財産ヲ占有シタル後遲滯ナ
 ク裁判所職員裁判所書記執達吏又ハ警察官吏ノ立會ヲ以テ破産者ニ屬スル總
 テノ財産ノ目録ヲ作ルコトヲ要ス若シ必要アルトキハ破産者ヲモ立會ハシ
 ルモノトス是レ破産宣告ノ當時ニ於ケル破産者ノ財産ノ現状ヲ詳細ニ明記シ
 後日破産手續ノ成蹟ヲト知シ又管財人ノ責任ヲ明白ニスルノ資材ト爲ヌ外
 ナラス財産目録ノ作成ニ裁判所職員又ハ警察官吏ノ立會ヲ必要トスルハ管財
 人ノ私ヲ豫防シ公平ヲ保スルカ爲メナリ破産者ノ立會ハ財産目録ノ作成ニ便
 益アルカ爲メナリ(商法第一〇一四條第一項破産法案第一八二條第一項第二項
 第三七一條第二項但破産案ニ於テハ警察官吏ノ立會ニ換フルニ公證人ノ立會
 ヲ以テシ又已ムコトヲ得ザル事由アル場合ヲ除ク外ハ破産者ノ立會ヲ以テス

ヲ要スルモノトセリ是レ畢竟公證人ハ警察官吏ニ比スレハ其職務ノ性質上財産目録ノ作成ニ立會フヲ適當トシ又成ルヘク破産者ヲシテ其利益ヲ保護スルコトヲ得セシムルニ外ナラス檢事ハ犯行ノ有無ヲ捜査スルカ爲メニ職權ヲ以テ財産目録ノ作成ニ立會フヲ得商法第一〇一四條第四項裁判所構成法第六條ルヤ當然ナリ

財産目録ニハ破産者ニ屬スル總テノ財産ヲ記載シ且其價格ヲ記載スルコトヲ要ス若シ必要アルトキ即チ管財人ニ於テ價格ヲ認定スルコト能ハサルトキハ鑑定人ヲシテ評價ヲ爲サシムルコトヲ得是レ財産目録ヲ以テ破産宣告ノ當時ニ於ケル破産者ノ總財産ニ付キ作成シタル明細書ト爲シタルニ依ル故ニ現行破産法ニ從ヘハ財産目録ニハ破産者ノ財産タル以上ハ破産財團ニ屬スルト否ト動産ナルト不動産ナルト債權ナルト物權ナルトヲ問ハズ總テ之ヲ記載セザルヘカラス然レトモ破産財團ニ屬セサル財産ヲ財産目録ニ記載スルハ破産ノ目的ヲ達スルニ必要ナシ故ニ破産法案ニ於テハ破産財團ニ屬スル財産ヲ財産目録ニ記載スルモノトシ以テ現行破産法ニ修正ヲ加ヘタリ(商法第一〇一四條

第二項破産法案第一八二條第二項) 其類事(破産法第一八二條) 管財人ノ作成シタル財産目録及ヒ其ノ當時ノ狀態ヲ示ス調書商法第一〇一四條第三項、同項ニ所謂之ニ關スル調書トハ如何ナル書類ヲ指示スルヤ法文上ハ類々曖昧ナリト雖モ起草者ノ説明ニ依レハ財産目録作成ノ際ニ生シタル事實及ヒ陳述ヲ記載シタル調書ヲ指示スルモノノ如シト認證アル謄本ハ裁判所ノ書記課ニ備ヘテ之ヲ公衆ノ展閱ニ供シ斯ル書類ノ原本ハ管財人ノ手ニ存シテ財團管理上ノ用ニ之ヲ供ス是レ各利害關係人ヲシテ破産ノ狀況ヲ知ルコトヲ得セシムルカ爲メナリ(破産法案第一八四條)但破産法案ニ於テハ現行破産法ノ如クニ公衆ノ展閱ニ供スト云フハ汎漠ニ失シ立法上失當ナルヲ以テ之ヲ削除シ利害關係人ヲシテ破産法案第一百五條民事訴訟法第二百二十四條ノ規定ニ依リ記録ノ閱覽ヲ爲スコトヲ得セシムルヲ以テ是レトセリ又現行破産法ニ所謂之ニ關スル調書ニ換フルニ封印ニ關スル調書ヲ以テシ調書ノ實質ヲ明瞭ナラシメ各利害關係人ノ其費用ヲ以テ破産目録ノ謄本ヲ求ムルコトヲ得破産法案第一〇五條民事訴訟法第二二四條ノ(前)商法第百十式)ニ基テ制定

(尚)報告書及ヒ貸借對照表ヲ作成シ管財人ハ商法第九百七十九條ニ基キ破産者ノ提出シタル届書及ヒ貸借對照表ヲ破産主任官ノ定メタル三十日ノ期間内ニ調査シ破産ニ關スル一切ノ狀況即チ破産ノ原因犯行ノ有無破産財團ノ現況ヲ取調ヘ其報告書ヲ作成シ之ヲ破産手續ノ指揮監督者タル破産主任官ニ提出スルコトヲ要シ破産主任官該報告書ヲ調製シ或ハ之ヲ修正シ或ハ之ヲ補充シ以テ之ヲ檢事ニ送致ス又管財人ハ破産者カ貸借對照表ヲ差出ササルトシテ自ラ之ヲ作成シ報告書ニ添ヘテ之ヲ破産主任官ニ提出スルコトヲ要ス此貸借對照表ハ破産者ノ貸方及ヒ借方ノ摘要ヲ示ス始末書ニ外ナラサルヲ以テ之ニ管財人ハ貸方ニ屬スル總財產殊ニ動産不動産有價證券現金破産者ノ債權及ヒ借方ニ屬スル總額殊ニ別除權取戻權財團債權破産者ノ債務等ヲ表示スルコトヲ要ス而シテ之カ爲メニ管財人カ其交付セラレタル帳簿商法第一〇〇五條第二項ニ基キ或ハ破産者其他ノ家族ニ問合ヲ爲シ又破産主任官ニ申立テ訊問商法第一〇二二條ヲ爲サシメタルニ因リテ得タル諸般ノ事情ヲ參考スルハ許スルコトナシ商法第一〇一六條第一項破産法案第一八三條但破産法案ニ於テ

ハ破産申立人カ貸借對照表ヲ差出スヘキ旨ノ規定ヲ設ケサルヲ以テ管財人ハ貸借對照表ヲ當然作成スヘキモトシ報告書ノ作成ハ煩雜ニ失シ實用ナキヲ以テ之ヲ報告書ノ作成ニ關スル現行破産法ノ規定ヲ删除シタリ

管財人ノ作成シタル報告書及ヒ貸借對照表ノ認證アル體本ハ裁判所書記課ニ備ヘテ公衆ノ展閱ニ之ヲ供シ且之ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス(商法第一〇一六條第二項第三項)是レ各利害關係人ヲシテ破産ノ狀況ヲ知ルコトヲ得セシメ又檢事ヲシテ犯行ノ有無ヲ搜查スルコトヲ得セシムルカ爲メナリ現行破産法ノ如クニ公衆ノ展閱ニ供スト云フハ汎漠ニ失シ立法上失當ナルヲ以テ之ヲ削除シ利害關係人ヲシテ破産法案第一百五條民事訴訟法第二百二十四條ノ規定ニ依リ記錄ノ閱覽ヲ爲スコトヲ得セシムルヲ以テ足レリトセリ又檢事ニ貸借對照表ヲ送致スルコトナシ蓋シ檢事ハ裁判所構成法第六條ノ規定ニ依リテ其職務ヲ完全ニ行フコトヲ得レバナリ

各利害關係人ハ其費用ヲ以テ報告書貸借對照表等ノ原本ヲ求ムルコトヲ得破産法案第一〇五條民事訴訟法第二二四條

破産法 手續規定 破産手続ノ進行 特別

(4) 保全處分 現行破産法ニ於テハ保全處分トシテ左ノ事項ヲ規定シタリ然レトモ這ハ管理ノ補助行爲ニシテ特ニ保全處分ト稱スルノ必要ナキヲ以テ破産法案ニ於テハ破産財團ノ管理及ヒ換價ノ題下ニ之ヲ規定シタリ但破産法案第一百十二條乃至第一百十八條ニ規定セル事項ハ破産債權ノ確定手續ニモ亦必要アルモノナルヲ以テ破産法案ニ於テハ第二編第一章ノ總則中ニ之ヲ規定シタリ詢ニ適當ナル立法ト思フ

(a) 拂渡差押命令 破産者ニ對シテ債務ヲ負ヒ又ハ破産財團ニ屬スル物ヲ占有スル者ハ其支拂又ハ交付ヲ管財人ニノミ爲スヘキコトヲ拂渡差押命令ヲ以テ其占ヲ催告セラレ又破産財團ニ屬スル物ヲ占有スル者ハ拂渡差押命令ヲ以テ其占有者シ優先權ヲ有スルトキハ其權利ヲ破産裁判所ノ定メタル期間内ニ破産主任官ニ對シテ届出ツヘキ義務ヲ負フヘキモノナリ故ニ拂渡差押命令ハ斯ル催告ヲ爲シ又斯ル義務ヲ負ハシムル裁判所ノ決定ナリト謂フコトヲ得其説明ハ前述シタル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ省略ス(商法第一〇〇六條第一項第九八〇條第一項第四號第五項第一〇二三條第一項破産法案第一五〇條但破産法案ニ於

テハ第二編第六章破産財團ノ管理及ヒ換價中ニ拂渡差押命令ニ關スル規定ヲ設ケスト雖モ此命令ノ性質ハ管理ノ補助行爲ナルコトハ洵ニ明白ナリ故ニ獨逸破産法ニ在リテハ破産法案第二編第六章ニ該當スル獨逸破産法第二編第三章中ニ規定シタルナリ

(b) 提示ノ義務 別除權者ニシテ其目的物ヲ占有スル者ハ管財人ノ求メニ依リ目的物ヲ提示シ且其評價ヲ許スヘキ義務ヲ負フ(商法第一〇〇六條第二項後段破産法案第一九七條故ニ斯ル別除權者カ其義務ヲ履行セザルトキハ管財人ハ訴ニ依リテ斯ル義務ノ履行ヲ強制スルコトヲ得是レ蓋シ管財人ハ破産債權者團體ノ爲メニ別除權ノ目的物ヲ受戻シ又ハ之ヲ賣却シ其實得金ヲ破産財團ニ組入ルルノ權限ヲ行フカ爲メニ該目的物ヲ閲覧シ及ヒ其價格ヲ確知スルノ必要アルニ由ルナリ

(c) 送達物ノ交付 破産裁判所ハ郵便局其他公私ノ運送取扱所ニ對シ管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産者ニ宛テタル郵便電報其他ノ送達物小包ノ如キヲ管財人ニ交付スヘキカ爲メニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得而シテ此

命令ハ職權ヲ以テ管財人當該官署其他ノ運送取扱所ニ送達セラルヘカラス是レ破産財團ニ屬スヘキ財産ヲ發見シ且破産者ノ實情ヲ知ルニ最モ適當ナル行爲ナリ(商法第一〇〇六條第四項破産法案第一八五條第一項但破産法案ニ於テハ現行破産法ニ於ケルカ如クニ命令ヲ發スト云フハ不穩當ナルヲ以テ囑託ニ改メ又私設運送取扱所ニ對シ管財人ニ送達物ヲ交付スル旨ヲ命スルモ道ハ事實上行ハレサルモノナルヲ以テ單ニ郵便又ハ電信ノ事務ヲ管掌スル官署ノミニ對シ囑託ヲ爲スコトセリ)

管財人ハ其受取リタル送達物ヲ開封スルコトヲ得是レ前者ノ如キ命令ヲ發スルコトヲ許スノ法意ヨリ生スル當然ノ結果ナリ然レトモ破産者ハ其利益保護ノ爲メニ送達物ノ開封ニ立會ヒ又ハ其閱覽ヲ求メ且其破産財團ニ關セサルモノノ交付ヲ求ムルコトヲ得隨テ管財人ハ之カ引渡ヲ拒ムコトヲ得ス(商法第一〇〇六條第三項憲法第二六條破産法案第一八五條第二項第三項破産法案ニ依レハ其他破産者ハ破産裁判所ニ對シ前示ノ囑託ヲ取消シ又ハ之ヲ制限例ヘハ或一定ノ送達物ニ限リテ管財人ニ交付スル旨ヲ囑託スル旨ヲ申立ツ

ルコトヲ得現行破産法ニ於テ斯ル趣意ノ明文ヲ缺クハ立法上ノ缺點ナリ破産法案第一八六條第一項

前示ノ命令ハ破産終結ノ決定アリタルトキハ破産法案第二七七條第二項參照裁判所之ヲ取消スラ當然ナリトス破産取消ノ決定確定シタルトキ亦然リ破産法案第一八六條第二項但破産法案ニ依レハ破産廢止ノ決定確定シタルトキ亦之ヲ取消スヘキモノトス

(4) 動産ノ封印 裁判所ハ破産宣告ト同時ニ債務者ノ動産ノ封印ヲ命ス蓋シ不動産ハ紛失又ハ隱匿ノ恐ナキヲ以テ之ニ封印ヲ爲スノ必要ナケレバナリ會社ノ破産ニ在リテハ連帶無限ノ責ヲ負フ總社員ノ動産ニ對シテ封印ヲ爲ス是レ連帶無限責任ノ效用ヲ害スルニ至ルヲ豫防スルカ爲メニシテ會社ノ破産ハ同時ニ連帶無限責任ノ法理ニ基キ其責任ヲ負フ是レ社員ノ破産ヲ惹起スト云フ法意ニ非ス然レトモ破産財團ニ屬セサル物件腐敗若クハ減價ノ爲メ即時ノ換價ヲ要スル物件又ハ封印ノ爲メニ繼續利用ヲ妨ケラレル物件例ヘハ破産財團ノ爲メニ破産者ノ營業ヲ續行スルニ必要ナル物件商法第一〇一七條參照ニ

ハ封印ヲ爲スコトナシ元來動産ノ封印ハ破産債權者團體ノ爲メニ之ヲ行フモ
ノナリ斯ル物件ニ對シ封印ヲ爲スハ却テ破産債權者團體ノ利益ト爲ラス又其
利益ヲ害スルニ至ル是レ法律カ破産財團ニ屬セサル物件ノ如キハ單ニ財産目
録ニ記載スルヲ以テ足レリトシ其他ノ物件ノ如キハ財産目録ニ記載シタル後
換價ノ爲メ或ハ繼續利用ノ爲メ管財人ニ之ヲ占有セシムルコトヲ要スト規定
シタル所以ナリ但特ニ高價ナル物ハ封印ヲ以テ之ヲ確實ニ保全スルコト難シ
蓋シ封印破毀ニ關スル刑法上ノ制裁ヲ被ルモ之ヲ隱匿セントスルノ決心ヲ爲
サシムルヲ以テナリ是レ法律カ斯ル物件ニ關シテハ財産目録ニ記載シタル後
即時ニ之ヲ管財人ニ交付スルカ又ハ一時裁判所ニ引取ルカノ特別處分ヲ規定
シタル所以ナリ手形ハ其權利ノ實行ニ付キ法律上必要ナル方式アルヲ以テ之
ニ封印ヲ施ストキハ失權スルノ恐アリ故ニ財産目録ニ記載シタル後管財人ニ
之ヲ占有セシメ手形權ノ實行ヲ容易ナラシムルヲ要スルコト固ヨリ當然ナリ
〔商法第一〇〇二條第一〇〇五條第二項〕第四項破産法案第一七九條第一項但破
産法案ニ於テハ現行破産法ノ如ク一面ニ於テハ封印ヲ爲スコトヲ要スル旨ノ

原則ヲ掲ケ他ノ一面ニ於テ斯ル原則ヲ無用視スルニ足ルノ例外ヲ設クルハ立
法上其宜キヲ得サルノミナラス必ス封印ヲ爲サシムルハ徒ニ管理手續ヲ煩雜
ナラシムルニ過キササルヲ以テ獨逸破産法第二百二十三條第一項ニ於ケルカ如ク
ニ封印ヲ爲スト否トハ管財人ノ意見ニ之ヲ一任シ若シ管財人ニシテ封印ヲ爲
ササルノ過失アレハ其責ニ任セシムルヲ以テ足レリトセリ是レ破産法案第百
七十九條第一項ニ必要ト認メタルトキハト規定セル所以ナリ
動産ノ封印ハ執達吏執達吏規則第三條カ動産封印ノ命令〔商法第九八〇條第一
項第三號第一〇〇二條第一項〕民事訴訟法第五三四條準用ニ基キ之ヲ爲ス又動
産ノ解封ハ管財人カ債務者ノ財産ヲ目録ニ載セ且之ヲ占有シタルトキニ於テ
破産主任官ノ命令ニ依リ執達吏之ヲ爲ス蓋シ此場合ニ於テハ財産紛失ノ恐ナ
キノミナラス封印カ管理ヲ妨害スルヲ以テナリ但財産目録作成以前ニ於テ目
録ニ記載スルカ爲メニ封印アリタル動産ヲ調査スルノ必要アルトキハ管財人
ハ破産主任官ニ解封ヲ申立テ執達吏ヲシテ解封ヲ爲サシムルコトヲ得若シ動
産ノ價格不分明ナルカ如キ事情ノ爲メニ即時ニ財産目録ニ記載スルコト能ハ

ナルト法ハ再封ヲ爲サシタ即時ニ財産目録ニ記載スルコトヲ得タルトキ之
ト同時ニ解封アルモノト知ルヘシ商法第一〇〇五條第一項第九八三條(破産法
案第三百七十九條及ヒ第百八十條ニ於テハ)封印又ハ解封ノ手續ヲ規定シ破産法
案第三百七十一條ニ於テ手續料ヲ規定シ現行破産法ノ規定ニ修正ヲ加ヘタリ)に
動産ノ封印及ヒ解封ニ關シテハ調書ヲ作り其認證原本ヲ裁判所書記課ニ備ヘ
以テ公衆ノ展閱ニ供ス(商法第一〇一四條第三項破産法案第一八四條)ニ付
(e) 帳簿ノ認證○破産者カ裁判所ニ提出シタル商業帳簿(商法第九七九條第一
項又ハ執達吏ヲシテ占有ノ上裁判所ニ提出セシメタル商業帳簿) (商法第九八
〇條第一項第三號)後日記載ノ増減變更等ノ紛議ヲ絶ツル爲メニ破産主任官ヲ
シテ現狀ヲ認證セシメ即時之ヲ管財人ニ交付ス是レ管財人カ貸借對照表及ヒ
報告書等ヲ作成スルヲ資料ト爲スヲ必要アルニ由ル(商法第一〇〇五條第三項
第一〇一六條破産法案第一八一條)但破産法案ニ於テハ一般破産主義ヲ採用シ
タルヲ以テ帳簿下シ又破産主任官ヲ廢止シタルヲ以テ之ニ換フルニ裁判所書
記ヲ以テシタリ) (商法第九七九條) (破産法案第一八四條) (商法第九八〇條)

(f) 破産者ニ關スル處分○破産財團ノ管理ノ補助トシテ破産者ニ關シテ爲ス
ノ處分ニ二種アリ破産者ニ對スル處分及ヒ破産者ノ爲メニスル處分是ナリ
第一 破産者ニ對スル處分ハ破産者ノ説明義務住所ヲ離レタルノ義務及ヒ其
自由ノ拘束ナリ破産者ハ破産ニ關シ必要ナル説明ヲ爲スコトヲ要ス是レ蓋シ
破産者ハ破産ノ目的ヲ達スルカ爲メニ其助スルノ義務ヲ負フモノナレハナリ
(商法第一〇二二條破産法案第一一八條)破産者ノ法定代理人モ亦斯ル義務ヲ負
フコトハ商法第一千二十二條ニ所謂其他ノ人ヲ指シテ明文ニ徴シテ明白ナリ破
産者ハ裁判所ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其位地即チ住居ノ設アル地ヲ離ルル
コトヲ得ス(商法第一〇〇三條第三項破産法案第一一二條)是レ蓋シ破産者ハ隨
意ニ其義務ヲ免ルルコトヲ得サルニ由ル許可ノ申立ヲ棄却シタル裁判ニ對シ
テハ現行破産法ニ在リテハ法律上別段ノ定ナキヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ
得ス破産法案ニ在リテハ之ニ反ス(破産法案第一〇九條)破産者ノ法定代理人モ
亦斯ル義務ヲ負フヤ當然ナリ破産法案第一一七條破産者カ其義務ヲ履行セサ
ル場合殊ニ逃走ヲ爲シ(即チ説明ノ義務ヲ履行セズ)明リニ位地ヲ離レタルノ義

務ヲ履行セシメ又財産ヲ隠シテ處アル場合ニ於テハ裁判所ハ破産者ノ監守ヲ命シ又破産者カ説明ノ義務ヲ免レンカ爲メニ出頭セザル場合ニ於テハ裁判所ハ破産者ノ引致ヲ命スルコトヲ得商法第一〇〇三條破産法案第一一三條第一二四條監守トハ破産者ノ法律ニ反對スル意思ヲ屈從スルカ爲メニ行ヒ強制監守又ハ破産財團ニ對スル危害ヲ豫防スルカ爲メニ行フ擔保的監守處分ニシテ又引致ハ出頭ヲ強制スル處分ナリ監守又ハ引致ヲ命シタル決定又ハ斯ル決定ヲ求ムル申請ヲ却下セル決定ニ對シテ現行破産法ニ在リテハ法律上別段ノ規定ナキヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス破産法案ニ在リテハ之ニ反ス(破産法案第一〇九條監守又ハ引致ヲ命シタル決定ノ執行及ヒ其費用負擔ノ方法ニ關シテハ商法施行條例第四十五條第四十八條及ヒ第四十九條ヲ參照スヘシ)商法施行法第一四七條破産法案第一一三條第二項第一一四條第一一五條監守ノ事由存セザルトキ即チ監守ノ必要カ止ミタルトキ殊ニ管財人カ破産者ノ財産ヲ財產目錄ニ記載シ且之ヲ占有シタルトキ破産者ノ逃走財産ノ隱匿ノ虞ナキニ至リタルトキ其他破産手續ヲ停止シタルトキ(商法第九八二條破産法案第一四六

條ハ裁判所ハ破産者若クハ管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産者ノ釋放ヲ爲スコト即チ其監守ヲ免スル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス又監守ノ事由存セザル事實ニ付キ確信ヲ置クコト能ハザルトキハ裁判所ハ必要ニ應シテ何時ニテモ出頭スヘキ旨ノ擔保ヲ供スルコトヲ條件トシテ破産者ヲ釋放スル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得擔保ハ破産者カ其義務ヲ履行セザル場合ニ裁判所指定ノ金額ヲ第三者カ支拂フコトニシテ或ハ對人擔保タルコトアリ或ハ物上擔保タルコトアリ或ハ現金ノ供託タルコトアリ但破産者ノ金錢ヲ以テ斯ル擔保ト爲スコトヲ得ス蓋シ這ハ破産財團ニ屬スル財産ナルヲ以テ擔保タルノ實益ナケレハナリ又破産者カ其義務ニ違反シタルトキハ擔保ヲ取上ケテ之ヲ財團ニ加ヘ以テ破産債權者ノ利益ニ歸セシム(商法第一〇〇四條商法施行條例第五〇條商法施行法第一四七條破産法案第一一六條第一項但破産法案ニ於テハ擔保ヲ立ツルコトヲ條件トシテ監守ノ決定ヲ取消スコトヲ許サス蓋シ擔保ヲ供スルコトヲ條件トスルニ非サレハ監守ノ決定ヲ取消スコトヲ得ザル場合ニ在リテハ寧ロ取消ヲ爲サザルニ若カザレハナリ)監守ヲ免スル旨ノ決定又ハ斯ル決定ヲ

求ムル申請ヲ棄却シタル決定ニ對シテハ現行破産法ニ在リテハ法律上別段ノ規定ナキヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス破産法案ニ在リテハ之ニ反ス破産法案第一〇九條破産者ヲ解放スル決定ノ執行ノ方法ニ關シテハ商法施行條例第五十條商法施行法第一百四十七條ヲ參照スヘシ破産法案第二一六條第二項第三項破産者ノ法定代理人ニ對シテ亦裁判所ハ監守又ハ引致ヲ命スルコトヲ得ルヤ當然ナリ破産法案第一一七條監守又ハ引致ノ必要アルニ至リタルトキハ裁判所ハ更ニ監守ヲ命シ又ハ引致ヲ命スルコトヲ得ヘシ

第二 破産者ノ爲メニスル處分トハ扶助料ノ給與及ヒ報酬ノ給與ニ外ナラス破産者ハ前述ノ如キ義務ヲ負ヒ又自由ノ拘束ヲ受クルコトアルヲ以テ破産者ヲシテ斯ル義務ニ違背シ又ハ自由ノ拘束ヲ受ケサルヲ得サルカ如キ境遇ニ至ラシメサルコトヲ要ス然ラスンハ徒ニ難ヲ人ニ責ムルモノト謂フニ是ヲ以テ破産者カ自然人ニシテ自ラ營利ノ業務ヲ執ルコト能ハス又ハ他ニ生活費ヲ得ルノ途ナキ場合ニ於テハ破産主任官ハ破産財團中ヨリ扶助料即チ破産者及ヒ其家族ノ生活上必要ナル費用ヲ破産者及ヒ其家族ニ給與スルコトヲ得商法

第一〇〇七條第一〇三二條破産法案第一八七條第一九二條第三五條第八號但破産法案ニ於テハ破産主任官ヲ廢止シタルヲ以テ之ニ換フルニ管財人ヲ以テシ特別ノ義務ニ對シ報酬ヲ給與スルハ當然ノ事項ナリ故ニ破産者カ管財人ノ求ニ因リ其執務ヲ補助シタル場合ニ於テハ破産主任官ハ破産者ニ報酬ヲ與フルコトヲ得商法第一〇一二條第二項第一〇二三條破産法案ニ於テハ斯ル趣意ノ文明ナシト雖モ管財人カ破産者ヲ雇入レタルトキハ之ニ報酬ヲ與フヘキモノナルコト民法上ノ規定ニ依リ明白ナリ破産法案第三五條第二號參照

第五 管財人ノ報告 管財人ハ通常第一回ノ債權者集會ニ於テ管財ノ處理破産法案第九十條ニ所謂破産財團ニ關シテ爲シタル處分ト同義ニシテ例ヘハ扶助料ノ給與破産者ノ營業ノ繼續等ノ如キ事項ノ如シ及ヒ其結果例ヘハ營業ノ繼續ノ有益ナルコト及ヒ財團ノ現況ニ付キ口頭ヲ以テ報告ヲ爲スコトヲ要ス是レ破産債權者ヲシテ破産手續ノ進行ニ付キ適當ナル決議ヲ爲サシムルカ爲メナリ商法第一〇三七條第一項破産法案第一九〇條但現行破産法ニ於テハ破産主任官カ破産手續ノ從來ノ成行ノ報告ヲ爲ス旨ヲ規定スト雖モ破産法案ハ

破産主任官ヲ廢シタル結果トシテ斯ル規定ヲ設ケス又破産ニ於テハ支拂不能ノ原因即チ破産ヲ爲スニ至レル事情ヲ報告スヘキモノト定メタリ破産法案ニ依レハ管財人ハ債權者集會ノ定ムル所ニ從ヒ債權者集會又ハ監査委員ニ破産財團ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス破産法案第二〇一條是レ管財人ノ不正ヲ豫防シ債權者ノ利益ヲ保護スルカ爲メニ債權者集會ヲシテ其決議ヲ以テ管財人ニ或時期ニ報告ヲ爲スノ義務ヲ負ハシムルコトヲ許シタルモノナリ破産法案第二〇一條參照

(乙) 破産財團ノ換價 破産財團ノ換價トハ破産財團ニ屬スル財産ニ依リ金錢若クハ金錢的價格ヲ得ル行爲ヲ全體ナリ(金錢的價格ヲ得ル行爲トハ例ヘハ破産債權者又ハ財團債權者ニ對シ法律上請求スルコトヲ得ヘキ金額殊ニ配當額報酬額ニ相當スル價額アル財産ニシテ破産財團ニ屬スルモノヲ交付スルカ如キ代物辨濟ヲ爲ス行爲ヲ謂フ)而シテ破産財團ノ換價ハ第一管理費用ヲ得ルカ爲メニ之ヲ爲ス此場合ニ於テハ管財人ハ必要ナル限度ヲ超ユテ破産當事者ノ利益ヲ害スヘカラザルナリ第二損失ヲ避久ルカ爲メニ之ヲ爲ス保存ニ著シキ

費用ヲ要スル物件又ハ損敗シ易キ物件ノ換價即チ是ナリ商法第一〇〇一條第一項破産法案第一八八條第二項第三配當ノ爲メニ之ヲ爲ス此場合ニ於テ管財人ハ總破産債權ノ數額ニ比シ過大ノ換價ヲ避ケ破産者ノ利益ヲ害セザルコトヲ要ス但協諾契約ノ豫期セラレタル間即チ第一債權者集會ノ終了マテ又若シ協諾契約ヲ提供アリタルトキハ其落著ニ至ルマテ換價ニ著手スルカラス商法第一〇三條第一〇七條第一項破産法案第一八八條第一項但破産法案第二百八十六條ニ在リテハ何時ニテモ強制和議ノ提供ヲ爲スコトヲ許シタルヲ以テ破産法案第八十八條但書ノ規定アル所以ナリ又破産財團ノ換價ハ管財人カ破産財團ニ屬スル財産ヲ各箇ニ又ハ一括シテ賣却シ例ヘハ商店ト共ニ總商品ヲ讓渡スルカ如キ)又ハ破産財團ニ屬スル債權ヲ取立テ(商法第一〇九條第一項又ハ讓渡シテ之ヲ爲ス)左ニ換價ノ手續ト收入金ノ供託トヲ略述スヘシ

(1) 換價ノ手續 破産財團ニ屬スル財産ヲ換價スルハ手續ハ原則トシテ民事訴訟法上ノ手續ニ依ル說賣ナリ故ニ動産ニ關シテハ執達吏又不動産ニ關シテハ其所在地ヲ管轄スル區裁判所カ說賣ノ機關トシテ說賣ヲ實施ス有期ノ債權

其他ノ財産権ハ民事訴訟法第六百二十五條及同第六百二十五條ノ規定ニ依リテ之ヲ換價ス例外トシテ動産ニ限リ相對賣却ノ許セリ是レ競賣ハ公平ニシテ且成ルベク高價ニ賣却スルコトヲ得ル由ク又相對賣却ハ手續ヲ省略シ費用ヲ節約スルニ適當ナル換價方法タルヲ以テ動産ニ限リ之ヲ許スモ破産財團ニ害ナキコトアルニ由ル商法第一〇一八條第一〇二條第一項破産法案第一八八條第一九八條第一九九條但破産法案ニ於テハ原則トシテ破産財團ノ換價ハ管財人ヲシテ其適當ト認めタル方法ニ依リテ之ヲ爲スモノトシテ不動産又ハ船舶ヲ目的トスル權利ニシテ任意賣却ヲ爲スニ付キ監査委員ノ同意ナキモノ及ヒ別除權ノ目的タル財産ハ例外トシテ民事訴訟法又ハ競賣法ノ規定ニ依リテ之ミ之ヲ爲スヘキモノトシタリ是レ蓋シ破産ニ在リテハ其性質上管財人ヲシテ成ルベク費用ヲ要セザル換價方法ヲ選擇スルコトヲ得セシムルヲ適當ナリトシテ原則ヲ設ケ又不動産及ヒ船舶ヲ目的トスル權利ハ重要ナル財産ナルヲ以テ又任意賣却ハ別除權者ノ利益ヲ害スルニ至ルコトアルヲ以テ例外ヲ設ケタルモノナリ又破産財團ニ屬スル財産ヲ換價スルノ時期ハ管財人カ適當ナリト

認めル時期ニ外ナラス故ニ財團ノ爲メニ即時ノ換價ヲ爲スヘキモノ例ハ損敗又ハ減價ノ虞アルモノ及ヒ保管ニ不便ナルモノハ即時ニ換價ニ著手シ然ラサルモノハ適當ナル時期ニ於テ換價ス商法第一〇二條第一項但本條ニ即時ニ換價ニ著手スルコトヲ要ストアルカ爲メニ反對ニ論決スルコト勿レ破産財團ノ管理ハ破産法案第七十八條ニ明示スルカ如クニ即時ニ之ヲ爲スコトヲ要スト雖モ破産財團ノ換價ハ即時ニ之ヲ爲スニ必要ナシ蓋シ破産財團ニ屬スル財産中即時ニ換價スルトキハ却テ破産財團ノ不利益ト爲ルモノアルノミナラス協諾契約ノ豫期セラレル間ハ破産財團ヲ換價スヘキモノニ非ザレハナシ破産法案ニ於テハ即時ニ換價スルヲ要スル事情アルニ非ザレハ管財人ハ一般ノ債權調査カ終了シタルトキニ於テ破産財團ヲ換價スヘキモノトシテ以テ早計ニ爲ス破産財團ノ換價ニ依リ有益ナル強制和議ニ因リ破産手續ノ終結ヲ妨クルコトナカラシメタリ洵ニ適當ナル立法ナリト思フ破産法案第一八八條別除權者カ法律ニ定メタル方法ニ依ラズシテ別除權ノ目的ヲ處分スル權利ヲ有スル場合ニ於テハ其權利ヲ害セザル範圍内ニ於テ管財人カ該目的ヲ換價ス

ルノ手續ヲ設クルコトヲ要ス現行破産法ニ於テ斯ル趣意ノ文明ヲ缺クハ立法上ノ缺點ナリ是レ破産法案第二百條ノ規定アル所以ナリ前記ノ諸條ノ關係ニ於テ(2) 收入金ノ供託 破産財團ニ屬スル財産ノ賣却及ヒ破産財團ニ屬スル債權ノ取立等ニ基キテ財團ニ收入スル金錢ハ管財人カ供託所ニ之ヲ供託シ破産主任官ノ支拂命令ニ依ルニ非テハ供託所ニ於テ之ヲ支出スルコトヲ得ス是レ徒ニ現金ヲ管財人ノ手ニ存セシムルハ獨リ不生産的ノ行爲利息ヲ生セサルヲ以テ管財人ノ費消其他紛失等ノ危険ヲ避ケ且濫費ヲ避クルカ爲メタリ但破産手續ノ進行ニ付キ通常必要ナル支出額ハ之ヲ管財人ノ手ニ存セシメ以テ供託手續ノ煩雜ヲ避クルモノトス(商法第一〇二〇條)而シテ若シ管財人カ故ナク供託ヲ遅延シタルトキハ供託ニ依リテ生スヘカリシ利息ヲ賠償スルノ責ニ任スルノミナラス不誠實ノ管財人トシテ解職セラルルコトアリ商法施行條例第四二條商法施行法第一四七條破産財團中ニ現存セル金錢モ亦同一ノ理由ニ因リ供託スヘキモノナリ(破産法案ニ於テハ破産財團ニ屬スル貨幣ノ保管方法ハ第一回ノ債權者集會前ニ於テハ裁判所假ニ之ヲ定ムルモノトセリ是レ蓋シ破産法

案ニ於テハ現行法ノ如ク保管ノ方法ヲ供託所ニ寄託スルコトニ限ルハ不便ニ失スト認メ且破産主任官ヲ廢止シタルニ由ル又有價證券其他ノ高價品ハ其性質上貨幣ト同シク之ヲ取扱フコトヲ要スルモノナリ而シテ破産財團ニ屬スル貨幣有價證券其他ノ高價品ノ保管方法ニ付キ重大ナル利害關係アルモノハ破産債權者ナリ故ニ保管方法ノ確定ハ第一回ノ債權者集會ノ決議ニ之ヲ委スルコトヲ正當ト認メタリ是レ破産法案第八十八條及ヒ第九十一條ノ規定アル所以ナリ又管財人カ裁判所ノ命令又ハ債權者集會ノ決議ニ基キテ寄託券ニ供託シタル貨幣有價證券其他ノ高價品ノ返還ヲ求ムル場合ニ於テハ管財人カ其職權ヲ濫用シテ切リニ高價品ノ返還ヲ求メ破産債權者ヲ害スルニ至ルノ弊ヲ豫防スルコトヲ要スルヤ當然ナリ是レ破産法案第二百一條ノ規定アル所以ナリ

(丙) 破産機關ノ干與 貸金ノ取立時効ノ中断登記ノ記入等ノ如キ破産財團ノ保存行爲ハ商法第一〇一九條破産財團ヲ利スルモ之ヲ損スルコトナシ故ニ斯ル行爲ハ管財人カ單ニ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ破産關係人ノ利害ニ重大ノ

關係アル處分行爲ハ其利害關係人ノ利益保護ノ爲メニ破産裁判所又ハ破産主任官ノ認可ヲ必要ナリトシ管財人ハ單獨ニ之ヲ爲スコトヲ得ス左ニ管財人ハ單獨ニ之ヲ爲スコト能ハサル管理及ヒ換價ニ關スル事項ヲ略述スヘシ

(1) 營業ノ續行 破産宣告ノ當時マテ破産者ノ爲シ察リタル營業ヲ突然廢スルハ破産者ニ對シテハ勿論破産債權者ニ對シテ利益ナルコトアリ是ヲ以テ現行破産法ハ破産裁判所ヲシテ破産主任官ノ申立ニ因リ管財人ノ意見ヲ聽キ其當否ヲ判斷シ決定ヲ以テ營業ノ續行ヲ許スコトヲ得セシメタリ商法第一〇一七條第一項破産法案第一八七條第一九一條但現行破産法ニ於テハ貸方ノ借方ニ超ユルコト判然ナルトキ又ハ協諾契約ノ豫期セラルル間ニ限ルト雖モ立法上斯ル場合ニ限ルノ理由ナキヲ以テ破産法案ニ於テハ斯ル制限ヲ設ケス又破産法案ニ於テハ營業ノ繼續ハ第一回ノ債權者集會前ニ於テハ裁判所假ニ之ヲ許可シ營業ヲ繼續スルヤ否ヤノ確定ハ利害ノ關係アル破産債權者ノ意思ニ一任スルヲ正當ナリト認メ第一回ノ債權者集會ニ於テ營業ノ繼續ニ付キ決議ヲ爲スコトヲ要スルモノトシタリ

破産者ノ營業ヲ續行スル場合ニ於テ管財人ハ破産財團ニ屬スル物件ヲ通常ノ營業外ニ賣却スルヲ利益ト認メタルトキ例ヘハ書籍ノ流行漸次ニ衰フルニ至リタルヲ以テ急速ニ賣却スルヲ利益ナリトシ營業的賣却ヲ爲スハ不利益ナリト認メタルトキハ破産主任官ノ認可ヲ得テ營業外ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得商法第一〇一七條第二項但破産法案ニ在リテハ斯ル趣意ノ規定ヲ設ケス是レ蓋シ斯ル事項ハ善良ナル管理者タルノ責任ヲ負フ管財人ノ判斷ニ一任シテ可ナルモノナレハナリ

(2) 商法第十九第九條ニ規定シタル行爲 管財人ハ破産者ノ意見ヲ聽キ且破産主任官ノ認可ヲ得タル後ニ非レハ左ノ行爲ヲ爲スニトヲ得ス(商法第一〇一七條破産法案第一九二條乃至第一九五條)但破産法案ニ於テハ破産主任官ノ廢シタルヲ以テ其認可ニ換フルニ第一回目ノ債權者集會ニ於テ破産法案第九十二條第一項第一號乃至第十三號ニ掲ケタル行爲ヲ爲ス場合ニ在リテハ裁判所ノ許可其他ノ場合ニ在リテハ監査委員ノ同意ヲ以テシ監査委員前送ノ如ク法律上之ヲ置クコトヲ要スル機關ニ非サルヲ以テ之ヲ置カザルトキハ極メテ

重要ナル行為ニ限リ債權者集會ノ決議ヲ經ルコトヲ要スルモノトシ又破産者ヲシテ其利害ニ重大ノ關係アル行為ニ付キ意見ヲ述ブルコトヲ得セシムルカ爲メニ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外破産者ノ意見ヲ聽クコトヲ要スルモノトシ其他破産者ノ利益ヲ保護スルカ爲メニ破産者ヲシテ裁判所ニ對シ破産法案第九十二條第一項ニ掲ケタル行為ニシテ監査委員ノ同意ヲ得タルモノノ執行ヲ假ニ中止ヲ命ジ且之ニ關スル決議ヲ爲サシムルカ爲メニ債權者集會ヲ招集スヘキ旨ヲ申立ツルコトヲ得セシム而シテ此ノ申立ニ關スル決定ニ對シテハ破産法案第九條ニ依リ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得又招集シタル債權者集會カ管財人ノ行動ニ付キ可決シタルトキハ破産法案第七十八條ノ規定ニ從ヒ其決議ノ執行ヲ禁止スルコトヲ得ルヤ明カナリ

第一 訴訟ヲ爲スコトハ管財人カ破産財團ニ關スル訴訟ヲ裁判所ニ繫屬セシムル行為ニ外ナラス破産債權ニ關スル訴訟ハ商法第一千二十六條以下ノ規定ニ依ルヘキモノナルヲ以テ換言スレハ破産財團ノ管理及ヒ換價ニ關セサル訴訟ナルヲ以

テ茲ニ所謂訴訟ニ包含セヌ又既ニ繫屬シタル訴訟ノ受繼ハ訴訟ヲ裁判所ニ繫屬セシムル行為ニ非ナルヲ以テ茲ニ所謂訴訟中ニ包含セヌ然レモ訴訟ノ提起アル以上ハ本訴タルト反訴タルト將テ督促手續タルモノト問ハサルモノトス故障及ヒ上訴ニ關シテハ疑アリト雖モ消極的ニ論決スルヲ正當ナリト認ム(商法第一〇一九條第二項第一號破産法案第九二條第一項第九號但破産法案ノ用語ハ狭キニ失ス)現行破産法ニ於テハ破産財團ニ關スル訴訟受繼ハ拒絕ニ關シテ何等ノ規定スル所ナシ然レトモ破産財團ノ減少ヲ惹起スルコトアルヘキ行為ナルヲ以テ訴訟ヲ爲スコトト同視スルコトヲ要ス是レ破産法案第九十二條第一項第十號以テ規定アル所以ナリトス(商法第九八五條第三項破産法案第六八條第六九條)

第二 和解及ヒ仲裁契約ヲ爲スコトハ(前出第一〇一六條)和解ニ依リ和解及ヒ仲裁契約ハ當事者間ニ利害アル行為ナルヲ以テ訴訟ヲ爲スコトト同視スルコトヲ要ス(商法第一〇一九條第二項第十號破産法案第九三條第一項第二號民法第二二條)

第三 買物ヲ受戻スコト

買物ノ受戻トハ別除權ノ目的ノ受戻ニシテ民法上買權ノ受戻ト異スヘカラス而シテ別除權ノ目的ノ受戻ヲ爲スニハ其前提トシテ別除權ヲ承認セザルヲ得ヌ是レ管財人ノ單獨ナル行爲ニ屬セザル所以ナリ(商法第一〇一九條第二項第三號破産法案第一三條)

第四 債權ヲ轉付スルコト

債權ノ轉付トハ破産財團ニ屬スル債權ノ讓渡ニシテ債權ノ取立ニ非ザルモノヲ謂フ債權ノ讓渡ハ債權ノ正則的換價方法ニ非ス是レ管財人ノ單獨ナル行爲ニ屬セザル所以ナリ(商法第一〇一九條第二項第四號破産法案第一九二條第一項第七號但破産法案ニ於テハ價額上ノ制限ヲ付シタリ)第五 相續又ハ遺贈ヲ拒絕スルコト相續又ハ遺贈ノ拒絕ハ破産財團ノ増加ヲ害ス故ニ管財人ノ單純ナル職權ニ屬セス(商法第一〇一九條第二項第五號破産法案第一九二條第一項第一號但破産法案ニ於テハ遺産相續ニ限リタリ是レ家督相續ハ破産法案第四十五條ニ依リ

限定承認ヲ爲スヘキモノナレハナリ

第六 消費借ヲ爲スコト

消費借ハ民法第十二條第一項第二號ニ所謂借財ト其意ヲ同シウス(商法第一〇一九條第二項第六號破産法案第一九二條第一項第六號)

第七 不動産ヲ買入ルコト

不動産ニ關スル權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ハ訴訟行爲ヲ爲スコトト同視スヘキコト民法第十二條第一項第三號ノ規定ニ依リ明白ナリ故ニ不動産ヲ買入ルルコトハ管財人ノ單獨ナル行爲ニ屬スルモノニ非ス(商法第一〇一九條第二項第七號但破産法案ニ於テハ破産財團ノ管理及ヒ換價ノ爲メニ不動産ヲ買入ルルコトナキヲ以テ斯ル趣意ノ法則ヲ是認ス)第八 權利ヲ拋棄スルコト權利ノ拋棄ハ破産財團ノ増加ヲ害スルヲ以テ明リニ之ヲ爲スコトヲ得ス義務ノ承認亦然ラン(商法第一〇九條第二項第八號民法第一二條第三號破産法案第一二條)

第九條 總て 財團ニ新ナル義務ヲ負ハシムルコト

破産財團ニ屬スル財產ニ付キ擔保權ヲ設定シ又ハ破産財團ニ爲シテ他ノ人ノ物件ノ賃借ヲ爲シテ如キ總て財團ニ新ナル義務ヲ負ハシムル行爲ニ關シテハ、重火ナルヲ以テ管財人ノ單獨ナル職權ニ屬セス商法第一〇一九條第二項第九號破産法案ニ於テハ斯ル曖昧ナル規定ニ立法士失當ナルヲ以テ之ヲ删除シ新ニ第九十二條第一項第二號乃至第五號及第七號八號ノ規定ヲ設テ管財人ノ單獨ナル職權ニ屬セラル事ヲ明示シ破産關係人ノ利益保護ヲ爲シテ遺漏ヲキラ期シタリ

第十條 第一項第一號ニ於テハ、買入以上右第一乃至第九ニ於テ略述シタルモノ外ニ尙ホ營業繼續行ニ關シテハ裁判所ノ認可破産財團ニ屬スル動産ノ相對賣却及ヒ破産財團ニ屬スル物件ノ營業外ノ賣却ニ關シテハ破産主任官ノ認可ヲ要スルモノト前述シタルカ如シ商法第一〇一七條第一〇一八條破産法案第一八七條乃至第一八九條第一九一條第二〇一條參照

以上略述シタル行爲ヲ管財人カ單獨ニテ爲シタルトキハ其行爲ハ權限外ニ涉

ルヲ以テ法律上無効ナリトス然レドモ破産法案ニ於テハ善意ノ第二項者ヲ保護スルカ爲メニ第九十七條ヲ設ケタリ民法第一〇一條參照

(丁) 管理及ヒ換價ニ關スル破産法案ノ特別ニ破産宣告ノ後破産財團ニ屬スヘキ財產カ破産者ニ歸屬シタル場合、匿名組合契約カ營業者ノ破産ニ因リテ終了シタル場合、無限責任又ハ保證責任ノ產業組合、破産場合相互保險會社、破産場合其他法人ノ破産ノ場合ニ於テハ破産財團ノ管理及ヒ換價ニ付キ簡便ナル手續ヲ設ケ利害關係人ノ利益ヲ害セサル範圍内ニ於テ破産債權者各爲メニ破産財團ノ管理及ヒ換價ヲ爲スモノト要ス現行破産法ニ於テハ斯ル趣意ノ法文ヲ缺ク

立法上ノ缺點ナリ是以破産法案第二百四條乃至第二百二十五條ノ規定アル所以ナリ

(四) 破産宣告ノ後破産財團ニ屬スル剩餘財產カ破産者ニ歸屬シタル場合、遺棄ノ破産宣告ノ後贈與、相續又ハ遺贈由儀リ又ハ營業ニ依リ破産者カ破産財團ニ屬スベキ財產ヲ取得シタル場合ニ於テハ管財人カ先ト善良ナル管理者ヲ注意ヲ以テ其財產ヲ負擔ニ屬スル債務ヲ履行シ次ニ殘存剩餘財產ヲ破産財團ニ組入

ルコトヲ要ス是レ蓋シ殘餘財産ニ非ズルハ破産財團ニ屬セザルニ由ル而シテ此場合ニ於テ管財人ハ破産法案第七十八條乃至第八十一條ノ規定ニ依リテ破産者ニ歸屬シタル財産ヲ占有シ且之ヲ管理シ必要アリト認メタルトキハ封印ヲ爲サシムルコトヲ要シ又殘餘財産ニ付キ財産目録及ヒ貸借対照表ヲ補充スルコトヲ要ス但破産者又ハ管財人カ破産宣告ノ前後ニ拘ハラズ相續又ハ包括遺贈ノ限定承認ヲ爲シタルトキハ管財人ハ民法第一千二十九條乃至第三十五條ノ規定ニ依リ相續財産ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス蓋シ這ハ限定承認者ノ義務ナルヲ以テナリ破産財團ニ屬スヘキ財産ノ負擔ニ屬スル債務カ管財人ノ履行スルコト能ハサル事項ナルトキハ管財人ハ破産者ニ屬スル純益ヲ破産財團ニ組入ルヘキモノトス破産法案第二一九條乃至第二二二條第四五條乃至第四八條

(2) 匿名組合契約カ營業者ノ破産ニ因リテ終了シタル場合ニ於テ匿名組合員カ未タ全部ノ出資ヲ爲ササルトキハ(全部ノ出資ヲ爲シタルトキハ匿名組合契約ノ性質上損失負擔ノ義務ヲ負フコトナシ)管財人ハ其組合員カ負擔スヘキ損失ノ額ヲ限度トシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得元來匿名組合ハ破産ニ因リテ終了スルヲ以テ匿名組合員ノ出資義務モ亦消滅スルヲ當然ナリトス然レトモ之カ爲メニ匿名組合終了ノ當時ニ存スル損失ヲ負擔スヘキ匿名組合員ノ義務ハ消滅スルモノニ非ス故ニ未タ全部ノ出資ヲ爲ササル匿名組合員ハ其負擔スヘキ損害ノ額ヲ限度トシテ出資ノ全額ニ非ズ破産財團ニ負擔者ノ支拂ヲ爲スコトヲ要スルキ當然ナリトス破産法案第二一八條商法第三〇二條

(3) 無限責任又ハ保證責任ノ産業組合ノ破産ノ場合ニ於テ其組合員ノ義務ハ無限責任ノ産業組合ニ在リテハ其組合員ノ全員ハ組合財産ヲ以テ其債務ヲ完済スルコト能ハサル場合同ニ於テ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔スルヲ以テ産業組合法案第二條破産法案第三六七條斯ル産業組合カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其組合カ其破産宣告ノ當時組合ニ現存スル財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナル

場合ニ於テ組合員ニ對シテ之ヲシテ其責任ノ限度内ニ於テ不足額ハ拂込ヲ爲サ
 シムルカ爲ルル有スル權利ハ當然破産財團ニ屬ス故ニ該權利ハ管財人カ破産
 財團ニ屬スル他人ノ債權ト同シテ債務者タル組合員ヨリ取立テ之ヲ換價スルモ
 ナリ而シテ其取立手續ハ破産法案第二〇五條乃至第二一六條ニ於テ規定セ
 るニ依リテ之ヲ爲スルコトヲ得必ズモ定款其他法律ニ定ムル方法商法第
 (4) 相互保險會社ノ破産ノ場合其組合員ノ全員ハ組合員ニ對シテ其對等ノ家
 相互保險會社ノ社員ノ責任ハ産業組合員ノ社員ノ責任ト異ナル所ナシ保險業
 法第三六條第三七條故ニ相互保險會社カ無限責任社員又ハ保險料ノ外一定ノ
 金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フ社員ニ對シテ有スル金額ヲ拂込シムル權利ノ
 換價手續モ亦無限責任又ハ保證責任ノ産業組合ノ破産ノ場合ト殆ト同一ナル
 コトヲ要ス是レ破産法案第二百十七條ノ規定アル所以ナリ組合員ノ對シテ
 (一) 法人ノ破産ノ場合 出資者等ハ亦債權トシテ當該法人ノ破産財團ノ換價トシテ
 法人殊ニ株式會社ニ對シ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テ其當時現存スル法人
 ノ財産カ其債務ヲ完済スルニ不足ナルトキハ管財人カ破産財團ノ換價トシテ

社員及ヒ株主ヲシテ出資又ハ株金ノ拂込ヲ爲カシムルコトヲ要ス蓋シ出資又
 ハ株金ニ付キ法人カ社員又ハ株主ニ對シテ有スル權利ハ破産財團ニ屬スル財
 産ニ外大テナシハナリ定款ニ出資及ヒ株金拂込ノ期間未定アルトキハ現行法
 ノ解釋トシテハ管財人ノ之ニ拘束セラルルモノナラズ否ハ頗ル疑ハシ故ニ破産
 法案ニ於テハ管財人カ辨濟期ニ拘ハラス社員又シテ出資ヲ爲カシ又ハ株主
 ナリテ株金ヲ拂込マシムルコトヲ得ル旨ヲ規定シタリ是レ成ルヘク破産手續
 ノ進行ヲ迅速ニスルノ法意ニ外ナラズ猶逸ニ於テハ辨濟期ニ拘束セラレ得ル
 說多數ヲ占メ佛蘭西ニ於テハ反對說多數ヲ占ム出資又ハ株金ノ拂込ヲ爲サシ
 ムル金額ハ法人ノ債務ヲ完済スルニ必要ナル限度ヲ超ユヘカラス何トモレハ
 法人カ其破産宣告ニ因リテ解散セラルヲ以テ爾餘ノ金額ハ拂込ハ其必要ナキヲ
 以テナリ故ニ社員及ヒ株主カ斯ル限度ヲ超ユル金額ヲ支拂ニ付キ其旨ヲ立證
 シテ異議ヲ申立シルコトヲ得猶逸ニ於テハ斯ル見解多數ヲ占メ佛蘭西ニ於テ
 ハ之ニ反シ又社員及ヒ株主ニ對スル取立ノ手續ハ管財人カ其適當ナリト認ム
 ル方法ニ依リ之ヲ爲スルコトヲ得必ズモ定款其他法律ニ定ムル方法商法第

一五二條第一五三條ニ依ルノ必要ナルハ何トナレハ社員及ヒ株主ハ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケ現存セル財産カ債務ヲ完済スルニ不足ナル場合ニ於テハ當然其責任ノ限度ニ於テ其義務ヲ履行スヘキモノナレバナリ其他甲株主ニ對シテハ其資力ニ應ジ未済株金ノ金額ノ支拂ヲ求メ乙株主ニ對シテハ其資力ニ應ジ未済株金ノ三分の一ノ支拂ヲ求ムルコトヲ得必ズシモ均一ナルコトヲ要セザルベシ斯ル見解ハ佛蘭西ニ於テハ有力ナル學者ノ容ルル所ナリト雖モ獨逸ニ於テハ反對ノ見解多シ

(三) 破産ノ終結手續ノ廣義ニ於ケル破産手續ノ終結ハ狹義ノ破産手續終結ノ方法ハ現行破産法ニ在リテハ配當及ヒ協議契約ニシテ破産法案ニ在リテハ破産ノ廢止配當及ヒ強制和議ナリ金錢債權ニ付テハ強制執行ノ終結ト相似トシ是レ破産手續ノ前通ノ如ク金錢債權ニ付テハ一般ノ強制執行ニ外ナラザルヲ以テナリ故ニ(第一)金錢債權ニ付テハ強制執行ニ於テ差押物ヲ換價スルニ強制執行ノ費用ヲ償ヒテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ強制執行ヲ爲サザル同シ(民事訴訟法第五六五條第六五六條破産手續費用ヲ償フニ足ル破産財團存セ

ナルトキハ現行破産法ニ在リテハ破産手續ノ進行ヲ停止シ破産法案ニ在リテハ破産ノ申立ヲ棄却シ(商法第九八二條破産法案第一四六條(第二)金錢債權ノ強制執行ニ於テ債權者カ其強制執行ヲ求ムル申立ヲ取消シタルトキハ強制執行ヲ廢止スルト同シ)破産債權者カ破産ノ廢止ニ同意シタルトキハ破産者ノ申立ニ因リテ破産手續ヲ廢止シ(破産法案第三三四條以下(第三)金錢債權ノ強制執行ニ於テ差押債權者カ債權者ト和解ヲ爲シ以テ強制執行ヲ終了スルト同シ)破産債權者團體カ破産者ト和解ヲ爲シ以テ破産手續ヲ終了シ(商法第一〇三八條以下破産法案第二八六條以下(第四)金錢債權ノ強制執行カ配當ニ因リテ終結スルト同シ)破産手續モ亦配當ニ因リテ終結ス(商法第一〇四五條以下破産法案第二五〇條以下第一第三及ヒ第四ハ現行破産法)是認スル所ニシテ第二ハ現行破産法ノ非認スル所ナリ之ニ反シテ破産法案ハ該四箇ノ終結方法ヲ是認シタリ左ニ之ヲ分説スヘシ

(イ) 破産ノ停止 破産宣告前裁判所ニ於テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ル財團ヲシテ認メタルトキハ破産ノ宣告及ヒ之カ公告ヲ爲シ其他ノ手續ノ進行ヲ停

止スル旨ヲ決定シ又破産宣告後裁判所ニ於テ斯ル財團ヲ認メタルトキハ其後ニ實施スベキ手續ノ續行ヲ停止スル旨ヲ決定シ破産手續其モトヲ終結スルコトナシ斯ル停止ノ決定ヲ破産ノ停止ト謂フ故ニ破産ノ停止トハ裁判所カ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ル財團ナシト認メタル場合ニ於テ破産宣告及ヒ其公告ニ關スル手續ヲ除クハ外其後ハ破産手續ノ續行ヲ止ムルカ爲メニ爲ス裁判ナリト謂フベシ(商法第九八二條破産法案第四六條第三四〇條但破産法案ニ於テハ裁判所カ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラストスルトキハ破産前ニ在リテハ破産ノ申立ヲ棄却シ破産宣告後ニ在リテハ破産ヲ廢止スル旨ヲ規定シタリ是レ破産財團ニシテ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラサルトキハ破産ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヲ以テナリ此ノ如ク破産宣告前ニ在リテハ破産ノ申立ヲ棄却シ現行破産法ニ於ケルカ如クニ破産ノ宣告ヲ爲スノ法則ヲ探ラザリシ理由ハ蓋シ破産ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニモ拘ハラズ破産ノ宣告ヲ爲スハ理論上失當ナルヲ以テナリ隨テ破産ノ停止ハ狹義ナル破産手續終結ノ方法ニ屬セス相互保險會社又ハ產業組合ニ於テ社員カ無限ノ責任

ヲ負フ場合及ヒ出資ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負フ場合ニ在リテハ斯ル法人ニ對スル破産宣告前ニ破産財團ノ狀況ヲ認ムルコト難シ隨テ破産財團カ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヤ否ヤヲ認定スルコト難シ是レ破産法案第百四十七條ノ規定アル所以ナリ(保險業法第三七條產業組合法第二條左ニ破産停止ノ要件效力及ヒ終了ヲ略述スベシ)

(甲) 要件ノ破産手續ノ停止ニハ

第一 實體的の要件トシテ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ル破産財團ノ存セザルコトヲ要ス蓋シ斯ル場合ニ於テハ破産財團ニ依リ破産債權者ニ辨濟ヲ受ケシムルコト能ハサルヲ以テ破産手續ヲ進行スルハ徒ニ金錢ヲ費シ手續ヲ煩ハスニ過キサルノミナラス破産手續費用ノ支途ナキヲ以テ事實上破産手續ヲ進行スルコト能ハサルニ由ル而シテ現行破産法ニ於テハ破産宣告前ニ裁判所ニ於テ破産者ノ財産ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタルトキト雖モ破産ノ宣告及ヒ其公告ハ之ヲ實施シ其後ノ手續ハ之ヲ停止スルモナリ是レ畢竟債務者ノ無實力ノ爲メニ却テ破産宣告及ヒ其效力ヲ免ルルノ奇觀ヲ避ケル

ニ外ナラス(商法第九八二條第一項前段破産法案第一四六條第二項但破産法案ニ於テハ前述ノ如ク破産ノ申立ヲ棄却スト規定シタルヲ以テ破産ノ原因存スル場合ニ於テハ債務者ヲ破産者ト看做シタリト雖モ其法意ハ現行破産法ト異ナルコトナシ)此場合ニ於ケル破産宣告及ヒ其公告ノ費用ハ債權者ノ豫納シタル金額ヲ以テ之ヲ支辨シ又ハ國庫ハ假ニ之ヲ支辨スヘキモノナリ(商法施行法第一三九條第一四〇條)

第二形式的要求トシテ破産裁判所ノ決定アルコトヲ要ス此決定ハ職權ヲ以テ又ハ管財人其他ノ利害關係人ノ申立ニ因リテ之ヲ爲ス又此決定ハ之ヲ公告シテ總テノ利害關係人ニ破産手續ノ進行ナキ旨及ヒ各破産債權者ニ強制執行手續ニ依リテ其權利ヲ行フコトヲ得ル旨ヲ知ラシム(商法第九八二條第一項下段此決定ニ對シテハ法律上明文ナキヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス立法上ノ見解トシテハ失當ナルコト勿論ナリ破産法案ニ於テハ破産ノ申立棄却ノ決定ニ對シテハ破産法案第九九條ニ依リテ不服ヲ申立ツルコトヲ得)

(乙) 效力 破産ノ停止ハ單ニ破産手續ノ續行ヲ止ムルノ效力ヲ有スルニ止マ

リ破産手續其モノヲ終結セシムルノ效力ヲ有セス故ニ破産者ニ對スル破産ノ效力ハ有效ニ存在シ破産者ニ爲シタル支拂ハ當然無効ナリ(商法第九八五條第一〇〇六條第九九〇條第九九一條等破産法案第一四八條第二項又破産債權者ニ對スル破産ノ效力亦有效ニ存在ス唯例外トシテ各破産債權者ハ破産手續ノ停止中強制執行手續ニ從テ其權利ヲ行フコトヲ得ル)ミ(商法第九八二條第三項第一〇四九條是レ蓋シ破産債權者ハ通常其數甚タ多ク且利害關係多キヲ以テ破産者ニ對スル注意ハ管財人カ破産者ニ對スル注意ヨリ深キヲ當然ナリトス故ニ各破産債權者ヲシテ各別ニ其權利ヲ行使スルコトヲ得セシメ以テ破産者カ破産宣告後ニ取得シタル財産ヲ保全シ破産手續ヲ再施シテ其權利ヲ全クセシムルニ在リ隨テ破産手續ヲ再施シタルトキハ各破産債權者ハ商法第四千九百九十九條ノ規定ニ依リテ取得シタル財産ヲ破産財團ニ返還セザルヘカラス但之カ爲メニ要シタル費用ハ不當利得ヲ許ササル法則ニ適用ニ依リ財團債權トシテ支拂ハルルヤ言フ埃タス

(丙) 終了 破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ破産者ノ財産アラルトキハ破産停

止ノ原因ナキニ至ルカ故ニ裁判所ハ職權ヲ以テ又ハ管財人其他ノ利害關係人ノ申立ニ因リ停止シタル破産手續ノ再施ヲ命シ之ト同時ニ破産停止ノ終了ヲ告ク而シテ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ破産者ノ財産ハ存在ハ顯著ナル場合ヲ除クノ外各利害關係人之ヲ證明スルコトヲ要ス是レ輕忽ニ破産手續ヲ再施シ無益ノ費用ヲ生スルノ弊害ヲ防止スルノ法意ニ出ツ(商法第九八三條第二項破産法案第一四六條第一項下段但破産法案ニ於テハ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ル破産財團アルニ至リタルトキハ更ニ破産人申立ヲ爲スコトヲ得又破産ノ申立人カ其費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ヲ豫納シタルトキハ破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタルカ爲メニ破産ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得是レ蓋シ破産財團ノ狀況ハ破産宣告ノ當時ニ於テハ未タ之ヲ正確ニ知ルコトヲ得サルモノナルヲ以テナリ)

停止シタル破産手續ノ再施ハ破産手續ノ續行ニシテ一旦終結シタル破産手續ヲ再ヒ開始スルニ非ス故ニ協議契約ノ取消後ニ於ケル破産手續ノ再施ト異ニシテ破産手續ノ停止中破産者ノ爲シタル行爲ヲ有效視スルコトヲ得ヌ又破産

手續再施ノ決定ハ法律上別段ノ規定ナシト雖モ之ヲ公告シ以テ各利害關係人ニ知ラシムルコトヲ要ス

(5) 破産ノ廢止ハ破産ノ廢止ハ破産法案ノ採用シタル破産手續終結ノ方法ニシテ現行破産法ニ於テ存セザル所ナリ

(6) 破産ノ廢止ハ破産手續ノ續行ヲ妨グル事實ニ依ルル破産手續ノ方法ナリ

(1) 破産手續ノ續行ヲ妨グル事實ニハ二箇アリ届出ヲ爲シタル總破産債權者カ破産手續ヲ續行スル權利ヲ拋棄シタル事實及ヒ破産宣告後破産財團カ破産手續費用ヲ償フニ足ラサル事實即チ是ナリ第一破産手續ノ續行ハ届出ヲ爲シタル總破産債權者ノ爲メニ之ヲ爲ス故ニ斯ル破産債權者ハ破産手續ヲ續行スルノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得而シテ此場合ニ於テハ破産債權者團體及ヒ破産的差押權消滅スルヲ當然ナリトス蓋シ此團體及ヒ此權利ハ何レモ各破産債權者ヲシテ破産手續ニ從テ其權利ヲ行フコトヲ得セザルカ爲メニ存スルモノナルハナリ故ニ届出ヲ爲シタル總破産債權者カ破産手續ヲ續行スルコトヲ欲セザルノ事實發生シタルトキハ破産手續ヲ續行スルコトヲ得ヌ第二破産手續ハ

破産財團ヲ以テ破産債権者ニ辨濟ヲ得セザルカ爲メニ之ヲ續行ス故ニ破産
 宣告ノ後破産手續費用ヲ償フニ足ルヘキ破産財團存セザルニ至ラタルトキハ
 破産ノ目的ハ事實上之ヲ達スルコト能ハス隨テ斯ル事實發生シタルトキハ破
 産手續ヲ續行スルコトヲ得ス(2)破産手續ノ續行ヲ妨タルノ事實存スルニ至リ
 タルトキハ破産手續ヲ終結アルヲ當然ナリトス破産債権者カ破産手續ノ續行
 ヲ欲セザルニモ拘ハラヌ破産手續ヲ存続スルハ何等ノ必要ナク又破産ノ目的
 ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルニモ拘ハラヌ破産手續ヲ存続スルハ何等ノ
 實益ナシ(3)此ノ如ク破産ノ廢止ハ破産手續ヲ續行ヲ妨タル事實ニ基ク破産手
 續終結ノ方法ナルヲ以テ之ニ依リテ破産手續ヲ終結シタルトキハ破産債権者
 ハ協議契約強制和議又ハ配當ニ依リ破産手續ヲ終結シタルトキト異ニシテ破
 産手續ニ從テ何等ノ満足ヲ受タルコトナシ

現行破産法ニ於テハ破産手續續行ノ權利拋棄ニ依ル破産手續終結ノ方法ヲ認
 メザルハ立法上ノ缺點ニシテ又現行破産法ニ於ケルカ如クニ破産宣告ノ後破
 産ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至ラタルニモ拘ハラヌ破産手續ヲ終結セム

シテ單ニ之ヲ停止スルニ止メタルハ理論上其當ヲ得ス是レ破産法案ニ於テ破
 産ノ廢止ヲ規定シ現行破産法ニ修正ヲ加ヘタル所以ナリ

左ニ破産手續續行ノ拋棄ニ依ル破産廢止ノ手續及ヒ破産財團ノ不足ニ依ル破
 産廢止ノ手續ヲ略述スヘシ

(甲) 破産手續續行ノ拋棄ニ依ル破産廢止ノ手續 此手續ニ關シテハ他ノ手續
 ニ於ケルト同シク裁判前手續裁判手續及ヒ裁判ノ效力ヲ研究スルコトヲ要ス

(1) 裁判前手續 破産ノ廢止ニハ

第一 形式的要件トシテ破産者ノ申立アルコトヲ要ス(破産法案第三四三條第
 二八七條第二二八條破産者ハ債權届出ノ期間經過ノ後配當又ハ強制和議ニ依
 ル破産手續終結アルマテ何時ニテモ破産ノ廢止ヲ申立ツルコトヲ得(破産法案
 第三七〇條商事非訟事件印紙法第三條第二號破産手續續行ノ拋棄ニ依ル破産
 ノ廢止ハ破産者ノ利益ノ爲メニス故ニ裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リテ破産ヲ
 廢止シ職權ヲ以テ之ヲ廢止スルコトナシ破産ノ廢止ハ破産手續カ配當又ハ強
 制和議ニ依リテ終結スル以前ニ於テ破産手續ヲ終結スル方法ナリ故ニ破産廢

案ノ申立ハ破産手續カ配當又ハ強制和議ニ依リテ終結シタル後ニ之ヲ爲スコトヲ得ヌ又破産ノ廢止ハ債權届出ノ期間經過ノ後ニ非サレハ之ヲ申立ツルコトヲ得ヌ何トナレハ破産廢止ノ申立ニハ後述ノ如ク届出ヲ爲シタル總破産債權者ノ同意アルニテハ要スレバナリ破産法案第三三四條第一項破産者カ破産廢止ノ決定確定マテ何時ニテモ其申立ヲ取下クルコトヲ得ルハ論ヲ俟タサル所ナリ

第二 實體的要件トシテ届出ヲ爲シタル總破産債權者ノ同意アルコトヲ要ス(破産法案第三三四條第一項)

(a) 破産ノ廢止ニ關スル各破産債權者ノ同意ハ甲破産債權者カ若シ他ノ破産債權者ニ於テ破産手續ニ從ヒ其權利ヲ行フノ權能ヲ拋棄セハ自己モ亦之ヲ拋棄スル旨ノ意思表示ニシテ一方の訴訟行爲ナリ故ニ此意思ハ各破産債權者カ書面又ハ口頭ヲ以テ(破産法案第一〇條第一〇五條民事訴訟法第一三五條直接ニ裁判所ニ對シテ之ヲ爲シ又ハ間接ニ破産者ニ對シテ之ヲ爲ス後者ノ場合ニ於テハ破産者ハ破産債權者ノ同意アリタルコトヲ證スル書面ヲ提出スルコ

トヲ要ス破産法案第三三六條)

(b) 届出ヲ爲ササル破産債權者ハ破産手續ニ依リテ其權利ヲ行使セサル者ナルヲ以テ破産ノ廢止ニ付キ其同意ヲ要スルコトナキヤ當然ナリ之ニ反シテ届出ヲ爲シタル破産債權者ハ破産手續ニ因リテ其權利ヲ行使シタル者ナルヲ以テ破産ノ廢止ニ付キ其總破産債權者優先權アル破産債權者又ハ優先權ナキ破産債權者ノ同意ヲ要スルコト言フタタス而シテ届出ヲ爲シタル破産債權者中其債權ノ確定セル者ノ同意ハ絕對的ニ之ヲ必要トスト雖モ其債權ノ未タ確定セサル者ノ同意ハ絕對的ニ之ヲ必要トセス斯ル破産債權者カ破産ノ廢止ニ付キ同意ヲ爲ササル場合ニ於テハ裁判所ハ其債權者ノ同意ヲ必要トスルヤ否ヤヲ自由ナル意見ニ從テ判定ス(破産法案第二三四條第一項第三項是レ單ニ債權ノ未確定ナル破産債權者ノ不同意アルカ爲メ破産ノ廢止ヲ許ササルハ破産者ノ利益保護ニ薄キヲ以テナリ但不同意ノ債權者債權ノ確定セルモノナルト否トニ拘ハラス)アル場合ニ於テ破産者カ他ノ破産債權者ノ同意ヲ得テ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタルトキハ之ニ依リ不同意ノ正當ナル理由ナキ

ニ至リタルヲ以テ破産ノ廢止ノ申立ヲ妨クルコトナシ而シテ此場合ニ於テハ破産者ハ其旨ヲ證スル書面ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス(破産法案第三三四條第二項第三三六條)但獨逸破産法ニ在リテハ不同意ノ債權者アル場合ニ於テ其債權確定セルトキハ破産者カ他ノ破産債權者ノ同意ヲ得テ之ニ辨濟ヲ爲スニ非サレハ破産ノ廢止ヲ妨クルモノナリ)各破産債權者カ破産ノ廢止ニ付キ同意ヲ爲スニ至リタル原因例ヘハ裁判外ノ和解又ハ辨濟ハ法律ノ間フ所ニ非ス隨テ之ヲ破産廢止ノ申立ニ表示スルコトヲ要セス

第三 法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ尙ホ實體的要件トシテ豫メ定款ノ變更ニ關スル規定ニ從ヒ法人繼續ノ手續ヲ爲スコトヲ要シ又其旨ヲ證スル書面ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス是レ蓋シ破産ノ廢止ハ法人ヲ繼續スルニ非サレハ其實益ナキヲ以テナリ(破産法案第三三五條第三三六條第三四三條第三一四條)

裁判所ハ破産廢止ノ申立ヲ適法ナリト認メタルトキハ其申立アリタル旨ヲ公告シ且其申立ニ關スル書類ヲ裁判所書記課ニ備ヘ置キ破産債權者ノ閱覽ニ供

スルコトヲ要ス是レ破産債權者ヲシテ法定ノ期間内ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得セシメンカ爲メナリ(破産法案第三三七條第一二〇條第一二一條)

破産債權者ハ前示公告ノ日ヨリ二週間内ニ破産ノ廢止ニ付キ裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得是レ破産債權者ヲシテ其利益ヲ防禦スルコトヲ得セシムルカ爲メナリ破産ノ廢止ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル破産債權者ハ勿論未ダ届出ヲ爲ササル破産債權者ト雖モ異議ヲ申立ツルコトヲ得但後者ハ其債權ノ存在ヲ疏明スルコトヲ要ス是レ破産債權者ナリト稱シテ猥ニ異議ヲ申立ツルカ如キ障害ヲ豫防スルカ爲メナリ異議ノ申立ニ付テハ甲破産債權者ハ自己ノ同意ニ關スル瑕瑾ハ勿論乙破産債權者ノ同意ノ瑕瑾ヲ原因ト爲スコトヲ得何トナレハ破産廢止ノ要件ハ裁判所ノ職權ヲ以テ調査スヘキモノナレハナリ(破産法案第三三八條)

(2) 裁判手續 裁判所ハ先ツ破産廢止ノ申立ノ適否ヲ調査シ破産廢止ノ申立人ハ裁判所ノ注意ニ依リ破産法案第三百三十六條ニ規定セル書面ヲ後日提出スルコトヲ得ルヤ言ヲ埃タス(破産廢止ノ申立ヲ不適法即チ破産法案第三百三

十四條ニ定メタル要件ヲ具備セザルモノト認メタルトキハ決定ヲ以テ不適法トシテ破産廢止ノ申立ヲ棄却シ職權ヲ以テ之ヲ申立人ニ送達ス(破産法案第一〇五條第一)〇九條民事訴訟法第二四五條次ニ破産ノ申立ヲ適法ト認メタルトキハ前述ノ如ク其旨ヲ公告シ(破産法案第三三七條)異議申立ノ期間經過ノ後破産者管財人及ヒ異議ヲ申立テタル破産債權者ノ意見ヲ聽キ又ハ職權ヲ以テ必要ナルルトキハ他ノ破産債權者及ヒ監査委員ノ意見ヲ聽キ又ハ職權ヲ以テ必要ナル調査ヲ爲シ(破産法案第一〇條)破産廢止ノ申立ニ付キ決定ヲ爲スコトヲ要ス(破産法案第三三九條)而シテ破産廢止ノ申立ヲ理由ナシトシテ棄却シタル決定ハ職權ヲ以テ之ヲ破産者ニ送達シ(破産法案第一〇五條第一)〇九條第二四五條又破産廢止ノ決定ハ之ヲ公告ス(破産法案第三四一條第一)〇九條第二二〇條乃至第一二二條

(3) 裁判ノ效力 破産廢止ノ決定カ確定シタルトキ即チ該決定ノ公告後七日ノ不變期間ヲ經過シタルトキハ(破産法案第一〇九條第二二二條)民事訴訟法第四六六條

第一 異議ナキ財團債權ニ付テハ管財人ハ辨濟ヲ爲シ又異議アル財團債權ニ付テハ管財人ハ供託ヲ爲スコトヲ要ス(破産法案第三四二條)是レ蓋シ財團債權ハ破産財團ヲ以テ辨濟スヘキモノナルヲ以テナリ

第二 破産債權者ハ債權表ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得(破産法案第三四三條)第二八二條

第三 破産者ハ破産財團ニ屬スル財産ノ管理及ヒ處分ノ權能ヲ回復スルコトヲ得(破産法案第三四三條)第三一三條其他管財人ハ計算ノ報告ヲ爲ス(破産法案第一六四條)第三四三條第三一一條(破産法案第一二六條乃至第一三〇條參照)

(乙) 破産財團ノ不足ニ依ル破産廢止ノ手續ハ裁判所ハ破産宣告ノ後破産財團ヲ以テ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタルトキハ破産債權者破産者又ハ管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破産廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ハ決定前ニ債權者集會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス是レ債權者集會ニ於テ各破産債權者ヲシテ破産手續費用ヲ償フニ足ル破産財團存スル旨ヲ立證シテ破産ノ廢止ヲ避クルコトヲ得セシムルノ法意ニ出ツ隨テ斯ル意見ヲ聽カスシテ

爲シタル破産ノ廢止ハ即時抗告ヲ以テ之ヲ攻撃スルコトヲ得ヘシ債權者集會ノ意見ヲ聽クコトハ裁判ノ成立要件ニ非ス然レトモ破産債權者カ破産手續ノ費用ヲ豫納シタル場合及ヒ破産法案第四百十七條ニ掲ケタル場合ニ於テハ單ニ破産手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ破産財團存セサルノ事由ニ基キテ破産ノ廢止ヲ爲スコトヲ得ス破産法案第四百十六條及ヒ第四百十七條ノ説明参照破産廢止ノ申立棄却ノ決定ニ對シテハ各申立人カ又破産廢止ノ決定ニ對シテハ破産債權者管財人又ハ破産者カ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得破産法案第三四〇條

以上略述シタル手續以外ノ手續及ヒ效力ニ關シテハ破産手續進行ノ拋棄ニ依ル破産ノ廢止ノ説明ヲ参照スヘシ破産法案第三四一條乃至第三四三條

(ハ) 配當 破産ハ一ノ強制執行ナリ故ニ破産手續ハ民事訴訟法ノ強制執行ト同シク配當ニ依リテ終結ス(民事訴訟法第六二六條乃至第六三九條第六九一條以下參照) 破産債權者ニ對シ破産財團ヲ分配スルハ行爲ナリ配當ハ通常金錢ヲ

以テ之ヲ爲ス蓋シ金錢ハ其性質上各破産債權者ニ對シ其債權額ノ割合ニ應ジテ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルヲ以テナリ是ヲ以テ金錢ニ非サル破産財團ハ配當以前ニ之ヲ換價スルコトヲ要ス(商法第一〇四八條) 財團ノ換價故ニ各破産債權者ハ金錢ノ支拂ニ換ヘ他ノ物件ヲ受クルコトヲ強制セラルコトナシ但破産債權者ノ同意アルトキハ金錢配當ニ代フルニ實物配當ヲ以テスルコトヲ得ヘシ配當ノ意義配當ニハ立法上二大主義アリ一回配當主義及ヒ數回配當主義是ナリ前者ハ破産財團ヲ悉ク換價シタル後ニ於テ配當ヲ爲スノ主義ニシテ後者ハ配當ニ足ルヘキ財團ノ生スル毎ニ配當ヲ爲スノ主義ナリ配當スルニ足ル破産財團存スルニモ拘ハラズ破産財團ヲ悉ク換價スルマテハ各破産債權者ニ對スル支拂ヲ猶豫スルハ不必要ニシテ又破産債權者ノ不利益ナリ故ニ近世諸國ノ破産法ハ皆數回配當主義ヲ認メタリ現行破産法(商法第一〇四六條)……配當ニ足ル財團ノ生スル毎ニ(商法第一〇四七條)……每回……及ヒ破産法案破産法案第二五〇條第二五一條第二六五條ニ於テモ亦然リ此配當主義ヲ是認スルトキハ其當然ノ結果トシテ理論上少クモ二種ノ配當手續アルコトヲ注意セサルヘカ

ラス中間ノ配當及ヒ最後ノ配當即チ是ナリ中間ノ配當トハ破産手續ノ終結前
 「ニ行フ配當ニシテ最後ノ配當トハ破産手續ヲ終結スルカ爲メニ行フ配當ナリ
 前者ハ破産手續中各破産債權者ニ配當スルニ足ルヘキ財團ノ生ズル毎ニ之ヲ
 爲シ後者ハ破産財團ノ換價終了後ニ於テ之ヲ爲ス但中間配當ハ普通ノ債權調
 査會ノ終了前ニ之ヲ爲スヘキモノニ非ス何トナレハ此調査會終了ノ時ヨリ配
 當ノ基礎アルニ至ルヲ以テナリ商法第一〇四六條配當ハ普通ノ調査終リタル
 後……破産法案第二五〇條一般ノ債權調査終了ノ後……破産法案ニ於テハ尙
 ホ追加ノ配當ト稱シ最後ノ配當手續完了後配當スヘキ破産財團アルニ至ルト
 キハ簡易ノ手續ニ依リテ之ヲ配當スルノ手續ヲ設ケタリ破産法案第二七八條
 然レトモ其法律上ノ性質ハ最後ノ配當手續ノ續行ニ外ナラス配當手續ノ種類
 普通破産債權者ノ配當ニ供スヘキモノハ財團債權商法第一〇三二條及ヒ優先
 權アル債權ヲ支拂ヒタル後ニ殘存スル破産財團タリ商法第一〇四五條第一項
 此二種ノ權利ニ對スル支拂ハ普通債權者ニ對スル配當以前ニ爲スノ理由ハ前
 述セル所ナルヲ以テ茲ニ之ヲ贅セス而シテ優先權アル債權ヨリ先ニ財團債權

ニ對スル支拂ヲ爲スコトハ文理解釋上條文ノ順序ヨリ推理シテ明白ナルノミ
 ナラス財團債權ノ性質上亦明白ナリト謂フヘシ但破産者カ資本ヲ分チテ營業
 ヲ爲シ且破産シタルトキハ各營業ニ對スル債權者ハ營業ニ屬スル資本即チ財
 團ヨリ他營業ニ對スル債權者ヨリ優先シテ辨濟ヲ受ク蓋シ商取引ハ資本ニ信
 用ヲ置クヲ通常ノ狀態トシ隨テ資本ヲ分チテ營業ヲ爲ス者カ破産シタル場合
 ニ於テ斯ル優先權ヲ設ケサルトキハ大ニ取引上ノ信用ヲ害スヘケレハナリ配
 當ノ目的物左ニ配當手續ノ大要及ヒ效果ヲ略述スヘシ
 (A) 配當ノ準備 管財人ハ配當ノ準備トシテ配當案ヲ調製セサルヘカラス此
 配當案ハ破産主任官ノ署名捺印ニ關スル明文ヲ缺クハ我現行慣例ニ反ス即チ
 認可ノ形式ヲ得テ公衆ニ展覽セシムルカ爲メニ裁判所書記課ニ備ヘ置キ且其
 旨ヲ公告セサルヘカラス商法第一〇四六條第一項是レ配當ノ公平ナルコトヲ
 期スル爲メナリ配當案ニ記載スヘキ事項ニ關シテハ法律上明文ヲシト雖モ配
 當案ハ配當實行ノ基礎ヲ爲スモノナレハ配當ニ與ルヘキ債權者ノ氏名員數及
 ビ債權額配當セラルヘキ金額、既ニ支拂ヒタル配當額其他未濟額等ヲ表示スル

一適當ナリトス故ニ配當案ヲ調製スルニ最モ適當ナル材料ハ債權表ナリトス
二商法第一〇三四條

配當ニ與ルヘキ債權者トハ適當ナル時期ニ債權ノ届出ヲ爲シ且調査會ニ於ケル承認又ハ判決ニ因リ確定シタル破産債權ヲ有スル債權者ナリ蓋シ破産債權ハ承認即チ裁判上ノ認諾又ハ判決ニ因リ確定セラレタルニ由リテ確定力ヲ得隨テ執行シ得ヘキモノト爲レハナリ是ヲ以テ條件附債權者モ亦配當ニ與ルヘキ債權者ト爲ル但後述ノ如ク停止條件附債權者ニ對シテハ理論上割前ヲ留存シ解除條件附債權者ニ對シテハ之ヲ支拂フ條件成就ノ場合ニ處スルカ爲メニ返還ヲ擔保スル保證ヲ立テシムルヲ可ナリトスルコトハ前述セル所ナリ然リ而シテ別除權ヲ行使シ且届出及ヒ確定ノ手續ヲ踐ミタル債權者カ優先權ヲ拋棄シタル限度又ハ擔保物ノ賣拂代金ヨリ完全ナル辨濟ヲ受ケザルトキニ其未濟額ニ付キ破産手續ニ從テ破産財團ヨリ辨濟ヲ受タルヲ手續即チ配當ニ與クル方法ニ關シテハ我商法ニ明文ヲ缺ク然レトモ此種ノ債權者ノ權利及ヒ他ノ破産債權者ノ權利ヲ完ウセシムルカ爲メニ管財人ハ前示ノ債權者カ破産財團

ヨリ配當ヲ受クヘキ旨ノ申立ヲ爲シタルトキハ割前ヲ留存シ優先權ノ拋棄又ハ不足部分ノ證明ヲ爲シタルトキハ留存シタル割前ヲ交付スヘキモノト思ハル
債權ヲ正當時期ニ届出テタルモ債權調査會ニ於テ異議ヲ受ケタルカ爲メニ債權確定ノ訴訟ヲ提起シタル債權者及ヒ正當時期ニ届出ラ爲スコト能ハサル債權者即チ届出及ヒ調査ノ爲メ別段ノ期間ノ定メラレタル在外債權者ハ債權未確定ノ故ヲ以テ理論上配當ニ與ルヘキ債權者ト謂フヘカラス然レトモ前者ハ破産手續ニ於ケル權利ノ實行ニ怠慢ナク又後者ハ特定期間ニ届出ラ爲ス權利ヲ有スル者ナルヲ以テ債權未確定ヲ理由トシ配當ニ與ラシメザレハ不當ナル異議ノ爲メニ正當ナル權利者ノ權利ヲ害シ又在在外債權者ノ權利ヲ害スルニ至ルヘシ此種ノ債權ノ確定ヲ待タンカ破産手續ノ終結ニ遲滞ヲ來スニ至ルヘシ是ニ於テカ法律ハ前示ノ債權ノ確定以前ニ爲ス配當ニ於テ其債權者ニ歸スル割前ヲ留存スルモノト規定セリ商法第一〇二九條後段故ニ管財人ハ配當ニ與ルヘキ債權者ニ準シテ配當案ニ此種ノ債權者ノ氏名等ヲ記載セザルヘカラス

而シテ留存シタル割前ハ破産債權ノ確定シタル場合ニ之ヲ債權者ニ交付シ留存シタル割前ニ付キ生シタル利息ヲモ交付スヘキヤ否ヤニ關シテハ學者間ニ爭アリ、リビエール氏ノ如キハ從ハ主ニ隨フノ原則ニ依リ債權者ノ有ニ歸スヘキモノトシ、ルースアールド氏ノ如キハ留存ハ支拂ト同一ニ非ス且破産財團ニ對シテハ利息ヲ停止スヘキモノナレハ留存割前ノ利息ハ破産財團ニ歸スト曰ヘリ予輩ハ前説ニ依ルヲ正當ナリト信ス反對ノ場合即チ異議ヲ正當ト爲ス判決カ確定シタルカ(商法第一〇二七條又ハ在外債權者カ別ニ定メタル期間ニ債權ノ届出及ヒ調査ヲ爲スニ届出ヲ爲ササルトキハ留存ノ割前ヲ更ニ債權者間ニ分配ス何トナレハ其割前モ亦破産財團ノ一部分ニ外ナラサレハナリ)債權者ハ正當時期ニ届出テス且商法第一千二十九條ノ又ハハ且ト解釋スルヲ正當ナリト信ス何トナレハ債權ヲ正當時期ニ届出ラサルモ調査會ニ於テ調査シテ確定シタルトキハ財團ノ配當ニ與ルニ妨ナケレハナリ商法第一〇二五條第四項上段債權ノ確定セサル債權者ハ配當ニ與ルヘキ債權者ニ非ス故ニ管財人ハ配當案ニ此種ノ債權者ノ氏名等ヲ記載スルノ必要ナシ然レトモ商法第一千二十

五條第四項ノ規定ニ基キ爾後債權カ確定シタルトキハ爾後ニ爲スヘキ財團ノ配當ニノミ加入スルコトヲ得是レ届出期間懈怠ノ爲メニ失權ヲ來ス主義ヲ排斥シタル當然ノ結果ナリ近世文明諸國ノ法律殊ニ佛蘭西商法第五百三條獨逸破産法第五百五十五條ニ依レハ懈怠ノ爲メニ失權ヲ來ス立法主義ヲ排斥シ苟モ破産手續カ終結セサル以上ハ破産債權者ハ届出及ヒ確定ノ手續ヲ履ミ而モ届出遅滞ノ爲ニ生スル損害ヲ避クルヲ得セシメタリ故ニ債權ヲ正當時期ニ届出ラサル債權者ハ爾後ノ配當ニ於テ現存スル財團ヨリ正當時期ニ届出ヲ爲シタレハ受クヘカリシ割前ヲ先ニ支拂フヘキコトヲ求ムルヲ得セシメタリ我商法ニ於テ此先拂請求權ヲ認メタルヤ否ヤハ明文上疑ナキニシモ非スト雖モ破産ノ目的ヨリ推理シテ積極的ニ論決スルヲ正當トス但前ニ實行シタル配當ニ依リ割前ヲ受取リタル部分ニ付キ減少等ヲ要求セラレルコトナシ蓋シ配當ニ因リ一旦有效ニ支拂ヒタルモノハ破産財團ニ非サレハナリ此關係ヲ形容シテ獨逸ノ大家コーレル氏ハ配當ハ互ニ獨立スト曰ヘリ我商法第一千二十九條財團ノ配當ニノミ加ハルコトヲ得、明文ハ此法意ヲ證明スルニ足ルト謂フコトヲ得

(B) 中間ノ配當手續ハ中間ノ配當ハ配當案ヲ確定シタル後ニ之ヲ爲ス。中間ノ申立アリタルモ其落著シタルトキニ確定ス。商法第一〇四七條異議落著ノ手續ヲ略言セシニ配當案變更ニ付キ利益ヲ有スル債權者ハ自己ノ債權カ正當ニ配當案ニ表示セラレタル場合ナルト他債權者ノ債權カ不當ニ表示セラレタル場合ナルトヲ問ハズ自衛方法トシテ配當案備付ノ公告ノ日ヨリ起算シ十四日內ニ配當案ニ對スル異議ヲ破産裁判所ニ申立ツルコトヲ得財團債權ヲ有スル者ハ異議ヲ申立ツルノ權利カシ何トナレハ此種ノ債權者ハ配當案變更ニ付キ毫モ利益ヲ有セザレハナリ破産者亦然リ何トナレハ破産者ハ債權調査會ニ於テ異議ノ方法ニ依リ債權ノ確定ヲ妨タルコトヲ得サルモノナレハナリ。商法第一〇四六條第二項此異議申立ニ對スル相手方ハ管財人ハ外ニ異議ヲ申立テラレタル配當案ハ變更ニ付キ損害ヲ受クヘキ各破産債權者ナルヘキナリ。異議申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得民事訴訟法第一三五條準用

破産裁判所ハ異議申立ニ付キ裁判ヲ爲ス此裁判ハ職權ヲ以テ各關係人ニ送達セサルヘカラス民事訴訟法第二四五條準用而シテ若シ裁判ノ内容カ異議ヲ正當ト認メ配當案ノ變更ヲ命シタルトキハ送達ノ外變更シタル配當案ヲ書記課ニ備ヘ且其旨ヲ公告セサルヘカラス商法第一〇四六條第一項準用蓋シ此場合ニ於テ異議ニ對スル裁判ニ對シテハ我法律上別ニ明文ナキモ民事訴訟法第五百五十八條ノ準用トシテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ。商法施行條例第二四條商法施行法第一四七條異議申立ヲ却下シタル裁判ニ對シテハ異議申立ヲ爲シタル債權者ヨリ又異議ノ申立ヲ正當ト認メ配當案ノ變更ヲ命シタル裁判ニ對シテハ管財人其他之ニ因リ損害ヲ受クヘキ者ヨリ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ言フ竣タス抗告裁判所カ配當案ノ變更ヲ命シタルトキハ送達ノ外ニ變更シタル配當案ヲ破産裁判所書記課ニ備ヘ置キ且其旨ヲ公告セサルヘカラス又抗告裁判所ノ裁判ニ對シテ再抗告ヲ爲スコトヲ得ルヤ言フ竣タス而シテ抗告ノ途カ杜絶セラレタルトキハ期間ノ經過等茲ニ異議カ落著シタルモノト謂フコトヲ得ヘシ。

(乙) 配當ノ實施ヲ畧言センニ法律ハ

第一 配當ニ與ルコト能ハサル債權者カ配當額ヲ受クルノ危險ヲ豫防スルノ目的ヲ以テ管財人ハ各債權者ヲシテ其債權證書ヲ提出セシメ之ニ毎回ノ支拂額ヲ記シテ支拂ヲ爲スヘキモノトシ若シ紛失等ノ原因ニ由リ債權證書ノ提出不能ノトキニ限り破産主任官ノ認可ヲ得テ債權表ニ依リ支拂ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス

第二 受取高ニ關スル紛争ヲ豫防スルノ目的ヲ以テ債權者カ配當案ニ受取書ヲ記スルコトヲ要件ト爲シタリ(商法第一〇四七條參照)

(丙) 最後ノ配當手續 破産財團ヲ換價シ及ヒ其賣得金ノ配當ヲ終了シタルトキハ終結手續トシテ

(甲) 主任官ハ債權者集會ヲ招集シ管財人ハ此集會ニ於テ卸任ヲ得ルカ爲メニ終局計算ヲ爲シ債權者ハ計算ノ當否其他換價シ得ヘキ破産財團ノ存否ニ付キ討議シ以テ配當ヲ終結スルノ當否ヲ議決ス蓋シ最後ノ配當手續ハ破産手續ノ終結ヲ來シ破産手續中ニ生シタル錯誤又ハ不公平ヲ更正スルコト能ハサルカ

如キ各利害關係人ニ重大ナル結果ヲ來スヲ以テ手續ニ鄭重ヲ悉サシムルノ法意ニ出ツ

(乙) 破産裁判所ハ主任官ノ申立ニ因リ破産手續ノ終結ヲ決定ス蓋シ破産裁判所ヲシテ法定要件ノ存否ヲ調査セシムルノ法意ニ出ツ(商法第一〇三七條第二項參考)此決定ニ對シテハ法律上別ニ明文ナキヲ以テ不服申立ヲ爲スコトヲ得サルモノトス隨テ裁判所カ職權ヲ以テ破産當事者ニ裁判ノ送達ヲ爲スハ不必要ナリト謂フヘシ然レトモ此決定ハ破産宣告ノ效力ノ消滅身上的結果ヲ除クヲ知ラシムルニ在リ而シテ破産手續終結ノ效力ハ公告カ有效ト爲ル日時ヨリ發生スルモノト知ルヘシ(商法第一〇四八條)

最後ノ配當手續後尙ホ配當スヘカリシ破産財團カ發見異議ヲ正當ト認メタル確定判決、在外債權者ノ特定期間内ニ届出ヲ爲ササル事實ニ基テ割前留存ノ原因消滅(商法第一〇二九條)解除條件附債權ニ付キ條件成就ヲ認メタル確定判決ニ因リ先ニ支拂ヒタル配當額ノ拂戻等ニ因リ現存スルニ至リタルトキハ破産法案ニ於テハ追加ノ配當ト稱シ終局配當ノ附屬若クハ補充トシテ管財人カ破

産裁判所ノ指揮監督ノ下ニ於テ配當スヘキ旨ヲ規定シタリ現行破産法ニ於テ此點ニ付キ明文ナキハ立法上ノ缺點ナリ然レトモ解釋上斯ル場合ニ於テハ前ニ爲シタル最後ノ配當ハ商法第四十八條ニ規定セル「財團ノ換價及ヒ配當ヲ全ク終リタルトキ」ノ要件ヲ缺クヲ以テ無効ノ配當手續トシテ更ニ配當ヲ爲スヘキモノト云フヲ正當ト認ム

(D) 配當手續終結ノ結果 配當手續カ終局レタルトキハ破産手續ノ目的ヲ達シタル結果トシテ各關係人ニ對シ破産關係ノ消滅ヲ來スノ效果ヲ生ス故ニ

(1) 配當ニ因リ債權ノ完済ヲ得サリシ各債權者ハ破産者ニ對シ各別的ニ其權利ヲ實行スルコトヲ得ヘク又破産手續ニ於テ確定シタル權利ニ關シテハ確定ト記載セラレタル調書商法第一〇二五條第一項又ハ確定判決ノ原本カ強制執行ノ債務名義ト爲ル故ニ債權者ハ之ニ基キ強制執行ヲ爲スヲ得ヘシ

(2) 破産者ハ財産ノ管理及ヒ處分權ノ喪失ヲ回復ス故ニ爾後有效ニ財産ヲ取得シ又ハ債務ノ支拂ヲ爲スヲ得ヘシ(商法第一〇四九條)

破産債權者トシテ配當ニ與リタル債權者ハ爾後同一債權ニ付キ破産者タリシ

債權者カ支拂ヲ爲ササルヲ理由トシテ再ヒ破産宣告ノ申立ヲ爲スヲ得ス何トナレハ破産手續終結以後ニ於テハ破産財團ナルモノ存セサレハナリ然レトモ破産手續終局後新債權ヲ取得シタルトキハ此債權ノ支拂停止ヲ理由トシテ破産宣告ノ申立ヲ爲シ得ルヤ言フ埃タス何トナレハ這ハ新ナル破産宣告ノ申立ナレハナリ他人カ破産手續終結後破産者タリシ債務者ニ對シ債權ヲ取得シ且破産宣告ヲ申立テ破産裁判所カ之カ決定ヲ爲シタルトキハ破産債權者タリシ債權者ハ破産債權者トシテ配當ニ加入スルコトヲ得ヘシ(商法第一〇三三條)……總債權者……)

(ニ) 協諾契約(強制和議) 破産者ハ破産宣告ノ效力トシテ破産手續中破産財團ニ屬スル財産ニ付キ管理及ヒ處分ヲ爲スノ權能ヲ喪失ス斯ル狀態ハ成ルヘク短期ナルコトヲ會社政策ノ希望スル所ナリトス協諾契約ハ多クノ時間ヲ要スル配當ニ依ラスシテ破産手續ヲ終結スルノ方法ナルヲ以テ會社政策ノ希望ニ適ス破産手續カ配當ニ依リテ終結スル場合ニ於テハ爾後破産者ハ其經濟上ノ地位ヲ回復スルコト頗ル困難ナリ協諾契約ハ配當ニ依ラスシテ破産手續ヲ終

結スルノ方法ナルヲ以テ爾後破産者ヲシテ其經濟上ノ地位ノ回復ヲ容易ナラシム配當ニハ多クノ時間ト費用トヲ要シ又破産財團ヲ適當ニ換價スルコト能ハサル事情アルコトアリ協諧契約ハ配當ニ依ラスシテ破産手續ヲ終結スルノ方法ニシテ且破産者ノ親族朋友等カ破産者ノ爲メニ該契約ノ履行ヲ擔保スルコトアリ故ニ破産債權者ハ配當ニ依ルヨリモ協諧契約ニ依リ破産手續ヲ終結スルヲ利益トス此ノ如ク協諧契約ハ會社政策ニ適シ破産者及ヒ破産債權者ノ利益ト爲ル是レ各國ノ破産法ニ於テ協諧契約ヲ採用シタル所以ナリ(商法第一〇三八條以下破産法案第二八六條以下但破産法案ニ於テハ強制和議ト云ヘリ是レ現行破産法ノ字句ヲ修正シタルニ止マレリ協諧契約ノ性質ヲ一變スルノ趣意ニ非サルナリ(協諧契約ノ本質)

(甲) 意義 協諧契約トハ破産者及ヒ破産者ノ爲メニ參加シタル者ト破産債權者團體トノ間ニ締結シ且裁判所ノ認可ヲ經タル訴訟的契約ニシテ一旦開始シタル破産手續ヲ配當ニ依ラスシテ終結スルコトヲ目的トスルモノナリ左ニ之ヲ分説スヘシ

(1) 協諧契約ハ契約ナリ、元來協諧契約ノ性質ハ學者間ニ論争アル所ニシテ或ハ協諧契約ハ裁判所ノ認可即チ破産の請求ヲ裁判其モノニ於テ定メタル方法ニ從ヒテ終局スルコトヲ確定シタル裁判ニシテ破産者ノ爲メ協諧契約ノ提供ハ裁判ヲ求ムル申立ニシテ契約上ノ意思表示申込ニ非ス法定要件ノ下ニ於テ成立シタル破産債權者多數ノ意思表示ハ協諧契約ナル裁判ヲ下スノ淵源ヲ爲スモノニシテ契約上ノ意思表示(承諾)ニ非スト立論シ又或ハ協諧契約ヲ以テ破産者ノ提供破産債權者ノ決議及ヒ裁判所ノ認可ナル三箇ノ法定事實ニ因リテ成立スル特種ノ法律行為ニシテ裁判ニ非ス又契約ニ非スト立論シ或ハ又賛成シタル多數ノ破産債權者カ協諧契約ニ拘束セラルルハ協諧契約ノ契約タル性質ノ然ラシムル所ニシテ又賛成セサル多數ノ破産債權者カ協諧契約ニ拘束セラルルハ法規ノ力ニ依ルモノニシテ協諧契約ノ契約若クハ裁判タルノ性質ニ基クモノニ非サルヲ以テ協諧契約ハ混成の性質ヲ有シ單一的性質ヲ有スルモノニ非スト立論シ或ハ協諧契約ハ契約ニシテ裁判ニ非ス協諧契約ニ付テノ裁判所ノ認可ハ裁判所カ協

破産法 手續規定 破産手續ノ進行 特別

諸契約ノ要件存スル旨ヲ確保スルノ行為ニシテ其立法上ノ理由ハ單ニ協諸契約ノ濫用ヲ避ケルニ在リ故ニ協諸契約ノ本質ハ破産手續ノ終結ヲ目的トシタル破産當事者ノ合致シタル當事者ノ意思ニシテ裁判所ノ認可ニ非スト立論セリ予輩ハ我破産法ノ解釋トシテ後者ヲ正當ト認ム是レ協諸契約ヲ以テ契約ナリト謂フ所以ナリ

(2) 協諸契約ハ一旦開始シタル破産手續ヲ配當ニ依ラスシテ終結スルコトヲ目的トスル訴訟的契約ナリ
協諸契約ハ一旦開始シタル破産手續ヲ配當ニ依ラスシテ終結スルコトヲ目的トスル訴訟的契約ニシテ民事訴訟法上ノ和解ト其性質ヲ同シウス故ニ協諸契約ハ其内容トシテ或法律關係債務ノ免除履行ノ猶豫擔保ノ供與ヲ確定シ又其效力トシテ破産手續ヲ終結スルモノナリ此ノ如ク協諸契約ハ訴訟的契約ニシテ民法上ノ和解ニ非ス故ニ契約ニ關スル民法ノ規定ハ破産法ニ故テ別段ノ定ナキトキニ非ナレハ協諸契約ニ之ヲ準用スルコトヲ得ス
(3) 協諸契約ハ破産者ト破産債權者間ニ締結トノ間ニ成立セル契約ナリ(商法第一

〇三八條 破産法案第二八六條第二九三條

協諸契約ハ前述ノ如ク一ノ契約ナルヲ以テ其成立ニ付キ當事者アルヤ言フタス而シテ當事者ノ一方ハ破産者ナルコト疑ナシト雖モ他ノ一方ハ何人ナルヤニ關シテハ學者間ニ爭アル所ナリ破産宣告ノ效力トシテ破産債權者團體ノ發生ヲ否認スル學者ハ協諸契約ニ付キ贊成シタル多數ハ各債權者カ當事者ナリト立論シ且此派ニ屬スル學者ハ協諸契約カ反對少數ノ債權者ヲ羈束スルノ理由ヲ説明シテ贊成多數ノ債權者カ反對少數ノ債權者ヲ法律上代理スルカ故ナリト立論シ或ハ立法者ノ命令ニ基クモノナリト立論セリ破産ノ效力トシテ破産債權者團體ノ發生ヲ是認スル學者ハ破産債權者團體カ當事者ナリト立論シ且此派ニ屬スル學者ハ協諸契約カ總破産債權者ニ對シ又ハ其爲メニ效力ヲ有スル理由ヲ説明シテ破産債權者團體カ其機關タル破産債權者集會ニ依リテ破産者ノ申込ヲ承諾シタルニ在リト曰ヘリ(獨逸ニ於テハ獨リコレル氏カ一面ニ於テハ破産債權者團體ノ存在ヲ認メ他ノ一面ニ於テハ破産債權者カ單獨ノ權利者トシテ協諸契約ヲ締結スト立論シ且協諸契約カ反對少數ノ債權者ノ

利益及ヒ不利益ニ於テ效力ヲ有スル理由ヲ破産の差押権ハ唯一的ニ消滅スルコトヲ得ルノミナルカ故ナリト立論セリ予輩ハ後説ヲ正當ナリト思フ蓋シ破産債權者團體ノ存在ヲ否認スル學說ハ協諧契約カ反對少數ノ破産債權者ヲ羈束スルノ法理ヲ説明スルニ適セザレハナリ是ヲ以テ債權者集會ニ於テ各破産債權者カ協諧契約ノ提供即チ申込ニ付キ爲シタル賛否ニ關スル意思表示ハ申込ニ對スル承諾若クハ拒絕ニ非スシテ決議ニ關スル意思ノ表示ナリ適法ノ多數決ニテ成立シタル債權者集會ノ決議カ承諾若クハ拒絕ナリト知ルヘシ協諧契約ノ民法的效果ヲ擔保スル保證人ハ協諧契約ノ當事者ナリ故ニ民法上ノ效力タル擔保責任ヲ負フト同時ニ訴訟上ノ效力トシテ總破産債權者殊ニ届出ヲ爲サナリシ破産債權者ニ對シテ責任ヲ負フ

(4) 協諧契約ノ成立ニハ裁判所ノ認可ヲ要ス(商法第一〇四〇條破産法案第三〇一條)

認可ハ裁判所ニ於テ協諧契約ヲ許スヘキ要件具備スト認めタル場合ニ之ヲ完成セシムルノ行爲ニシテ單ニ既存ノ法律關係ヲ認定スルニ止マル裁判ニ非ス

然ニ裁判所ノ認可ハ協諧契約ノ形式の成立要件ニシテ之ニ依リテ協諧契約ノ訴訟の效力及ヒ民法の效力發生ス隨テ一旦裁判所ノ認可アリタル以上ハ縱令協諧契約ノ前提要件ニ錯誤アルトキト雖モ之ニ依リテ協諧契約ノ效力ヲ害スルコトナシ然レトモ裁判官カ誤リテ第三者ヲ協諧契約上ノ保證人ト前提シテ認可ヲ與ヘタルトキハ之ニ依リテ協諧契約ハ法律上效力ヲ發生スルコトナシ何トナレハ第三者ハ斯ル認可ニ因リテ協諧契約ニ羈束セララルルノ理ナク且協諧契約ノ效果ハ關聯シテ分離スルコト能ハサルモノナレハナリ此ノ如ク協諧契約ノ成立ニ付キ裁判所ノ認可ヲ要スル理由ハ蓋シ協諧契約カ破産債權者ヲ詐害スルノ目的ヲ以テ濫用セラレ立法ノ精神ニ背馳シ多數ノ破産債權者及ヒ國家ノ利益ヲ害スルコトアルヲ以テナリ是ヲ以テ裁判所ハ協諧契約カ公益ニ觸ルル所ナキカ法定ノ要件ヲ缺キタル所ナキヤ否ヤヲ調査シ斯ル欠缺ナキモノト認めタルトキハ其旨ヲ確保シ斯ル欠缺アリト認めタルトキハ認可ヲ拒ムコトヲ要ス而シテ此目的ヲ達スルニハ決定ナル形式ヲ以テスルヲ最モ適當ナリトス是ヲ以テ法律ハ訴訟の形式ヲ以テ協諧契約ノ認可ヲ扱ハシム

(乙) 成立手續 協議契約ハ裁判所ノ認可ニ因リテ破産者ト破産債權者團體トノ間ニ於テ締結セラレル契約ナルヲ以テ其成立ニ關シ破産者ノ提供即チ申込破産債權者團體ノ可決即チ承諾及ヒ裁判所ノ認可ヲ要件トスルヤ言フ埃タス左ニ之ヲ分説スヘシ

(A) 提供 協議契約ノ提供ハ法律上ノ義務ヲ履行シ且有罪破産ノ判決ヲ受ケス又ハ其審問中ニ在ラサル破産者カ法定ノ方法ニ基キテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノタリ

(B) 協議契約ハ主トシテ破産者ノ利益ノ爲メニ存ス(商法第一〇三八條)破産者ニシテ故ニ唯破産者ノミカ協議契約ノ申込ヲ爲スコトヲ得管財人各破産債權者及ヒ破産主任官等ハ之ヲ爲スコトヲ得ス但破産者ニ對シ協議契約ノ申込ヲ爲スヘキ旨ヲ勸誘スルコトヲ得ルヤ言フ埃タス是ヲ以テ破産者カ訴訟能力者ナルトキハ其本人又ハ其相續人カ協議契約ノ提供ヲ爲スコトヲ得破産者カ法人其他訴訟無能力者ナルトキハ其法定代理人カ破産者ニ代リテ其權利タル協議契約ノ提供ヲ爲スモノト知ルヘシ破産者ノ遺産相續人カ數人アル

場合ニ於テハ該相續人カ一致スルニ非スンバ協議契約ノ申込ヲ爲スコトヲ得ナルヘシ(民法第一千三條參考)

協議契約ハ協議契約ヲ許スモ其履行ノ見込ナキ事情ノ存スル場合ニ於テハ之ヲ許スコトヲ得ス破産者カ法律上ノ義務ヲ履行セス或ハ有罪破産ノ判決ヲ受ケ又ハ其審問中ニ在ル場合ハ前示ノ事情ノ存スル場合ニ外ナラサルヲ以テ協議契約ノ締結ヲ許サス隨テ斯ル破産者ハ協議契約ノ提供ヲ爲スコトヲ許サス(商法第一〇三八條法律上ノ義務ヲ履行セサル破産者トハ商法第九百七十九條第九百九十條第九百九十一條第一千二百三十五條等ノ規定ニ反シタル破産者タリ有罪破産ノ確定判決ヲ受ケタル破産者トハ詐欺破産者及ヒ過怠破産者トシテ罰セラルタル者タリ有罪破産ノ審問中ニ在ル破産者トハ有罪破産ニ關スル豫審若クハ公判ノ訴訟手續カ繫屬セラレタル被告人タリ

(b) 協議契約提供ノ法定ノ方法トシテハ

第一 破産者ハ準備手續トシテ少クモ第一債權者集會期日ヨリ二十日前ニ協議契約ノ申立書ヲ破産裁判所ニ提出シ該裁判所ハ之ヲ其書記課ニ備ヘ公衆ノ

展閱ニ供シ且其旨ヲ公告ス是レ相手方タル破産債権者團體ニ熟慮ノ期間ヲ與フルカ爲メナリ故ニ申立書ニハ協諧契約提供ノ内容ヲ明示セサルヘカラス而シテ法律ハ協諧契約申立書ノ提出カ唯第一債権者集會期日ヨリ二十日前タルヲ以テ要件ト爲シタルニ止マルカ故ニ債務者ハ該申立書ヲ破産宣告ヲ求ムル申立ト同時ニ提出スルコトヲ妨ケラレス又該申立書ハ協諧契約ノ準備書面ニ止マリ其提供ニ非サルヲ以テ破産者カ債権者集會ニ於テ協諧契約ノ申込ヲ爲ササルトキハ協諧契約ノ成立ナシ(商法第一〇三八條第二項申立書トアルカ故ニ書面申立ニ限定スルノ法意ナリト解スヘカラス破産者ハ口頭ニテ斯ル申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ但斯ル場合ニ於テ裁判所書記カ調書ヲ作成シ之ヲ申立書ニ代用スルヤ當然ナリ)

第二 破産者ハ通常第一債権者集會ニ於テ主任官ノ認可ヲ經テ協諧契約ノ提供ヲ爲ス(書面又ハ口頭ニテ)主任官ノ認可ヲ經ルコトヲ要スルハ主任官ヲシテ要件ノ存否理由ノ有無ヲ豫斷シ徒ニ債権者集會ノ議事ヲ擾亂セシムルニ止マル破産者ノ行爲ヲ防止スルニ在リ故ニ主任官ハ協諧契約ノ提供ヲ形式及ヒ實

體上不當ナリト認ムル場合ニ於テハ命令ヲ以テ排斥スルコトヲ得(商法第九八三條第一〇三八條)通常第一債権者集會ニ於テ提供スルコトヲ要スルハ債権調査完結後ニ非スンハ破産債権ノ數額及ヒ破産債権者ノ員數ヲ確認スルコト能ハサルヲ以テ破産債権者團體トシテ正確ニ協諧契約ノ當否ヲ判定スルコト能ハサルカ故ニ通常ノ債権調査會ヨリ四週日後ニ於テ開會スヘキ第一債権者集會ニ於テ協諧契約ノ提供ヲ爲シタルヲ正當ト認メタルニ在リ故ニ第一債権者集會以後ニ於テ協諧契約ノ提供ハ之ヲ許サス是レ破産手續ノ進行ヲ延滞セシムルノ虞アレハナリ但十分ノ理由アルトキ即チ破産手續ノ進行ニ多少ノ延滞ヲ來スモ協諧契約ノ成立カ當事者ニ利益多キトキハ例外トシテ協諧契約ノ提供ヲ許ス(商法第一〇三八條第一項)其他支拂停止ノ日時ノ確定ヲ要ス何トナレハ支拂停止ノ日時ノ確定ノ如何ニ因リ破産者ノ取引ニ影響ヲ及ホシ債権者ノ員數ニ減少ヲ來ス所アルヲ以テナリ(附則ハ破産者ハ其ノ事務ノ進行ニ多少ノ延滞ヲ來スモ協諧契約ノ提供ハ一回ニ限リテ之ヲ許シ二回ノ提供ヲ許サス其理由ハ第三 協諧契約ノ提供ハ一回ニ限リテ之ヲ許シ二回ノ提供ヲ許サス其理由ハ(1)破産手續ノ進行ニ付キ延滞ヲ來ス損害ヲ避ク(2)破産者カ成ルヘク協諧契約

上ノ負擔ノ輕微ナルコトヲ欲スルカ爲メニ試験的ニ數回ノ協諧契約ノ提供ヲ爲スノ弊害ヲ避クルニ在リ(商法第一〇三八條) 二(四)ノ協諧契約ヲ其債權ノ破産者ノ協諧契約ノ提供ハ破産債權者團體カ承諾スルマテ之ヲ取消スコトヲ得協諧契約ノ提供ヲ承諾スル以前ニ於テ破産者死亡スルトキハ該提供ハ其效ヲ失フ但破産者ノ承繼人ハ新ニ内容ヲ同シウシ又ハ之ヲ異ニスル協諧契約ノ提供ヲ法定ノ方法ヲ經テ爲スコトヲ得ルヤ當然ナリ

(c) 協諧契約ノ提供ニハ其内容トシテ債權者ニ満足ヲ享有セシムル方法及ヒ其擔保方法ヲ明示セサルヘカラス協諧契約ハ債務ノ免除及ヒ履行ノ猶豫ノ方法ニ依リ債權者ニ満足ヲ享有セシムルニ外ナラサルヲ以テ協諧契約ノ提供ニハ債務ノ一部免除ノ割合又ハ債務ノ履行猶豫ノ時間若クハ此二者ヲ明示セサルヘカラス隨テ斯ル明示ヲ缺ク提供ハ其效ナシ

協諧契約ノ提供ニハ債權者カ代物辨濟ニテ満足ヲ享クル旨ヲ明示スルコトヲ得其債權者ハ破産債權者ノ數員タルコトアリ又ハ全員タルコトアリ其代物辨濟ノ用ニ供スル破産財團ハ財團ノ二三タルコトアリ又ハ全體タルコトアリ蓋

シ破産債權者ハ破産財團ニ屬スル特定ノ財産又ハ全部ノ財産ヲ自己ニ移轉セシメ之ヲ裁判外ニテ配當シ或ハ破産債權者中ノ一人カ破産財團全部ヲ取得シ之ト同時ニ他ノ破産債權者ニ對シ特定ノ割合ニ於ケル満足ヲ享有セシムル債務ヲ負フ旨ノ協諧契約ヲ締結スルコトヲ得レハナリ其他協諧契約ノ提供ニハ第三者カ破産者ノ連帶債務者トシテ又ハ保證人トシテ債權者ニ其満足ノ享有ヲ擔保スル旨ヲ明示スルコトヲ得ヘシ然レトモ停止條件若クハ解除條件ニテ爲ス協諧契約ノ提供ハ法律ノ許ササル所ナリ蓋シ條件附提供ハ協諧契約ノ締結ヲ條件ニ繋ラシメ隨テ破産手續ノ終局ヲ條件ニ繋ラシメテ不確定ト爲ルヲ以テナリ(獨逸ノ「コーレル氏」ハ反對說ヲ主張セリ)又始期ヲ附シタル協諧契約ノ提供ハ該期日ノ到來マテハ其效ヲ生スルコトナク終期ヲ附シタル協諧契約ノ提供ハ破産者カ何時ニテモ該提供ノ取消ヲ爲スコトヲ得ルカ爲メニ何等ノ實益ナシ

(B) 承諾 協諧契約ノ承諾ハ破産債權者團體カ法定ノ方法ニ基キテ之ヲ爲ス

(a) 協諧契約ノ相手方ハ破産債權者團體タルコト前述ノ如シ故ニ其機關タル

債權者集會ニ於テ承諾ニ關スル意思ヲ表示ス協譜契約ハ配當ニ依ラスシテ破産手續ノ終局ヲ目的トスルモノナルコト前述ノ如シ故ニ協譜契約ノ提供ニ關スル承諾ノ意思表示ニ付テハ議事ハ配當ニ依ル破産手續終結ノ決議認可以前ニ於テ爲スコトヲ要ス

(b) 協譜契約ノ法定方法トシテハ

第一 破産者若クハ其代理人カ集會期日ニ出頭シテ協譜契約ノ提供ヲ爲サナルヘカラス然ラスンハ協譜契約ノ提供ナキヲ以テ協譜契約ノ成立スルコトナクシテ集會期日カ終了スレ協譜契約ニ關スル手續カ口頭タルコトヲ要スルカ爲メナリ但破産者ノ期日ノ懈怠カ已ムコトヲ得サルノ理由ニ基クトキハ延期スルコトヲ得ヘシ破産者ノ爲メニ協譜契約ニ參加スル第三者ハ集會期日ニ於テ擔保ヲ爲ス旨ヲ申立テサルヘカラス而シテ此第三者ハ本人ニテ又ハ代人ニテ集會期日ニ出頭スルコトヲ得ルハ言ヲ缺タス

協譜契約ノ提供カ其申立書ニ記載シタルモノト内容ヲ異ニスルコトアリ斯ル場合ニ於テハ該内容ノ變更ハ破産債權者團體ノ利益ニ歸スルヤ否ヤヲ區別シ

前者ノ場合ニ於テハ協譜契約ノ提供トシテ之ヲ取扱フコトヲ得ヘシト雖モ後者ノ場合ニ於テハ縱令集會期日ニ出頭シタル總破産債權者カ可決シタルトキト雖モ協譜契約ヲ締結スルニ足ル提供トシテ取扱フコトヲ得ス何トナレハ期日ニ出頭セサル者ニ不利益ヲ被ラシムル法則ハ斯ル場合即チ閣席判決ヲ爲ス場合ニ非サル場合ニ適用ナケレハナリ

第二 債權者ノ集會ニ參加スルコトヲ得ル各債權者カ協譜契約ノ締結ノ當否ヲ決議ス蓋シ協譜契約締結ノ當否ハ一ノ會議事項ナレハナリ故ニ(1)集會ニ參加スルコトヲ得ル債權者ハ破産者ノ親族又ハ配偶者タルノ理由ヲ以テ協譜契約ノ決議ニ參加スルコトヲ妨ケラレス然レトモ此種ノ債權者ハ破産者トノ情實上之ニ利益ナル協譜契約締結ニ容易ニ賛成スルノ虞アリ是ヲ以テ破産裁判所ハ認可ノ際ニ嚴重ナル調査ヲ爲スヘキモノナリ(商法第一〇四一條第二項(2))優先權ノ確定シタル債權者ハ其優先權ヲ拋棄スル限度又ハ其不足ノ限度ニ於テ協譜契約ノ締結ノ決議ニ加ハルコトヲ得而シテ優先權アル債權者ハ協譜契約締結ノ決議ニ加ハリタルカ爲メニ優先權ヲ喪失スルコトナキハ我破産法ノ

解釋トシテ特ニ明文ナキヲ以テ疑ヲ容レヌ(3)管財人ニシテ債權者タルモノ亦協諧契約ノ締結ニ關スル決議ニ參加スルコトヲ得

第三 協諧契約ノ承諾ニハ特別ノ多數決即チ總債權額ノ四分ノ三以上ニ當ル出席員ノ過半数ノ可決アルヲ要ス(商法第一〇三九條第一項)斯ル特別ノ多數決ヲ要スルハ協諧契約ノ成立カ當事者ニ重大ナル利害關係アルヲ以テナリ債權額ト債權者ノ員數トノ多數決ヲ要スルハ少額多數ノ債權者若クハ多額少數ノ債權者ニ協諧契約ノ締結ニ關スル全權ヲ掌握セザラシムルノ法意ナリ總債權額即チ出席シタル債權者ノ有スル債權額ニ非シテ届出テタル債權額ノ四分ノ三ニ當ル多數決ヲ要スルハ期日ニ出頭セサル債權者ノ利益ヲ擔保スルノ法意ニシテ又議決權アル債權者ノ過半数ニ非スシテ集會期日ニ出席シタル議決權アル債權者ノ過半数ニ當ル多數決ヲ要スルハ商法第三十六條前段ト同一ノ法意ニ出テ且協諧契約ノ成否ヲ債權者ノ多數ノ怠慢ニ係ラシメサルノ法意ニ出テ而シテ債權者カ期日ニ出席シタルモ協諧契約ノ成立ニ付キ賛否ノ意思ヲ表示セス若クハ該意思ノ表示カ無効ナルトキハ該表示ヲ承諾ノ計算ニ入ル

ルコトヲ得ス何トナレハ法律ハ協諧契約ノ承諾トシテ議決權ヲ有シ且有效ニ該權利ヲ行使シタル債權者ノ過半数カ明示的ニ協諧契約ノ成立ニ賛成シタルコトヲ要シタレハナリ隨テ協諧契約ノ利益ヲ害ストノ理由ヲ以テ賛否ノ意思ヲ表示セサル者ハ其表示以前ニ退席シタル者ト同シク出頭セサル者ト認ムヘシトノ論旨ハ正當ト謂フヘカラス

總債權額ノ四分ノ三以上ニ當ル出席債權者ノ過半数カ協諧契約ノ締結ヲ可決シタルトキハ協諧契約ノ提供ニ對スル破産債權者團體ノ承諾ヲ成シ唯裁判所ノ認可手續カ終了セサルノミ故ニ破産當事者ニ於テハ完全ニ協諧契約カ成立シ各當事者ヲ羈束ス隨テ破産者ハ爾後協諧契約ノ提供ヲ自由ニ取消スコトヲ得ス又破産者カ死亡スルモ協諧契約ニ何等ノ影響スル所ナシ之ニ反シテ協諧契約ノ提供ニ對シ總債權額ノ四分ノ三ニ當ラサル出席債權者過半数ノ決議總債權額ノ四分ノ三ニ當ルモ出席債權者ノ過半数ニ充タサル決議若クハ總債權額ノ四分ノ三ニ當ラス出席債權者ノ過半数ニ充タサル決議カ成立シタルトキハ協諧契約ノ提供カ拒絶セラレタルモノト爲ル而シテ協諧契約ノ提供ハ前述

ノ如ク一回ニ限り許サルヘキモノナルヲ以テ商法第一〇三八條第一項協譜契約ノ提供力一旦拒絶セラレタル以上ハ爾後如何ナル事情ノ變更ヲ來スモ協譜契約ヲ以テ破産手續ヲ終局スルコトヲ得サルハ是レ立法上嚴格ニ失スト謂ハサルヲ得ス

(c) 協譜契約ノ提供ニ關スル議決手續ノ進行ノ大要該提供ノ變更議決ノ結果及ヒ決議ニ加ハリタル債權者ノ氏名竝ニ其贊否ハ之ヲ債權者集會ノ調書ニ記載セサルヘカラス(民事訴訟法第一二九條乃至第一三二條而シテ該調書ハ一ノ公正證書ナレハ其反對ヲ證スルニハ偽造ノ申立ニ依ラサルヘカラス

(d) 認可 協譜契約ノ提供ニ對スル承諾ニ因リテ破産者參加第三者及ヒ破産債權者團體トノ間ニ契約力成立シ各營事者ハ自由ニ之ヲ取消スコトヲ得ス而シテ該契約カ協譜契約トシテ有效ナルニハ尙キ破産裁判所ノ認可ヲ要ス(商法第一〇四〇條其理由ハ前述シタル所ナリ依テ左ニ認可ニ關スル裁判手續ヲ略述スヘシ

(A) 認可ニ關スル裁判手續 破産裁判所ハ破産者各破産債權者及ヒ管財人ノ

申立ニ因リ契約ノ成立後十日ノ期間滿了後ニ於テ主任官ノ意見ヲ聽キ決定ノ形式ヲ以テ協譜契約ノ認可ニ關スル裁判ヲ爲ス故ニ認可ニ關スル裁判ノ前手續トシテ第一ニ破産者各破産債權者及ヒ管財人ノ申立アルヲ要ス破産者及ヒ各破産債權者ハ利害關係人トシテ又管財人ハ執行機關トシテ認可ヲ求ムルノ申立權ヲ有シ申立ノ方式及ヒ其期間ハ法定セサル所ナリ是レ申立人ノ意思ニ一任スルノ法意ナリ故ニ申立ハ書面又ハ口頭ニテ爲スコトヲ得ヘシ我商法草案理由書ニ依レハ破産裁判所ハ申立ニ因ラスシテ職權ヲ以テ認可ニ關スル裁判ヲ爲スモノノ如シト雖モ法律上明文ナキヲ以テ不告不理ノ原則ニ基キ申立ニ因リテ認可ニ關スル裁判ヲ爲スモノト解スルヲ正當ナリト認ム第二ニ破産裁判所ハ契約ノ成立ヨリ十日ノ期間カ滿了シタル後ニ非スンハ認可ニ關スル裁判ヲ爲スコトヲ得ス(商法第一〇四〇條末段是レ協譜契約ノ成立ニ對シ異議ヲ申立ツルノ期間ヲ存スルノ法意ナリ議決權ヲ有スル債權者及ヒ協譜契約可決後ニ至リ債權ノ確定シタル債權者ハ自衛方法トシテ協譜契約ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得管財人モ亦然リ佛蘭西商法ハ管財人タル職務ノ性質上破産

關係者多數ノ利益ニ反スル行為ヲ爲スコトヲ得サルモノニシテ異議申立權ヲ認メサレトモ我商法ハ起草者ノ説ニ基キテ管財人ニ該權ヲ認メタリ蓋シ多數決ハ必スシモ破産關係者全體ノ利益ト謂フヘカラス又不法ノ協諾契約ヲ完成セナラシムルヲ要スルヲ以テ管財人ニ斯ル申立權ヲ認ムルハ甚タ正當ノ立法ナリト謂フヘシ破産者ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス何トナレハ若シ之ヲ許スニ於テハ破産者カ債權者團體ノ承諾シタル契約ヲ契約法ノ原則ニ反シ異議申立ノ形式ヲ以テ取消スニ至ルヘキヲ以テナリ優先權者假確定ヲ認許セラレタル債權者及ヒ協諾契約可決ノ後ニ於テモ未タ債權ノ確定セサル債權者亦然リ此等ノ者ハ法律ノ保護ヲ要スルニ足ルヘキ利害關係ヲ有セサレハナリ異議ハ理由ヲ付シ協諾契約ノ成立後十日内ニ管轄裁判所ニ申立テサルヘカラス而シテ法律上明文ナキモ異議申立書ノ原本ヲ破産者管財人等ニ送達シ防禦方法ヲ準備セシムルヲ適當トス(商法第一〇三九條第二項其他破産裁判所ハ主任官ノ演述ヲ聽キタル後ニ非スシハ認可ニ關スル裁判ヲ爲スコトヲ得ス其理由ハ前述シタル所ナリ然レトモ裁判以前ニ債權者管財人等ヲ審訊シ之ニ意見ヲ表示

報 紙

○高等研究科擔任表

民法及ヒ行政法	法學士 松浦鐵次郎	同 第五編	法學博士 松波仁一郎
民法第一編	法學博士 富井 政章	國際公法	法學博士 高橋 作衛
同 第二編	法學士 横田 秀雄	同	法學士 秋山雅之介
同 第三編	法學博士 梅 謙次郎	國際私法	山口 弘一
同 第四編及ヒ第五編	法學士 掛下重次郎	民事訴訟法第五編マテ	法學士 齋藤 十一郎
刑法總論	法學士 牧 野 英一	同 第六編以下	法學士 板倉松太郎
同 各論	法律學士 古賀 廉造	刑事訴訟法	法學士 中川孝太郎
附註第一編、第二編、第三編第九章マテ及ヒ第四編	法學博士 岡野敬次郎	經濟學	法學士 河津 暹
同 第三編第十章	法學博士 栗津 清亮	法理學	法學博士 藤 積 隆
同 第三編第十章	法學士 栗津 清亮		

○抵當權ノ實行 抵當權ノ實行トハ抵當權者カ債權ノ辨濟ヲ得サルニ當リ

抵當權ノ目的物ニ依リ他ニ優先シテ辨濟ヲ得ヌトスル行動ニ外ナラス而シテ我民法ニ於テハ抵當權ノ實行ハ必ス競賣ノ方法ニ依ルヘキモノトセルモ(第三八七條其競賣ハ民事訴訟法ニ依ルト競賣法ニ依ルトヲ問ハサルカ故ニ其競レニ依ルモ抵當權ノ實行タルヲ失ハサルヘシ然ルニ大阪控訴院ニ於テ強制競賣ニ依ル競賣ハ民法第三百八十一條ニ所謂抵當權ノ實行ニ非サルモノノ如ク解釋シ大審院ノ破毀スル所ト爲リタル一判例ヲ示サンニ曰ク抵當權ハ民法第三百六十八條ニ於テ明ナル如ク債權ノ擔保ニ供セラレタル不動産ニ付キ優先ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ謂フモノナレハ抵當權者カ抵當不動産ヲ競賣ニ付スルハ其競賣法ニ依ル競賣ナルト將タ民事訴訟法ニ依ル強制競賣ナルトヲ問ハス尙クモ抵當不動産ニ付キ優先ノ辨濟ヲ受クル爲メナル以上ハ抵當權ノ實行ニ外ナラス而シテ抵當權者カ其抵當權ヲ實行セント欲スルトキハ豫メ地上權等ヲ取得シタル第三者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要スルハ民法第三百八十一條ノ規定スル所ニシテ此通知後法定ノ期間内ニ右ノ第三者ヨリ抵當債權ノ辨濟又ハ撤除ノ通知ヲ受ケサルトキ此ニ始メテ抵當權者ニ於テ抵當不動産ノ競賣ヲ請

求シ得ル權利ヲ生ス可キモノタルコトハ民法第三百八十七條ノ規定ニ照シ明瞭ナリ然レハ同條ノ通知ハ地上權者ノ權利ニ影響スルコト尠ナラサルヲ以テ原院ニ於テ上告人カ抵當權實行ノ通知ナキコトヲ抗辯シタル上ハ原院ハ宜シク其通知ノ有無ヲ確定シ競賣ノ適法ナリシヤ否ヤヲ判斷スヘキ管ナルニ事爰ニ出ラス抵當不動産強制競賣ハ抵當權ノ實行ニアラサルモノノ如ク誤解シタル結果抵當權實行ノ通知ヲ不問ニ付シタルハ不法ニシテ云云(大審院明治十九年五月十一日第二民事部判決)

明治十九年五月十一日第二民事部判決

○流水使用ニ關スル水利組合ノ議決權

水利組合會ノ議決事項ハ水利組合條例第二十一條ニ列記セリ此規定ハ制限的ノモノナリヤ將タ水利ニ關スル事項ハ總テ之ヲ議決シ得ルモノト解スヘキカ此問題ハ殆ト疑ナキ所ナルモ茲ニ大審院ノ判例ヲ示サンニ曰ク抑モ水利組合ナル者ハ水利土功ニ關スル事業ニシテ府縣郡全般ニ關係ナク又タ一市町村ノ區域ニモ符合セス若クハ二市町村以上ニ涉リ爲メニ各市町村ヲシテ各別ニ管理セシムルヲ得ヌ又一市町村全部ヲシテ之ニ當ラシムル能ハサル場合ニ其利害關係アル各市町村若クハ各節

人ヲ以テ組織スル團體ニシテ水利組合條例第一條用悪水等ノ保護ニ關スル事業ノ爲メニ設置スルニ在レハ同條例第三條該組合ハ水路ノ保護管理ヲ爲シ團體各自ノ流水使用權ヲ完全満足ニ行使セシムルヲ以テ目的トスルモノナルコト言フ埃タス已ニ然ラハ井堰其他流水ノ保存水路ノ保護等ノ爲メニ必要トスル營造物其モノノ保存管理ニ關スル事項ニ止マラス其流水ノ使用權ニ影響スヘキ事項即チ流水引用工事ノ新設等ニ關シテモ亦タ組合ニ於テ議決ノ權限アルコト明白ナリトス又水利組合條例第二十一條ニハ組合會ノ議決ノ權限項ヲ列舉シアリテ流水使用ニ關シテハ議決ノ權ナキカ如シト雖モ同條ハ明文ノ示ス如ク組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目ヲ例示シタルニ過キサレハ該條ニ明文ナキ故ヲ以テ直ニ組合會ニ議決ノ權ナシト云フヲ得ス（大審院明治三十七年五月二十日第一民事部告示）前出ヤマシヤノ民事部告示ニ於テハ

水利組合條例第一條ノ「水利組合會」ニ關シテハ該條ニ明文ナキ故ヲ以テ直ニ組合會ニ議決ノ權ナシト云フヲ得ス（大審院明治三十七年五月二十日第一民事部告示）前出ヤマシヤノ民事部告示ニ於テハ

● 學生會

本大學學生會... 奉即入用...

● 大學

● 專門

● 高等

● 大學

● 專門

● 高等

人ヲ以テ組織スル團體ニシテ(水利組合條例第一條用惡水等ノ保護ニ關スル事業ノ爲メニ設置スルニ在レハ)同條例第三條該組合ハ水路ノ保護管理ヲ爲シ團體各自ノ流水使用權ヲ完全満足ニ行使セシムルヲ以テ目的トスルモノナルコト言フ族タス已ニ然ラハ井堰其他流水ノ保存水路ノ保護等ノ爲メニ必要トスル營造物其モノノ保存管理ニ關スル事項ニ止マラス其流水ノ使用權ニ影響スヘキ事項即チ流水引用工事ノ新設等ニ關シテモ亦タ組合會ニ於テ議決ノ權限アルコト明白ナリトス又水利組合條例第二十一條ニハ組合會ノ議決スヘキ事項ヲ列舉シアリテ流水使用ニ關シテハ議決ノ權ナキカ如シト雖モ同條ハ明文ノ示ス如ク組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目ヲ例示シタルニ過キサレハ該條ニ明文ナキ故ヲ以テ直ニ組合會ニ議決ノ權ナシト云テテ得スト(大審院明治三十七年五月二十日第一民事部告示)

●學生募集

本大學新學年授業ハ來九月十二日ヨリ開始ス入學志願者ハ速ニ申込ムヘシ學則入用ノ向ハ申越次第贈呈スヘシ

●**大學部** 本大學豫科卒業者又ハ之ト同資格者及中學校卒業者又ハ之ト同資格者ニシテ入學試験ニ及第シタル者又ハ他ノ同等學校豫科卒業者ヲ入學セシム

入學試験 來九月十五日(午前八時)ヨリ施行ス

●**專門部** 法律科 入學試験來九月十日、十月三日各午前八時ヨリ施行ス
實業科 來九月二十六日及十月十二日(各午後五時三十分)ヨリ施行ス

上級編入試験 來九月二十六日及十月十二日(各午後五時三十分)ヨリ施行ス

●**高等研究科** 隨時入學ヲ許ス

●**大學豫科** 第貳期編入試験 來九月十五日午前八時ヨリ施行ス

●**聽講生** 隨時入學ヲ許ス

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

九月

司法部指定
文部省認定

私立**法政大學**

法學志林

第五十九號

(八月十五日發行)

○捕獲法ト公船 法學博士 松波仁一郎

○軍用病院船ニ關スル特權ノ範圍
ヲ論ス 法學士 秋山雅之介

志林 ○最近判例批評 法學博士 梅 謙次郎

○「借財」ノ意義ニ關シ志方鍛君ニ
答フ 法學博士 梅 謙次郎

○權利ノ新種類ニ就テノ研究 法學博士 志田御太郎

纂論 ○露國新手法(七) 注科大學生 佐竹三吾

解疑 ○會社ノ不行爲能力及其範圍 法學士 松本蒸治

判例 ○大審院新判決例 二十九件

雜報 ○法政速成科ノ無休暇○拿捕事件ノ決議○軍人家族救護
三關スル通譯○學位授與式○露國ノ海軍○露國ノ警察
北滿時宗ノ乘機○遼陽ノ壓迫○會社ノ登記
件ノ其後○詳數漢ノ恐懼○暴行看守ノ處理○未だ四國ノ誠

記事 ○來學年各科擔任講師○實業懇話會○校友異動○寄贈書目

(明治三十三年) 十月十六日 十一月十二日 第三種郵便物認可
每月十回 日三五八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行

明治三十七年九月五日印刷
明治三十七年九月八日發行

(定價金貳拾錢)

編輯者 東京市牛込區牛込北町十番地 萩原敬之

印刷者 東京市牛込區矢來町三番地 小宮山信好

印刷所 東京市芝區西ノ久保明倉町十一番地 金子活版所

發行所 東京市總町區富士見町六丁目十六番地

發行所 司法省 指定 法政大學

(電話番町百七十四番)